

## 上野古屋敷遺跡 2

中根・金田台特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 X

平成 20 年 3 月

独立行政法人 都市再生機構茨城地域支社  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第307集

うえ の ふる や しき  
上野古屋敷遺跡 2

中根・金田台特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書 X

平成 20 年 3 月

独立行政法人 都市再生機構茨城地域支社  
財団法人 茨城県教育財団

## 序

茨城県は、つくば市を日本における科学技術の研究開発の中核として、さらに国際交流の拠点としてふさわしい街づくりを進めております。この新しい街づくりの一環として、つくば市と独立行政法人都市再生機構茨城地域支社は、市と首都圏を直結する「つくばエクスプレス」の整備と同時に、その沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を計画的に推進しています。

財団法人茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団つくば開発局（現独立行政法人都市再生機構茨城地域支社）から開発区域内における埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成8年度から平成13年度にかけて中根中谷津遺跡、東岡中原遺跡、金田西遺跡、金田西坪B遺跡、九重東岡廃寺、上野陣場遺跡、上野古屋敷遺跡の調査を実施してまいりました。その成果は、当財団の「文化財調査報告」第139・155・159・170・182・195・209・251・285集としてすでに報告したところであります。

本書は、平成18年度に調査を実施した上野古屋敷遺跡の成果を収録したものであります。本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者である独立行政法人都市再生機構茨城地域支社から多大なご協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、ご協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成20年3月

財団法人 茨城県教育財団  
理事長 人見 實 徳

## 例 言

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年9月から平成19年3月まで発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字上野字天神553番地ほかに所在する上野古屋敷遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。  
調 査 平成18年9月1日～平成19年3月30日  
整 理 平成19年4月1日～10月31日
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。  
首席調査員兼班長 櫻 村 宣 行  
主任調査員 田 中 幸 夫  
主任調査員 花 見 勝 博
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、副主査川井正一が担当した。

## 凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅱ系座標を原点とし、 $X = +12,880m$ 、 $Y = +26,080m$ の交点を基準点 (A1a) とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0とし、名称は大調査区の名称を冠して「A1a1区」のように呼称した。

- 2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を( )を付して併記した。

- 3 遺構・遺物・土層の実測図、一覧表、遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SD - 溝跡 SI - 竪穴住居跡 SK - 土坑 PG - ビット群

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 P - 土器・陶器・磁器 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器

土層 K - 攪乱

- 4 土層観察と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 5 土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。


- 6 遺構・遺物実測図の縮尺は、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、遺構実測図は原則60分の1とした。

(2) 遺物実測図は原則として3分の1で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺を表示した。

(3) 遺構及び遺物の実測図中の表示は次のとおりである。

 焼土・赤彩・施軸  炉・火床面・繊維土器断面

 竈部材・粘土範囲・黒色処理

●土器・陶器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 ——硬化面

- 7 遺物観察表及び遺構一覧表の作成方法は、次のとおりである。

(1) 遺物番号は通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(2) 計測値の単位はcm及びgで示した。

(3) 遺物観察表及び遺構一覧表とも( )は現存値、[ ]は推定値であることを示している。

(4) 備考欄には、土器の現存率及び写真図版番号の他に、必要と思われる事項を記した。

- 8 「主軸」は、竈(炉)を有する竪穴住居跡については竈(炉)を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸」及び「長軸」の方向は、それぞれの軸が座標北からみて、どの方向にとれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

- 9 遺構番号については、各遺構毎に既調査時の最終番号の次から付した。

## 抄 録

ふりがな	うえのふるやしきいせき							
書名	上野古屋敷遺跡2							
副書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	X							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第307集							
編著者名	川井正一							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行年月日	2008(平成20)年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
上野古屋敷遺跡	茨城県つくば市 大字上野字天神 553番地ほか	08220   510	36度 6分 48秒 (36度 7分 00秒)	140度 7分 33秒 (140度 7分 21秒)	26 ~ 28m	20060901 ~ 20070331	3,427m <sup>2</sup>	中根・金田 台特定土地 区画整理事 業に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上野古屋敷遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡	12軒 3基 土坑 遺物包含層	1か所	縄文土器(深鉢)、石器・石製品(鏃・石匙・磨石・石斧・石棒・球状耳飾り・垂飾り)、剥片		
		弥生	竪穴住居跡	3軒		弥生土器(壺)、土製品(紡錘車)		
	古墳	竪穴住居跡	9軒 4基 溝跡	1条		土師器(坏・埴・器台・高坏・椀・壺・甕・甌・ミニチュア土器)、土製品(球状土鍾)、石製品(勾玉・白玉・紡錘車)、埴輪		
		平安	竪穴住居跡	2軒		土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(高台付坏)、灰軸陶器(短頸壺)土製品(球状土鍾)		
	幕城	近世	墓坑	2基		金属製品(煙管)		
	その他	中・近世	土坑 溝跡	6基 7条		土師質土器(小皿・鍋・火鉢)、陶器(小皿)、磁器(碗)、鉄製品(釘・費)		
		時期不明	土坑 溝跡	66基 6条	3か所			
要約	当遺跡名が示すように、当城は現在の上野地区の故地と言われ、調査区には古屋敷の字名が残っている。調査の結果、縄文時代早・前・中期、弥生時代後期、古墳時代前・中期、奈良・平安時代、中世後半と断続的に集落が営まれた旧石器時代から江戸時代までの複合遺跡であることが判明した。							

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	2
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
(1) 竪穴住居跡	13
(2) 陥し穴	34
(3) 土坑	37
(4) 遺物包含層	60
2 弥生時代の遺構と遺物	70
竪穴住居跡	70
3 古墳時代の遺構と遺物	78
(1) 竪穴住居跡	78
(2) 土坑	106
(3) 溝跡	110
4 平安時代の遺構と遺物	111
竪穴住居跡	111
5 中・近世の遺構と遺物	116
(1) 墓坑	116
(2) 土坑	118
(3) 溝跡	120
6 その他の遺構と遺物	123
(1) 土坑	123
(2) 溝跡	132
(3) ビット群	133
(4) 遺構外出土遺物	135
第4節 まとめ	137
写真図版	PL1～PL26

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

つくば市は、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい街づくりを進めている。その一環として取り組んでいるのが、西暦2005年8月開業の「つくばエクスプレス」の建設とそれに伴う沿線の開発である。中根・金田台地区については、住宅・都市整備公団つくば開発局（平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に、平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に、平成16年7月から独立行政法人都市再生機構茨城地域支社に名称を変更）を事業主体として、土地区画整理事業を進めている。

平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長から茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は平成7年5月15日～6月8日に現地踏査を行い、上野古屋敷遺跡については平成11年8月10～12日、9月30日、11月26・29・30日、12月1・15日、平成12年1月14・17～19日に試掘調査をそれぞれ実施し、遺跡の所在を確認した。平成12年2月15日、茨城県教育委員会教育長は、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、事業地内に上野古屋敷遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成12年3月21日、都市基盤整備公団茨城地域支社長から茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3の第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘についての通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、計画変更による現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成12年3月23日、都市基盤整備公団茨城地域支社長から、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成12年3月24日、茨城県教育委員会教育長は、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに上野古屋敷遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、都市基盤整備公団茨城地域支社長から上野古屋敷遺跡埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成12年7月1日から10月31日まで第1次調査、平成13年4月1日から平成14年3月31日まで第2次調査を実施した。

平成16年6月28日、茨城県教育委員会は上野古屋敷遺跡の試掘調査を再度実施した。平成16年7月5日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに事業地内に上野古屋敷遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成18年2月24日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成18年2月24日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに上野古屋敷遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。



財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成18年9月1日から平成19年3月31日まで、上野古屋敷遺跡の発掘調査を実施することとなり、発掘調査を開始した。

## 第2節 調査経過

上野古屋敷遺跡の調査は、平成18年9月1日から平成19年3月31日までの7か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認		■						
遺構調査			■					
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■					
補足調査 概 取								■

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

上野古屋敷遺跡は、茨城県つくば市大字上野字天神553番地ほかに所在している。

つくば市は茨城県の南西部に位置し、東方約5kmには霞ヶ浦、北端には筑波山がある。当遺跡付近の地勢は、筑波山の南西麓を南下する桜川の低地と、西側を小貝川によって限られた標高25~26mでほぼ平坦な筑波・稲敷台地からなっている。この台地には、花室川、蓮沼川、東谷田川、西谷田川など中小河川が南流して、台地縁部を樹枝状に開析している。そのため、谷津や低地が南北に細長く発達し(第1図)、北から南に細長く延びる舌状台地が形成されている。桜川によって大きく開析された流域には、標高約5mほどの沖積低地が形成され、台地との標高差は約20mである。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり、地質的には、新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積している。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上部に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層、さらにその上部に関東ローム層が堆積し、最上部は腐植土層となっている<sup>9)</sup>。関東ローム層は、新期ロームに属し、武蔵野ローム、立川ロームに比定され、軽石層の分布から、富士・箱根火山群の活動に由来するものと考えられる。

当遺跡は、つくば市の東部(旧新治郡桜村)、桜川右岸の北側に張り出した標高25~28mの舌状台地上に立地している。台地は長さ500m、幅250mで、北西側と東側に幅の狭い支谷が入り込み、その低位面との比高は約10mである。支谷を挟んだ約100m北西の台地上には上野陣場遺跡が所在している。

当遺跡とその周辺の土地利用の現状は、台地縁辺部の一部が雑木林・杉林のほか、台地上は主に畑地として利用されている。また、遺跡の位置する舌状台地を挟むように入り込む支谷は水田または休耕田であり、桜川流域の低地は水田として利用されている。

### 第2節 歴史的環境

上野古屋敷遺跡は縄文時代前期、古墳時代前・中期及び中・近世を中心とした旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。ここでは、桜川と花室川流域の同時代の遺跡を中心に分布の概要について述べる。

旧石器時代の遺跡数は他の時代と比べて極めて少ない。10か所の石器集中地点が確認され、3か所の石器集中地点からナイフ形石器、搔器、楔形石器、尖頭器、石核、石刃、剥片などが多数出土した花室川左岸の東岡中原遺跡<sup>54)</sup>のほか、桜川左岸の北条中台遺跡<sup>55)</sup>、花室川左岸の柴崎遺跡<sup>56)</sup>、蓮沼川左岸の阿間神田遺跡<sup>57)</sup>などからナイフ形石器や尖頭器が出土している。

縄文時代の遺跡は、多数確認されている。桜川右岸では、柴崎遺跡(早期~前期、後期)、上野天神遺跡(中期)(4)、花室遺跡(中期~晩期)(46)、金田西坪B遺跡(中期~晩期)(56)、上境旭台貝塚(後期~晩期)(73)、中根中谷津遺跡(後期~晩期)<sup>58)</sup>(71)などがあり、下流域には国指定史跡の土浦市上高津貝塚がある<sup>59)</sup>。

弥生時代の遺跡は他の時代と比べて少なく、隣接する上野陣場遺跡<sup>60)</sup>(5)や、北西1.5kmに位置している王取岡山遺跡<sup>61)</sup>で集落跡が確認されているほか数か所である。

古墳時代の遺跡は、当流域では61遺跡が確認されている。桜川右岸では、当遺跡と谷津を挟んで北西に位置

する上野陣場遺跡で、前期の小集落と後期の大集落が確認されている。また、後期の集落が確認されている柴崎遺跡、中期の集落が確認されている東岡中原遺跡のほか、栗原中台遺跡(14)、栗原大山遺跡(10)、上境作ノ内遺跡(76)などの包蔵地が数多く存在している。桜川右岸では、小田橋遺跡で後期の集落が確認されているほか、岡の宮遺跡がある。古墳は、当遺跡に隣接して当地域最大の全長80mの前方後円墳上野天神塚古墳(3)、上野定使古墳群(2)がある。その他、栗原愛宕塚古墳(11)、栗原十日塚古墳(9)をはじめ、桜川右岸台地縁辺部に玉取古墳群、円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪が出土した上境滝ノ古墳群(74)、埴輪片・石楕破片が出土した横町古墳群(63)、前方後円墳2基・円墳1基から構成される松塚古墳群(27)などが確認されているが、様相が判明している古墳の時期はいずれも後期である。

奈良・平安時代の当該地は、河内郡菅田郷に属し、北は筑波郡に接している。12世紀には田中の庄に属していた。菅田郷の郷域は、『新編常陸国誌』によれば、現在のつくば市松塚を東端とし、横町、中根、金田、上野、上境、柴崎、東岡、妻木、さらに花室川を越えて学園都市の中央部である吾妻、天久保を経て、菊間、大橋、新井、柳橋と蓮沼川に沿って南西へ広がり、大白船、小白船を西限とした地域に比定している<sup>18)</sup>。この地域における奈良・平安時代の遺跡は41か所確認されているが、蓮沼川流域は希薄で、桜川と花室川に挟まれた中根、金田を中心とする台地上に集中している。すなわち、当遺跡の南約2kmに位置し、国指定史跡である金田官衙遺跡(金田西遺跡(59)・金田西坪A遺跡(57)・金田西坪B遺跡)、九重東岡庵寺(58)を中心として、約4km四方に密集している。金田西坪A遺跡は従来から河内郡家の正倉跡と推定されていたが、2002年に金田西・金田西坪B遺跡及び九重東岡庵寺の確認調査を実施したところ、多数の掘立柱建物跡等が確認され、河内郡家の郡庁院、正倉院及び関連建物群であることが明らかになった<sup>19)</sup>。九重東岡庵寺は、礎石、瓦塔、瓦、蔵骨器などが出土しており、確認調査で基壇の一部と溝、堂宇と想定される掘立柱建物跡が検出されているが、寺域や伽藍配置等については不明である<sup>20)</sup>。河内郡家の周辺には、西側に隣接し、金田官衙遺跡とはほぼ同時期に展開し密接に関係する集落跡と考えられている東岡中原遺跡、北西約2kmにあり160軒以上の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された柴崎遺跡、竪穴住居跡70軒、掘立柱建物跡11棟や水室状遺構と考えられている大形円形土坑等が確認されている上野陣場遺跡などが存在している。これらの集落は、河内郡家を支えた集落と考えられている。

中・近世以降の遺跡は、近年の分布調査で数多く確認され、中世は54遺跡、近世は50遺跡に及んでいる<sup>18)</sup>。当遺跡に隣接している柴崎遺跡では、中世の方形竪穴遺構が95基確認され、12～13世紀の集落跡と想定されている。また、栗原古塚遺跡(17)、栗原沼向遺跡(19)、栗原白旗遺跡、栗原土器屋遺跡(29)などの包蔵地も確認されている。これ以外に城館跡も多く、桜川右岸には方穂城跡、柴崎片岡館跡(69)、金田城跡(60)、花室城跡(45)、上ノ室城跡があり、桜川左岸には小田氏の居城であった国指定史跡小田城跡、田土部館跡などが位置している。当地域は鎌倉時代から室町時代にかけては小田氏、戦国時代においては小田氏と佐竹氏の支配下となり、中世末まで上野地区は上境・中根・土器屋・松塚・横町・柴崎地区で一郷を構成し、筑波郡と境を接することから境郷とも呼ばれていた。江戸時代は上野・栗原地区は堀氏王取藩の知行地であったが、旧桜川の多くは土浦藩に属することになり、明治4年(1871年)の廃藩置県に至っている。さらに仏教関連では、筑波山の南、三村山麓一帯には中世寺院群が位置し、つくば市三村山清冷院極楽寺跡には、13世紀半ば、大和の高僧忍性が来往して、布教に努めたと伝えられている<sup>21)</sup>。

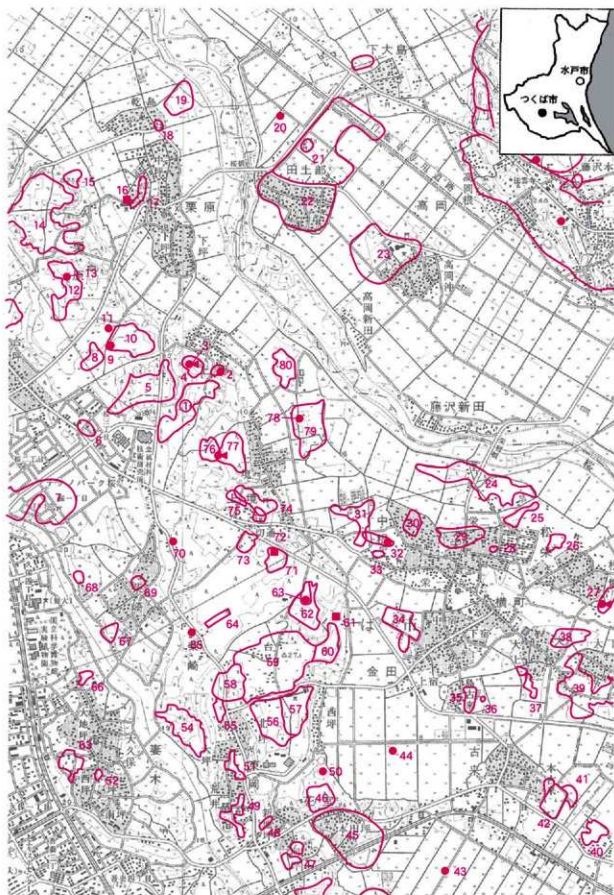
当該地は当遺跡の名称「上野古屋敷」が示すように、現在のつくば市大字上野地区の集落が中世後半に所在したと言われている故地であり、遺跡内に小字で「古屋敷」の地名が残るところである。この上野地区の南東に隣接する上境地区にも、桜川沿いの微高地に小字で「古屋敷」の地名が残る区域があり、上境古屋敷遺跡

(79)として「茨城県遺跡地図」<sup>16)</sup>に登録されている。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1中の該当遺跡番号と同じである。

註

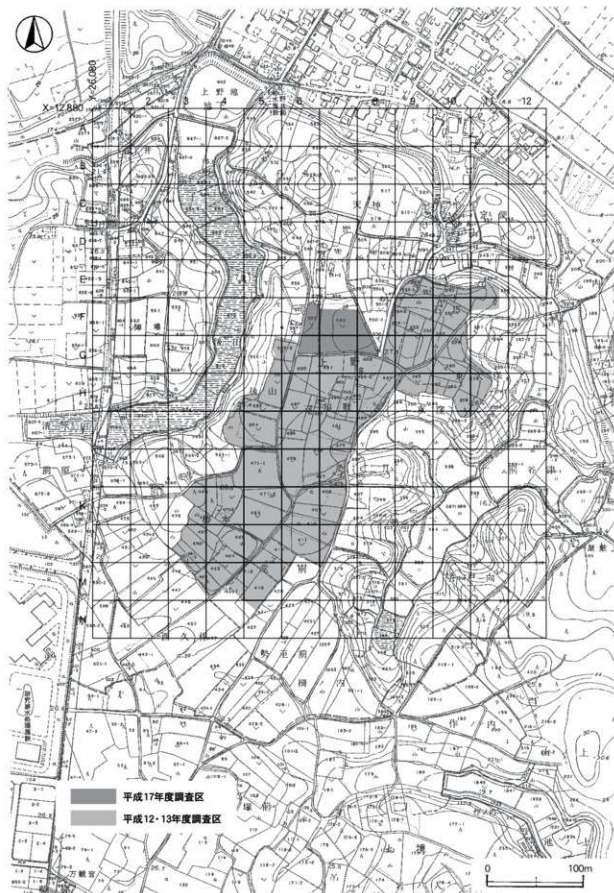
- 1) 大森昌衛・蜂須紀夫「茨城の地質をめぐって」『日曜の地学』8 築地書館 1979年9月
- 2) a 成高一也・宮田和男「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 中原遺跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第159集 2000年3月  
b 白田正子・高野節夫・仲村浩一郎・島田和宏「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年3月  
c 駒澤悦郎「東岡中原遺跡4 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第251集 2004年3月
- 3) 吉川明宏・新井聡・黒澤秀雄(仮称) 北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第102集 1997年12月
- 4) a 土生朗治「研究学園都市計画桜菜崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 菜崎遺跡Ⅱ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集 1992年3月  
b 萩野谷悟「研究学園都市計画桜菜崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ) 菜崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集 1994年9月
- 5) 川村満博(仮称) 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 中谷津遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第139集 1998年9月
- 6) 佐藤孝雄・大内千年編「国指定史跡上高津貝塚A地点-史跡整備に伴う発掘調査報告書-」土浦市教育委員会 1994年3月
- 7) 川上直登・長谷川聡・大塚雅昭「上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第182集 2002年3月
- 8) a 石橋光・関口友紀「玉取遺跡-火葬場建設に伴う発掘調査報告-」つくば市教育委員会 2000年3月  
b 奥沢哲也「玉取向山遺跡 県立つくば養護学校(仮称) 整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第263集 2006年3月
- 9) 黒澤彰哉ほか「小田橋遺跡」筑波町教育委員会 1986年3月
- 10) 桜村史編さん委員会『桜村史 上巻・下巻』桜村教育委員会 1982年3月
- 11) 中山信名著 栗田寛補訂「新編常陸国誌」宮崎報恩会版 叢書房 1978年12月
- 12) 白田正子「金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡庵寺 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第209集 2003年3月
- 13) a 九重庵寺遺跡調査団「東岡遺跡-九重庵寺跡調査報告-」桜村教育委員会 1984年3月  
b 白田正子「九重東岡庵寺確認調査報告書1」茨城県教育財団 2001年3月
- 14) a つくば市教育委員会「つくば市遺跡分布調査報告書-谷田部地区・桜地区-」2001年3月  
b つくば市教育委員会「つくば市遺跡地図」2001年7月
- 15) 筑波町史編纂専門委員会『筑波町史 上巻』つくば市 1991年3月
- 16) 茨城県教育庁文化課「茨城県遺跡地図」2001年3月



第1図 上野古屋敷道跡周辺道跡分布図（国土地理院25000分の1「上郷」「常陸藤沢」）

表1 上野古屋敷遺跡周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	時 代							番 号	遺 跡 名	時 代						
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	律 令	中 世	近 世			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	律 令	中 世	近 世
①	上野古屋敷遺跡	○	○	○	○	○	○	○	41	古 来 遺 跡					○	○	
2	上野定使古墳群				○				42	古 来 館 跡					○	○	
3	上野天神塚古墳				○				43	上ノ室条里					○		
4	上野天神遺跡		○						44	金田本田遺跡						○	○
5	上野陣場遺跡	○	○	○	○	○	○	○	45	花室城跡	○	○	○	○	○	○	○
6	上野中塚遺跡	○			○				46	花室遺跡	○			○			
7	柴崎遺跡				○	○	○		47	花室寺山前遺跡	○			○		○	
8	栗原大山西遺跡					○			48	花室溝向遺跡					○		
9	栗原十日塚古墳				○				49	東岡天神前遺跡					○		○
10	栗原大山遺跡				○	○			50	花室大日塚古墳				○			
11	栗原愛宕塚古墳				○				51	東岡南遺跡					○	○	○
12	栗原五竜遺跡	○			○	○	○	○	52	妻木宮前遺跡					○	○	○
13	栗原五龍塚古墳				○				53	妻木坪内遺跡					○	○	○
14	栗原中台遺跡	○	○	○	○	○	○		54	東岡中環遺跡	○	○		○	○	○	○
15	栗原登戸遺跡					○	○		55	東岡中畑遺跡					○		
16	栗原古塚古墳				○				56	金田西坪B遺跡	○		○	○			
17	栗原古塚遺跡					○	○	○	57	金田西坪A遺跡					○		
18	栗原遺跡					○	○	○	58	九重東岡庵寺					○	○	○
19	栗原沼向遺跡				○	○	○		59	金田西遺跡	○		○	○			
20	桶荷塚古墳				○				60	金田城跡							○
21	広畑遺跡				○	○	○	○	61	金田古墳					○		
22	田土部館跡					○			62	横町庚申塚遺跡	○		○	○			
23	五斗内遺跡				○	○			63	横町古墳群					○		
24	中根遺跡				○	○	○		64	柴崎大堀遺跡						○	○
25	松塚鷺打遺跡					○	○		65	柴崎桶荷前古墳					○		
26	松塚高畑遺跡				○	○	○		66	妻木鴻ノ渠遺跡					○	○	
27	松塚古墳群				○				67	柴崎南遺跡	○		○	○	○	○	○
28	柴屋敷付遺跡					○	○		68	柴崎ボツケ遺跡					○		
29	柴土器屋遺跡					○	○	○	69	柴崎片岡上館跡					○	○	○
30	中根屋敷附館跡					○	○		70	柴崎大日古墳						○	○
31	中根不業拔遺跡	○			○	○	○		71	中根中谷津遺跡	○		○	○			
32	中根とりおい塚古墳				○				72	中根中谷津古墳					○		
33	中根宮ノ前遺跡					○	○		73	上境旭台貝塚	○		○				
34	金田竜宮橋遺跡				○	○	○		74	上境滝ノ台古墳群					○		
35	古来北ノ崎遺跡					○	○		75	上境滝ノ臺遺跡	○	○					
36	古来鳥ノ前塚					○	○		76	上境作ノ内遺跡	○	○	○				
37	大南遺跡					○	○	○	77	上境作ノ内古墳群					○		
38	大白畑遺跡					○	○	○	78	上境どんどん塚古墳					○		
39	大寺前遺跡					○	○	○	79	上境古屋敷遺跡					○	○	○
40	吉瀬黄金遺跡					○	○	○	80	上境北ノ内遺跡					○		



第2図 上野古屋敷道路グリッド設定図(独立行政法人 都市再生機構次地域支社・金田台地区現況調整土地図2500分の1)

## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の概要

上野古屋敷遺跡は、つくば市の東部に位置し、桜川右岸の標高25.2~27.9mの舌状台地上に立地している。遺跡の範囲は東西150m、南北450mと広大なものであるが、平成18年度の調査面積は9,349㎡である。

今回の調査は、平成12・13年度に調査を実施した場所の南西部（2区）と北部（3・4区）の2か所について行った。今回報告するのは、北部（3区）の3,427㎡についてである。当遺跡は平成12・13年度の調査で、旧石器時代から江戸時代までの複合遺跡であることが判明している。今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡12軒、陥し穴3基、土坑33基、遺物包含層1か所、弥生時代の竪穴住居跡3軒、古墳時代の竪穴住居跡9軒、土坑4基、溝跡1条、平安時代の竪穴住居跡2軒、中・近世の墓坑2基、土坑6基、溝跡7条、時期不明の土坑66基、溝跡6条、ピット群3か所を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に52箱出土している。主な出土遺物として、縄文時代のものは縄文土器片（深鉢）、石器・石製品（鎌・石匙・磨石・石斧・石棒・球状耳飾り・垂飾り）、弥生時代のものは弥生土器（壺）、土製品（紡錘車）、古墳時代のものには土師器（坏・椀・埴・器台・高坏・壺・甕・瓶・ミニチュア土器）、土製品（球状土錘）、石器・石製品（勾玉・白玉・紡錘車）、金属製品（鎌）、平安時代のものは土師器（坏・高台付坏・甕）、須恵器（坏・高台付坏）、灰釉陶器（短頸壺）、土製品（球状土錘）、中・近世のものは土師質土器（小皿・鍋・火鉢）、陶器（小皿）、磁器（碗）、金属製品（釘・煙管・簧）などである。

### 第2節 基本層序

調査区の南東部（G8d6区）にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った（第3図）。

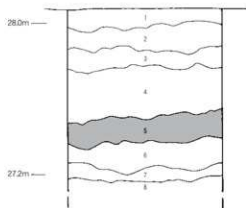
第1層は暗褐色を呈する現耕作土で、粘性・締まりとも普通で、層厚は12~24cmである。

第2層は、褐色を呈するハードローム層への漸移層である。粘性は普通で、締まりはやや強く、層厚は18~23cmである。

第3層は、バミス粒子を少量含む褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は12~24cmである。

第4層は、バミス粒子を多量に含む、にぶい明褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は45~55cmである。

第5層は、バミス粒子を多量、赤色スコリアを微量含む、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は20~28cmである。始良Tn火山灰(AT)を含む層の下に確認された黒色帯であることから第2黒色帯(BB II)に対比される。



第3図 基本土層図

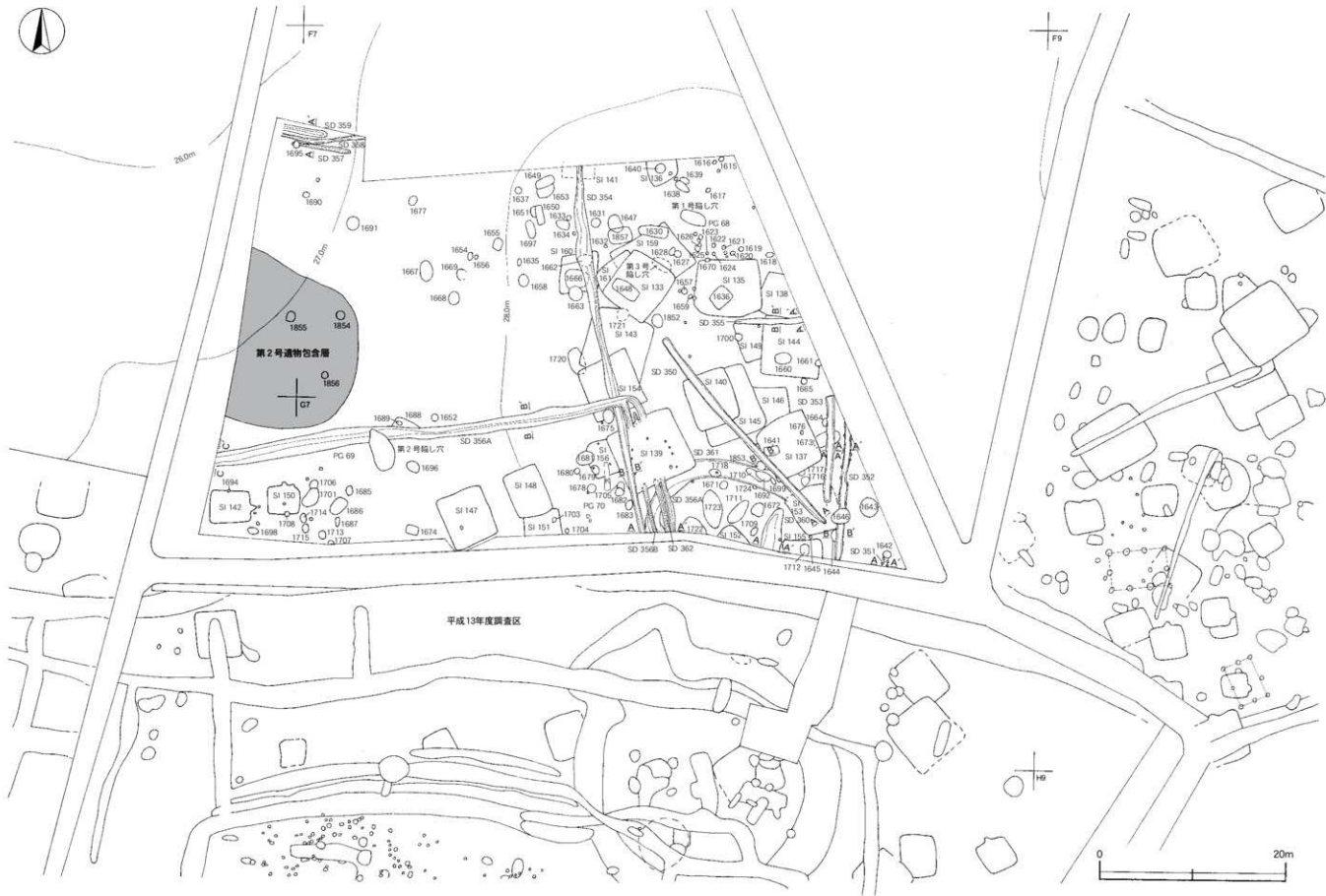


第6層は、赤色スコリアを少量、バミス粒子を微量含む黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は14～35cmである。

第7層は、赤色スコリアを少量含む、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は5～15cmである。常総粘土層への漸移層である。

第8層は、灰白色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は下層が未掘のため不明である。

当遺跡では、標高が高い区域（27m以上）ほどローム層である第3・4層が厚く堆積している。住居跡等、古墳時代以降の遺構は、第2層の上面で確認できたが、縄文時代の遺構の確認は困難であった。



第4図 上野古屋敷遺跡2 遺構全体図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡1軒、陥し穴3基、土坑33基及び遺物包含層1か所が確認されている。これらの遺構は、調査区東半部にあたる標高28mの台地最高部に住居跡、その西側に土坑が分布し、さらにその西側の斜面部に遺物包含層が存在している。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

##### (1) 竪穴住居跡

##### 第136号住居跡 (第5図)

**位置** 調査区北部のF7d0区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 覆土から床面にかけて第164号土坑と第68号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 北側が調査区域外に延びているため、確認できた長軸2.85m、短軸2.23mで、主軸方向がN-25°-Wの隅丸長方形と推測できる。壁高は10~13cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほほ平坦で、中央部の東側と西側に硬化面が認められる。

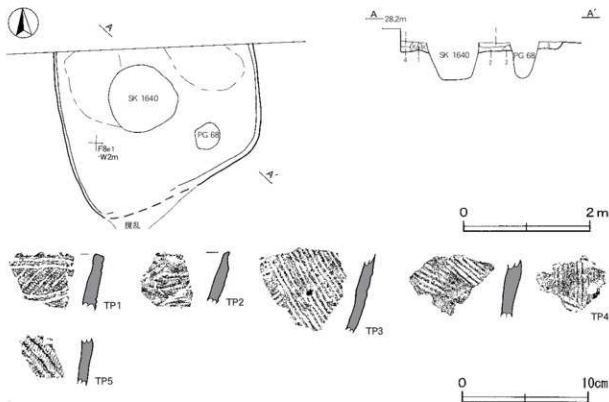
**覆土** 4層に分層できる。観察できた部分が少ないため堆積状況の判断は困難であるが、自然堆積とみられる。

##### 土層解説

1 褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	3 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片28点、剥片1点が覆土中から出土している。土器片はほとんどが細片である。その他、攪乱により混入した土師器片3点、須恵器片2点も出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第5図 第136号住居跡・出土遺物実測図

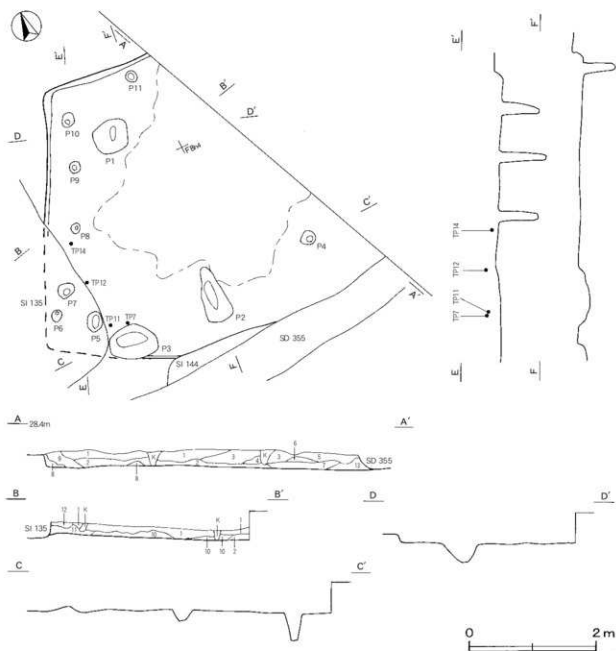
第136号住居跡出土遺物観察表 (第5図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	単節縄文を地文とし2条の連続刺突文	覆土中	PL10
TP 2	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL10
TP 3	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	にぶい褐	普通	条痕文	覆土中	PL10
TP 4	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい橙	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL10
TP 5	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	単節縄文	覆土中	PL10

第138号住居跡 (第6・7図)

位置 調査区北部のF8h3区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南西コーナー部を第135号住居、南部を第144号住居と第355号溝に掘り込まれている。



第6図 第138号住居跡実測図

**規模と形状** 東側が調査区域外に伸びているため、確認できた長軸5.50m、短軸4.82mで、主軸方向がN-66°-Wの隅丸長方形と推測できる。壁高は19~29cmで、ほぼ直立している。

**床** はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

**ピット** 11か所。主柱穴に相当するピットは確認できないが、P5~P11は深さ59~72cmで西壁に沿って存在していることから、上層を支える壁柱穴の可能性はある。

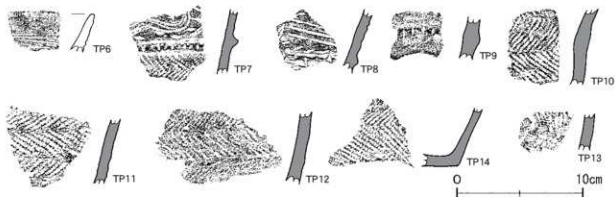
**覆土** 13層に分層できる。8・10層はロームブロックが含まれて人為堆積の可能性はあるが、その他は堆積状況から自然堆積とみられる。

**土層解説**

1	褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量	8	明褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	9	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	10	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	11	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
7	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量			

**遺物出土状況** 縄文土器片50点。剥片1点が覆土中から出土しているほか、攪乱により混入した土師器片2点も出土している。TP7、TP11、TP12、TP14は、南西コーナー寄りの覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。



第7図 第138号住居跡出土遺物実測図

第138号住居跡出土遺物観察表 (第7図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	横位の辻織	覆土中	PL10
TP 7	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい黄橙	普通	陸帯上位に燃赤圧痕文・刺切文 下位に羽状縄文	覆土中層	PL10
TP 8	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	陸帯上位に燃赤圧痕文・刺切文	覆土中	PL10
TP 9	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	にぶい黄橙	普通	陸帯上位にキザミ	覆土中	PL10
TP10	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	暗赤褐	普通	羽状縄文	覆土中	PL10
TP11	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	褐	普通	羽状縄文	覆土中層	
TP12	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	明赤褐	普通	羽状縄文	覆土中層	
TP13	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	にぶい褐	普通	貝殻散緑文	覆土中	
TP14	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	にぶい褐	普通	羽状縄文	覆土中層	

**第141号住居跡 (第8図)**

**位置** 調査区北部のE7d8区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 中央部を第354号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 北側が調査区域外に伸びていることと、床面しか確認できなかったため、東西軸は推測3.54mで、南北軸は1.44mだけ確認できた。確認状況から隅丸方形あるいは隅丸長方形と推測できる。

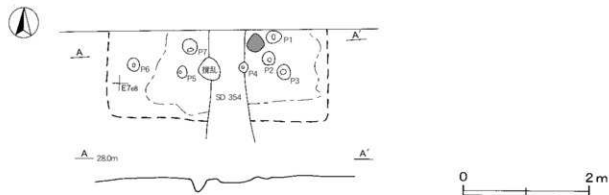
**床** はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

**炉** 調査区域境に近い、やや東壁寄りに付設されており、径27cmの円形で地床炉である。

**ピット** 7か所。いずれも深さ15～22cmの小ピットで、性格は不明である。

**遺物出土状況** 縄文土器片1点が、床面から出土しているだけである。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。



第8図 第141号住居跡実測図

#### 第143号住居跡 (第9・10図)

**位置** 調査区中央部のF79区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1720・1721号土坑を掘り込み、南部を第154号住居、北壁部を第133号住居、中央部を第354号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南壁部が掘り込まれ、西壁部は攪乱を受けているため、長軸7.22m、短軸7.0mで、主軸方向がN-15°-Wの隅丸方形と推測できる。壁高は20cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦で、硬化面は認められない。

**ピット** 10か所。P1、P3～P5は四隅に位置し、深さが26～38cmであることから主柱穴に相当すると考えられる。P2、P6～P9は深さ28～44cmで、性格は不明である。P10は、西壁の推定線より外側に位置しているが、住居内の可能性もある。

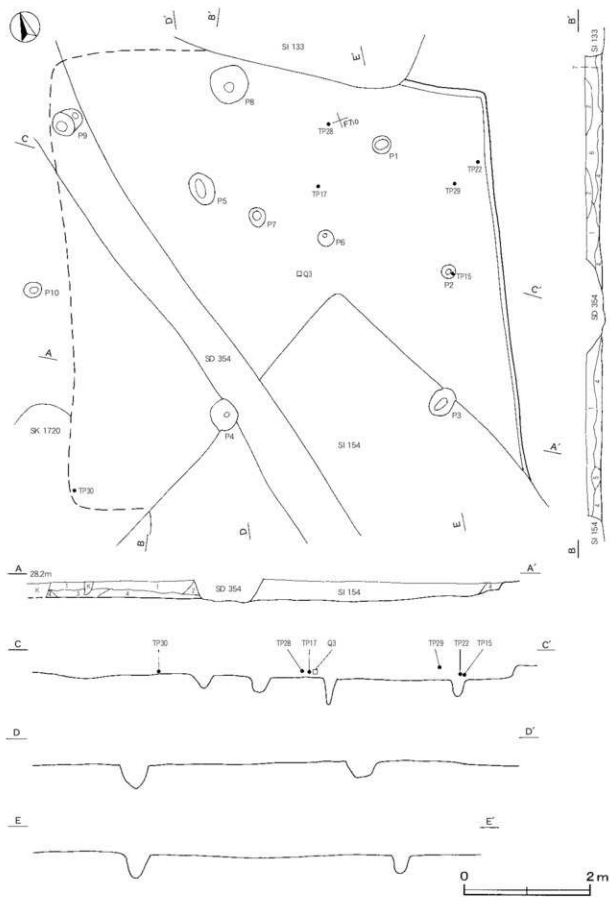
**覆土** 7層に分層できる。4・7層はロームブロックが含まれて人為堆積の可能性があるが、その他は堆積状況から自然堆積とみられる。

#### 土層解説

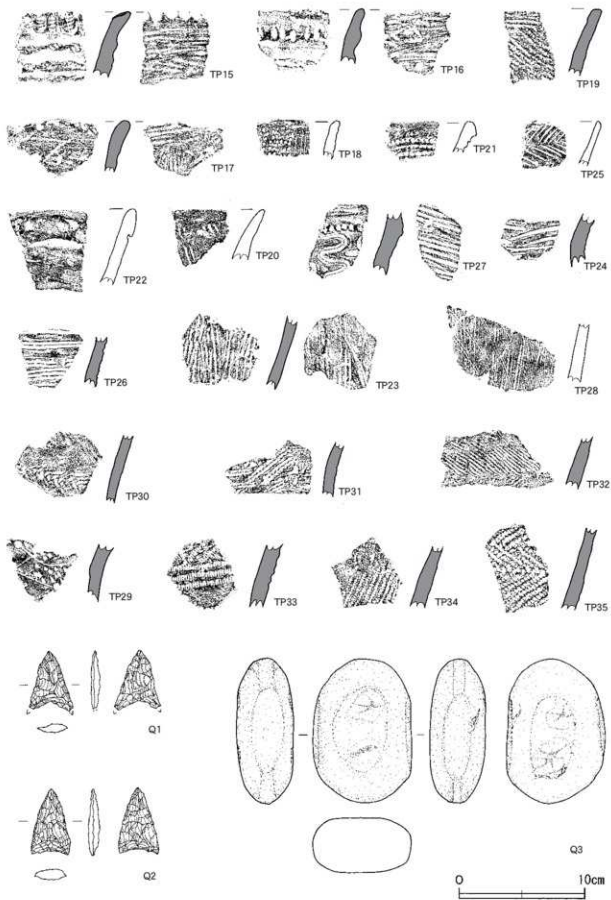
1 黒褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片451点、石器・石製品3点(鎌2、磨石1)、剥片26点が覆土中から出土しているほか、混入した弥生土器片3点、土師器片38点も出土している。TP29は北東コーナー部付近の覆土上層、TP15、TP17・TP22・TP28、Q3は中央部の覆土中層、TP30は西壁際の床面からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第9图 第143号住居跡実測図



第10图 第143号住居跡出土遺物実測図



第143号住居跡出土遺物観察表 (第10図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP15	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	明赤褐	普通	口唇部と隆帯上に絡糸体圧痕文 内面条痕文	覆土中層	PL10
TP16	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい橙	普通	隆帯上にキザミ 内面条痕文	覆土中	PL10
TP17	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	条痕文を施文とし貝殻腹縁文 内面条痕文	覆土中層	
TP18	縄文土器	深鉢	細砂	褐	普通	口唇部にキザミ 縦位の沈線文と刺突文	覆土中	PL10
TP19	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	にぶい黄橙	普通	条痕文と縄文 内面条痕文	覆土中	PL10
TP20	縄文土器	深鉢	細砂	橙	普通	条痕文	覆土中	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	連続刺突文	覆土中	PL10
TP22	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面斜位のヘラナデ	覆土中層	PL10
TP23	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	外・内面とも条痕文	覆土中	
TP24	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	横位の沈線文 内面条痕文	覆土中	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	羽条の沈線文	覆土中	PL10
TP26	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい黄橙	普通	横位の沈線文	覆土中	PL10
TP27	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	灰黄褐	普通	キザミを有する隆帯と沈線文 内面条痕文	覆土中	PL10
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	3条1組の沈線文	覆土中層	PL10
TP29	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	赤褐	普通	沈線文と刺突文	覆土上層	PL10
TP30	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	黒褐	普通	羽状縄文	西壁床面	
TP31	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明褐	普通	2本1組の熱系圧痕文	覆土中	PL10
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	普通	無節縄文による羽状縄文	覆土中	PL10
TP33	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい赤褐	普通	絡糸体圧痕文	覆土中	PL10
TP34	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	縄文	覆土中	
TP35	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	羽状縄文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q 1	石皿	2.3	1.7	0.35	0.98	チャート	押圧剥離による調整	覆土中	PL25
Q 2	石皿	2.1	1.5	0.4	1.14	チャート	押圧剥離による調整	覆土中	PL25
Q 3	磨石	11.4	7.8	4.4	577.0	砂岩	磨面2面で各2か所の凹み 両側面敲打痕	中央部下層	PL25

## 第146号住居跡 (第11・12図)

位置 調査区東部のG 8 a3区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南部を第137号住居、北西部を第145・140号住居、南西コーナー部付近を第350号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.08m、短軸5.35mの隅丸台形状で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は18~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 は平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

炉 3か所。炉1は中央部東壁寄りに位置し、長径67cm、短径55cmの楕円形で地床炉である。長径方向は住居跡の主軸方向と同じである。炉2は中央部西壁寄りに位置し、径48cmの円形で地床炉である。炉3は南西コーナー部寄りに位置し、径45cmの円形で地床炉である。各炉の新旧関係は不明である。

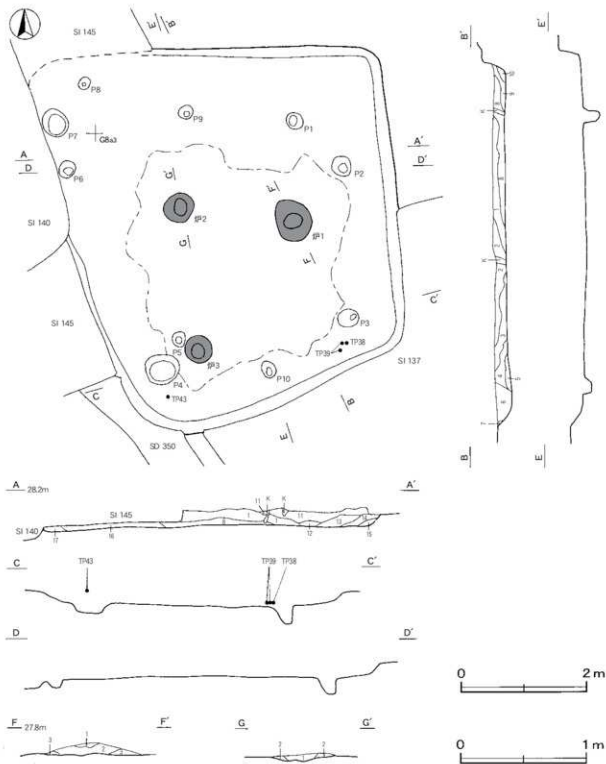
## 炉1土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

## 炉2土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

ピット 10か所。東壁寄りに位置しているP1~P3は、深さが26~36cmで主柱穴に相当するとみられる。それ以外は深さ15cm内外で、性格は不明である。



第11図 第146号住居跡実測図

**覆土** 17層に分層できる。4・7層はロームブロックが含まれて人為堆積の可能性があるが、その他は堆積状況から自然堆積とみられる。

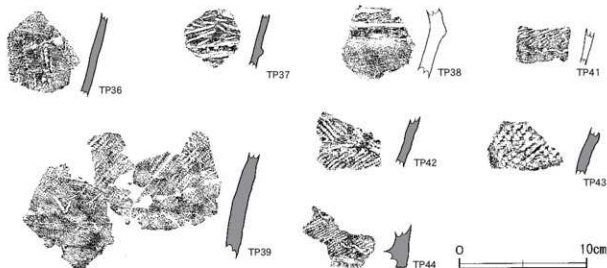
**土層解説**

- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   | 5 褐色  | ロームブロック中量             |
| 2 褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 褐色  | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |

9	暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	14	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
10	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	15	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
11	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	16	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	17	灰褐色	ロームブロック微量
13	灰褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			

**遺物出土状況** 縄文土器片79点が覆土中から出土しているほか、混入した弥生土器片3点、土師器片6点も出土している。TP38・TP39は南東コーナー部寄りの床面、TP43は南西コーナー部寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第12図 第146号住居跡出土遺物実測図

第146号住居跡出土遺物観察表 (第12図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP36	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	灰褐色	普通	貝殻縦線文	覆土中	PL10
TP37	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明褐色	普通	キザミを有する隆帯と燃赤圧痕文・刺切文	覆土中	PL10
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	隆帯と沈線間に縄文	南東隅床面	
TP39	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐色	普通	単節縄文と異条縄文による羽状縄文	南東隅床面	PL10
TP41	縄文土器	深鉢	細砂・雲母	にぶい赤褐色	普通	結節された無節縄文	覆土中	
TP42	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明褐色	普通	無節縄文による羽状縄文	覆土中	PL10
TP43	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい黄褐色	普通	無節縄文	覆土上層	
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	普通	結節された無節縄文	覆土中	

第151号住居跡 (第13図)

**位置** 調査区南部のG7d7区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 北壁部を第148号住居、東壁寄りを第1703号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南側が調査区域外に延びているために、東西軸は4.02mで、南北軸は2.76mしか確認できなかった。形状から、主軸方向がN-8°-Wの隅丸方形あるいは隅丸長方形と推測できる。壁高は24cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほほ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

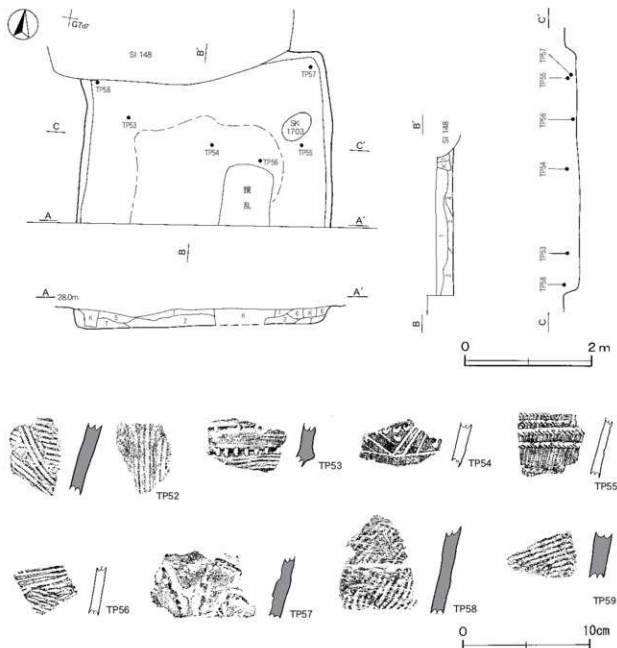
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが若干含まれている層も見られるが、堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- |       |                       |       |                      |
|-------|-----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量        | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 3 褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 7 褐色  | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量  |
| 4 褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |       |                      |

遺物出土状況 縄文土器片67点、剥片1点が覆土中から出土しているほか、混入した土師器片11点も出土している。TP53・TP58は北西コーナー部寄り、TP54は中央部、TP55は東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。TP56は中央部、TP57は北東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第13図 第151号住居跡・出土遺物実測図

第151号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL11
TP53	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい橙	普通	隆帯上に刺突によるキザミと円形刺突文	北西隅上層	PL11
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線文と半載竹管による刺突文	中央部上層	PL11
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	条痕文を地文とする連続刺突文	東壁上層	PL11
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英・書母	にぶい褐	普通	沈線文と貝殻線文	中央部中層	PL11
TP57	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	隆帯文にキザミ	北東隅中層	PL11
TP58	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明褐	普通	無節縄文	北西隅上層	PL11
TP59	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	無節縄文	覆土中	PL11

### 第153号住居跡（第14・15図）

**位置** 調査区南東部のG8c4区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 中央部を第350・361号溝、南東コーナー部を第164号土坑と第352号溝、北東コーナー部を第353号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.46m、短軸は推定4.9mで、主軸方向がN-27°-Wの隅丸長方形と推測できる。壁高は18～27cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

**炉** 中央部やや北壁寄りに付設されている。長径69cm、短径59cmの楕円形で地床炉である。

#### 伊土層解説

1 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 2 褐 色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

**ピット** 12か所。P1～P4は深さ21～39cmで、四隅に位置していることから主柱穴の可能性がある。P7は深さ24cm、P8は深さ27cmで、南壁下に並んでいることから出入り口施設に関わるピットとみられる。その他のピットは深さ10～30cmで、北半部の炉周囲に位置しているが、性格は不明である。

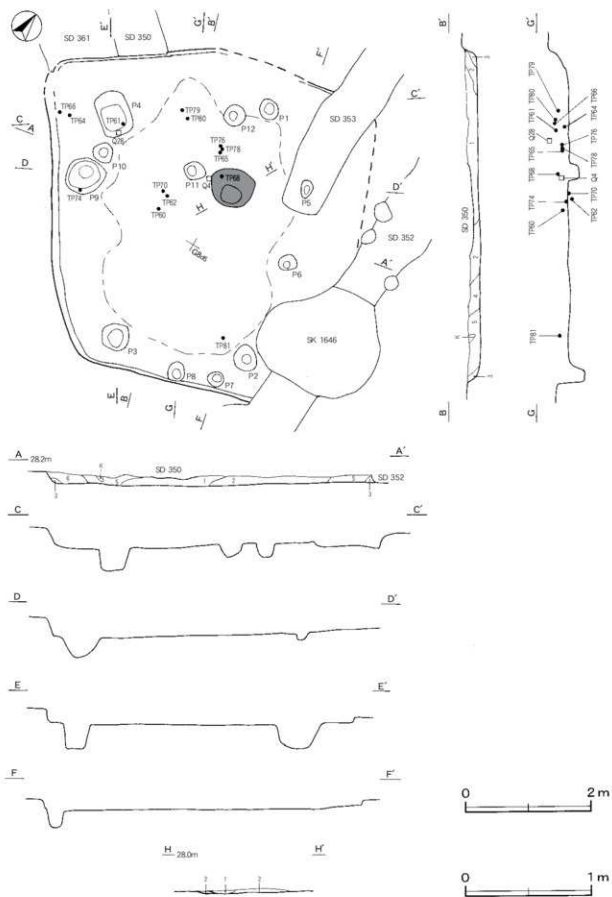
**覆土** 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

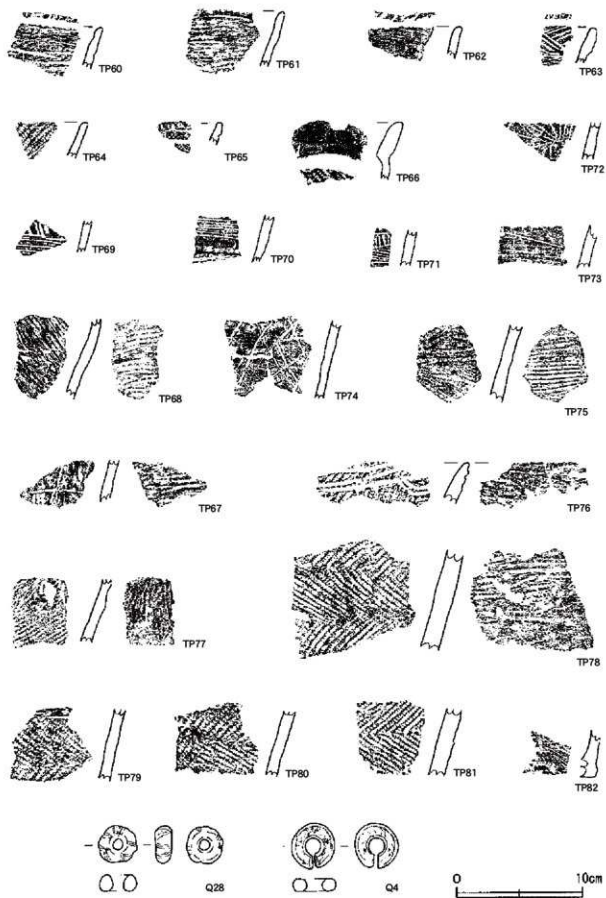
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 4 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量  
2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 5 暗 褐 色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量  
3 褐 色 ローム粒子中量 6 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片169点、石製品2点（珠状耳飾り、垂飾り）、剥片7点が覆土中から出土している。この他、混入した土師器片2点も出土している。TP68・TP79・TP80は炉の北西側、TP61・TP66・Q28は北西コーナー部付近、TP81は南壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。TP60・TP64・TP65・TP76・TP78・Q4は覆土中層、TP62・TP70・TP74は西部の床面からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第14图 第153号住居跡实测图



第15圖 第153号住居跡出土遺物実測図

第153号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部キザミ 沈線文	覆土中層	PL11
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	赤褐	やや不良	条痕文	北西部上層	PL11
TP62	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部キザミ 無文	中央部床面	
TP63	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	普通	口縁部沈線文 胴部懸糸圧痕文	覆土中	PL11
TP64	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒褐	普通	単節縄文	覆土中層	
TP65	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒褐	普通	口唇部キザミ	覆土中層	
TP66	縄文土器	深鉢	細砂・スコリア	褐	普通	沈線と単節縄文	北西部上層	
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	普通	条痕文を地文として沈線文と円形刺突文 内面条痕文	覆土中	
TP68	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	外・内面ともに条痕文	北西部上層	
TP69	縄文土器	深鉢	細砂	にぶい褐	普通	沈線文	覆土中	PL11
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線文	中央部床面	PL11
TP71	縄文土器	深鉢	細砂	橙	普通	沈線文と爪形文	覆土中	PL11
TP72	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	貝殻線緑文	覆土中	
TP73	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	沈線文と貝殻線緑文	覆土中	PL11
TP74	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	沈線文	西壁際床面	PL11
TP75	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	筋条体圧痕文 内面条痕文	覆土中	PL11
TP76	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	単節縄文と沈線文 内面条痕文	覆土中層	PL11
TP77	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	明褐	普通	単節縄文と沈線文 内面条痕文	覆土中	PL11
TP78	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	橙	普通	単節縄文による羽状縄文 内面条痕文	覆土中層	PL11
TP79	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	にぶい褐	普通	単節縄文に沈線文 内面条痕文	北西部上層	
TP80	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	にぶい褐	普通	無節縄文による羽状縄文	北西部上層	
TP81	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	黒褐	普通	単節縄文による羽状縄文	南部上層	
TP82	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい橙	普通	懸糸圧痕文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	块状耳飾り	3.5	3.5	1.0	17.1	滑石	表・裏・側面に線状の擦痕	覆土中層	PL26
Q28	垂飾り	3.0	2.9	1.3	9.2	安山岩	周縁に鋭歯状の沈線	北西部上層	PL26

## 第155号住居跡 (第16図)

位置 調査区南東部のG8d4区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北部を第1712号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側が調査区域外に延びているため、東西軸4.15mで、南北軸は1.95mしか確認できなかった。主軸方向がN-3°-Wの隅丸方形あるいは隅丸長方形と推測できる。壁高は24~31cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

ピット 5か所。P1は深さ38cm、P2は深さ23cmで、コーナー部に位置していることから主柱穴とみられる。他は、深さ16~40cmであるが、位置的に性格は不明である。

覆土 9層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

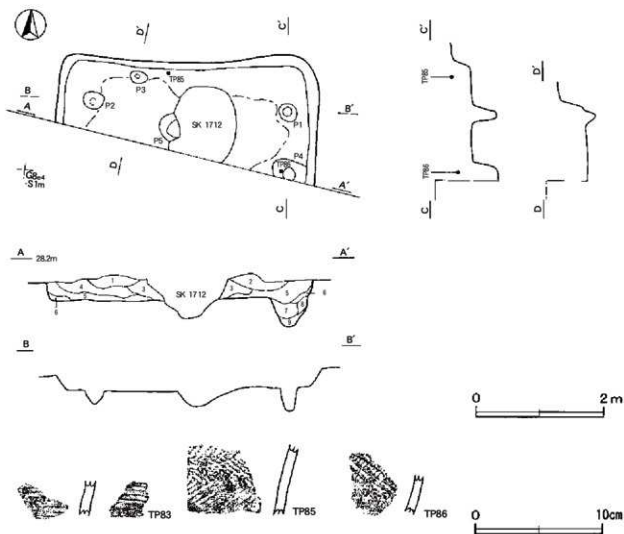
## 土層解説

1 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	6 明褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量	8 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック微量
5 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量		



**遺物出土状況** 縄文土器片4点が出土しているほか、混入した土師器片6点も出土している。TP85・TP86は、覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代前期前半と考えられる。



第16図 第155号住居跡・出土遺物実測図

第155号住居跡出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP83	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	にぶい橙	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	
TP85	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	橘	普通	無節縄文による羽状縄文	北壁際上層	
TP86	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	灰褐	普通	縄文と条痕文	東壁際上層	

#### 第156号住居跡（第17・18図）

**位置** 調査区南部のG7b9区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 東半部を第139号住居、西壁部を第1679・1681号土坑と第70号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 東側が第139号住居に掘り込まれているため、南北軸3.77mで、東西軸は3.05mしか確認できなかった。主軸方向がN-15°-Wの隅丸方形あるいは隅丸長方形と推測できる。壁高は27~32cmで、外傾して

立ち上がっている。

床 は平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

ピット 5か所。P2は深さ38cm、P3は深さ17cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に関わるピットとみられる。他は深さ20～43cmであるが、位置的に性格は不明である。

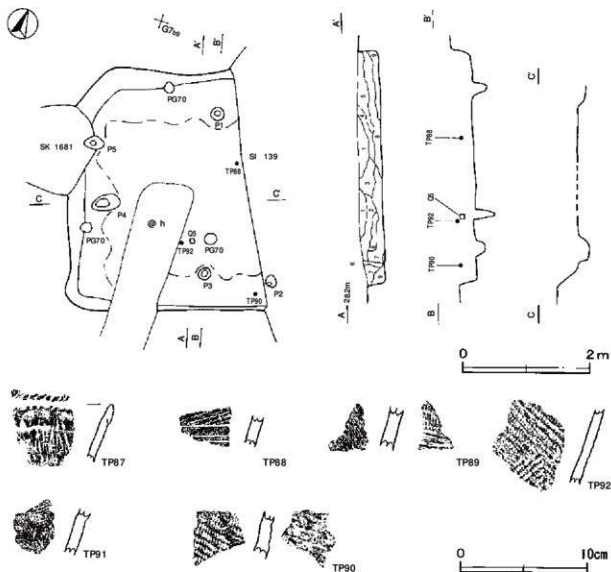
覆土 9層に分層できる。6～9層は、ロームブロックを含んでいることから人為堆積とみられるが、その他は堆積状況から自然堆積である。

土層解説

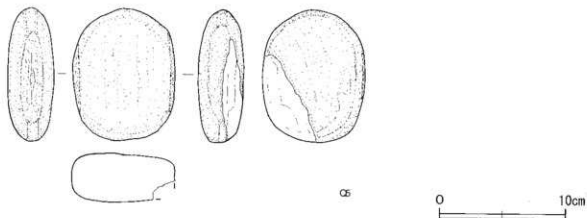
1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片22点が出土しているほか、混入した土師器片6点も出土している。TP88、Q5は中央部、TP90・TP92は南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第17図 第156号住居跡・出土遺物実測図



第18図 第156号住居跡出土遺物実測図

第156号住居跡出土遺物観察表 (第17・18図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP87	縄文土器	深鉢	砂粒	明褐色	普通	口唇部ヤザミ 条痕文	覆土中	
TP88	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	灰褐色	普通	貝殻散緑文と沈線文	中央部上層	
TP89	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	明褐色	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	
TP90	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	褐色	普通	外面単節縄文 内面条痕文	南壁際上層	
TP91	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明褐色	普通	条痕文	覆土中	
TP92	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	褐色	普通	単節縄文による羽状縄文	南壁際上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	磨石	10.5	8.2	3.6	(467.0)	砂岩	両面研磨痕 両側面敲打痕	中央部上層	PL25

第159号住居跡 (第19・20図)

**位置** 調査区北部のF7g0区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第3号陥し穴を掘り込み、西半部を第133号住居、北壁部を第1627・1628・1630号土坑に掘り込まれている。第161号住居跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長軸6.92m、短軸6.05mの隅丸長方形で、主軸方向はN-55°-Eである。壁高は12~17cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほほ平坦で、硬化面は認められない。

**ピット** 5か所。P1は深さ31cmで、北壁寄りの中央部に位置していることから主柱穴の可能性はある。他は深さ10~18cmで、位置的に性格は不明である。

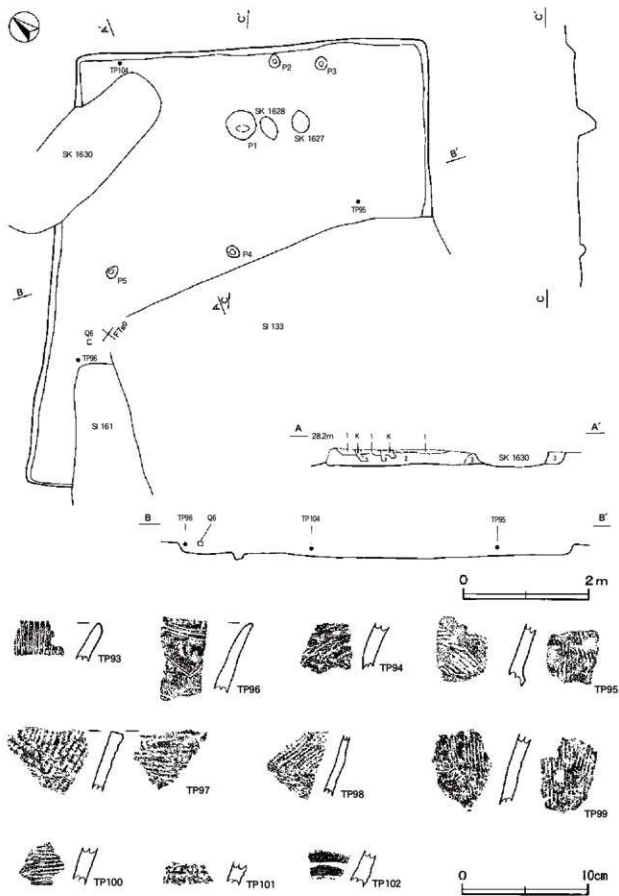
**覆土** 3層に分層できる。堆積状況から自然堆積とみられる。

**土層解説**

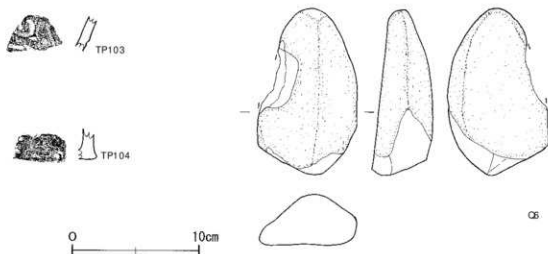
- 1 暗褐色 色 ロームブロック微量 3 褐色 色 ロームブロック微量  
 2 褐色 色 ロームブロック・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片67点、剥片6点が出土しているほか、混入した土師器片8点も出土している。TP95は東壁際、TP96・Q6は西壁際、TP104は北コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第19图 第159号住居跡・出土遺物実測図



第20図 第159号住居跡出土遺物実測図

第159号住居跡出土遺物観察表 (第19・20図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP93	縄文土器	深鉢	細砂	にぶい橙	普通	沈線文	覆土中	PL11
TP94	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい黄橙	普通	口唇部・胴部とも絡帯圧痕文	覆土中	PL11
TP95	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	棒状工具による連続刺突文と円形竹管による刺突文	東壁際上層	PL11
TP96	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部キザミ 胴部沈線文	西壁際上層	PL11
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	やや不良	口唇部縄文押圧 胴部無節縄文による羽状縄文	覆土中	PL11
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	暗赤褐	普通	無節縄文	覆土中	
TP99	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	
TP100	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい橙	普通	条痕文	覆土中	
TP101	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	やや不良	棒状工具による刺突文	覆土中	PL11
TP102	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線文	覆土中	
TP103	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	条痕文を地文として沈線文	覆土中	PL11
TP104	縄文土器	深鉢	細砂	にぶい橙	普通	貝殻緑文	北隅上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	磨石	13.1	7.8	4.8	(483.0)	砂岩	3面研磨痕 1面敲打痕	西壁際上層	

### 第160号住居跡 (第21図)

位置 調査区北部のF7g8区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北部を第1662号土坑、中央部を第1666号土坑、南部を第1663号土坑及び北壁から南東コーナー部にかけて第354号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸4.45m、東西軸4.20mの隅丸方形である。壁高は18~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほは平坦であるが、南西方向に向かって傾斜している。硬化面は認められない。

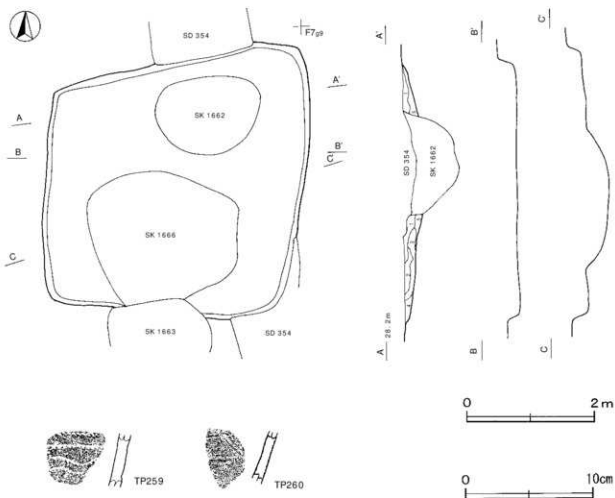
覆土 5層に分層される。堆積状況から自然堆積とみられる。

#### 土層解説

1	暗褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量	4	褐色	色	ローム粒子微量
2	暗褐色	色	ロームブロック少量	5	褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	褐色	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量				

**遺物出土状況** 縄文土器片5点が、覆土中から出土している。

**所見** 炉や柱穴は確認できなかったが、形状が他の住居跡に酷似していることから住居跡とした。時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第21図 第160号住居跡・出土遺物実測図

第160号住居跡出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP259	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	連続刺突文	覆土中	PL11
TP260	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒褐	普通	条痕文	覆土中	PL11

### 第161号住居跡（第22図）

**位置** 調査区北部のF7g9区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 東側の大部分を第133号住居に掘り込まれている。第159号住居跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 東西軸4.82m、確認できた南北軸は1.82mで、隅丸方形と推測される。壁高は19cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた部分は平坦である。硬化面は認められない。

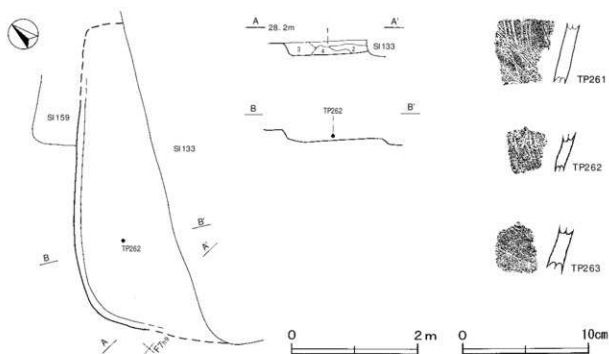
覆土 4層に分層できる。堆積状況から自然堆積とみられる。

土層解説

- |       |                   |       |                |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量         | 4 褐色  | ロームブロック中量      |

遺物出土状況 縄文土器片4点が、覆土中から出土している。TP262は、北西壁寄りの覆土中層から出土している。

所見 炉や柱穴は確認できなかったが、形状が他の住居跡に酷似していることから住居跡とした。時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第22図 第161号住居跡・出土遺物実測図

第161号住居跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP261	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐色	普通	条痕文を地文として条線文	覆土中	PL11
TP262	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	赤褐色	普通	条痕文	北西部中層	PL11
TP263	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐色	普通	条痕文	覆土中	PL11

表2 縄文時代住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸 × 短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	
								柱穴	出入口	ピット	炉				
136	F 7d	[隅丸長方形]	N-25°-W	(2.85) × 2.23	10~13	平坦	-	-	-	-	-	自然	縄文土器・剥片	前期	
138	F 8h3	[隅丸長方形]	N-66°-W	(5.50) × 4.82	19~29	平坦	-	-	11	-	-	人為・自然	縄文土器・剥片	前期	
141	E 7d8	[隅丸長方形]	-	[3.54] × [1.44]	-	平坦	-	-	7	1	-	-	縄文土器	前期	
143	F 7g	[隅丸方形]	N-15°-W	[7.22] × [7.0]	20	平坦	-	4	-	6	-	人為・自然	縄文土器・石鏝・磨石	前期	
146	G 8a3	隅丸台形	N-20°-W	6.08 × 5.35	18~38	平坦	-	3	-	7	3	-	人為・自然	縄文土器	前期
151	G 7d7	[隅丸長方形]	N-8°-W	4.02 × (2.76)	24	平坦	-	-	-	-	-	自然	縄文土器・剥片	前期	

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期
								柱穴	重入口	ピット	井	貯蔵穴				
153	G 8 e4	[隅丸長方形]	N-27°-W	5.46×(4.9)	18~27	平坦	-	4	2	6	1	-	自然	縄文土器・耳飾り	前期	
155	G 8 d4	[隅丸長方形]	N-3°-W	4.15×(1.95)	24~31	平坦	-	2	-	3	-	-	自然	縄文土器	前期	
156	G 7 b9	[隅丸長方形]	N-15°-W	3.77×(3.05)	27~32	平坦	-	2	6	-	-	人為・自然	縄文土器・磨石	前期		
159	F 7 g9	[隅丸方形]	N-55°-E	6.92×6.05	12~17	平坦	-	1	4	-	-	自然	縄文土器・磨石	前期		
160	F 7 g8	[隅丸方形]	-	4.45×4.20	18~26	平坦	-	-	-	-	-	自然	縄文土器	前期		
161	F 7 g9	[隅丸方形]	-	4.82×(1.82)	19	平坦	-	-	-	-	-	自然	縄文土器	前期		

## (2) 陥し穴

### 第1号陥し穴 (SK1629) (第23図)

**位置** 調査区北東部のF8f1区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径2.92m、短径1.45mの楕円形である。長径方向はN-75°-Wで、台地の傾斜と平行である。深さは103cmで、底面は平坦である。

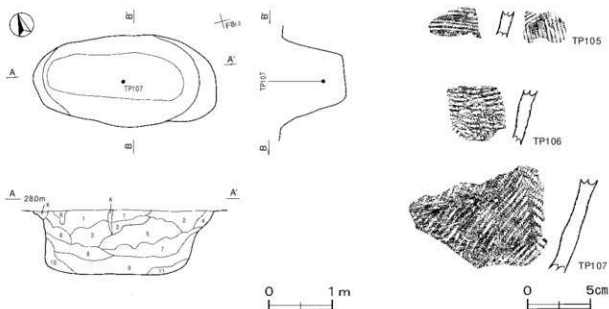
**覆土** 11層に分層できる。3・5・7・8層はロームブロックを含んだ堆積状況から人為堆積で、その他は自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |                       |        |                       |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 7 横暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量        |
| 3 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色  | ローム粒子少量               |
| 5 褐色  | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量   | 11 褐色  | ロームブロック微量             |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量        |        |                       |

**遺物出土状況** 縄文土器片17点が出土している。TP107は、中央部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭とみられる。



第23図 第1号陥し穴・出土遺物実測図



第1号陥し穴出土遺物観察表 (第23図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP105	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL12
TP106	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	貝殻散粒文	覆土中	PL12
TP107	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	黒褐	普通	単節縄文による羽状縄文	覆土下層	PL12

第2号陥し穴 (SK1684) (第24・25図)

位置 調査区北東部のG7b3区で、標高27.58mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 北壁の上部を第356A号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.55m、短径2.45mの楕円形である。長径方向はN-15°-Wで、台地の傾斜に対してほぼ直交している。深さは97cmで、底面は若干凸凹である。

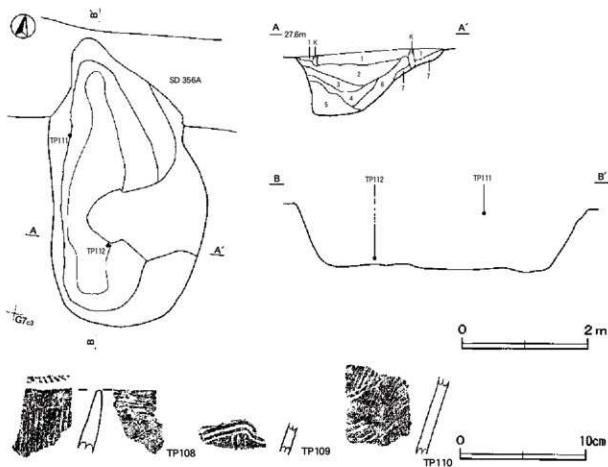
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含んでいる層が多いが、堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- |        |                     |      |                       |
|--------|---------------------|------|-----------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量    | 5 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量             |
| 3 黒褐色  | ロームブロック・炭化物微量       | 7 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量           |      |                       |

遺物出土状況 縄文土器片99点、剥片2点が出土している。TP111は覆土上層、TP112は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代中期とみられる。



第24図 第2号陥し穴・出土遺物実測図



第25図 第2号陥し穴出土遺物実測図

第2号陥し穴出土遺物観察表 (第24・25図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP108	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	明赤褐	普通	口唇部縄文の押圧 外・内面ともに染灰文	覆土中	PL12
TP109	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	半截竹管による平行沈線文	覆土中	PL12
TP110	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	半截竹管による平行沈線文	覆土中	PL12
TP111	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	捺糸文	覆土上層	PL12
TP112	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線で区画して単節縄文を充填	覆土下層	PL12
TP113	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	普通	沈線で区画して単節縄文を充填	覆土中	PL12
TP114	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文	覆土中	PL12

第3号陥し穴 (SK1702) (第26・27図)

位置 調査区北東部のF7g0区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 上部を第133・159号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.24m、短径1.24mの楕円形である。長径方向はN-60°-Wで、台地の傾斜と平行である。深さは102cmで、底面は平坦である。

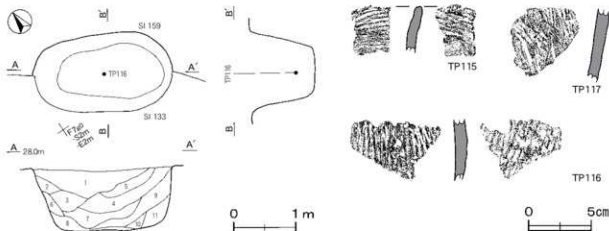
覆土 11層に分層できる。3・5・7・8層はロームブロックを含んだ堆積状況から人為堆積で、他は自然堆積である。

土層解説

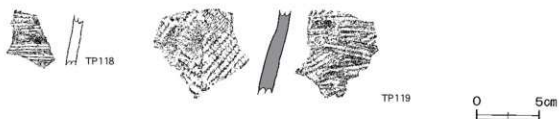
- |       |                         |         |                       |
|-------|-------------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量   | 7 褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 にぶい褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量   | 9 にぶい橙色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 10 褐色   | ロームブロック・焼土粒子微量        |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量   | 11 明褐色  | ロームブロック中量             |
| 6 褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子微量          |         |                       |

遺物出土状況 縄文土器片25点が出土している。TP116は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末とみられる。北東4.5mに第1号陥し穴が位置している。



第26図 第3号陥し穴・出土遺物実測図



第27図 第3号陥し穴出土遺物実測図

第3号陥し穴出土遺物観察表（第26・27図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP115	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	灰褐	普通	外・内面ともに条状文	覆土中	PL12
TP116	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	外・内面ともに条状文	覆土下層	PL12
TP117	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	暗褐	普通	外・内面ともに条状文	覆土中	PL12
TP118	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	半截竹管による平行沈線文と貝殻複線文	覆土中	PL12
TP119	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	橙	普通	単節縄文による羽状縄文 内面条状文	覆土中	PL12

表3 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m, 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1	F 8 f1	楕円形	N-75°-W	2.92×1.45	103	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK1629
2	G 7 h3	楕円形	N-15°-W	4.55×2.45	97	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK1684 本跡→SD356A
3	F 7 g0	楕円形	N-60°-W	2.24×1.24	102	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK1702 本跡→SI33-159

### (3) 土坑

#### 第1647号土坑（第28図）

**位置** 調査区北部のF7f9区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1857号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長径1.92m、短径1.47mの不整楕円形で、長径方向はN-27°-Wである。深さは84cmで、底面は平坦である。壁は、若干外傾して立ち上がっている。

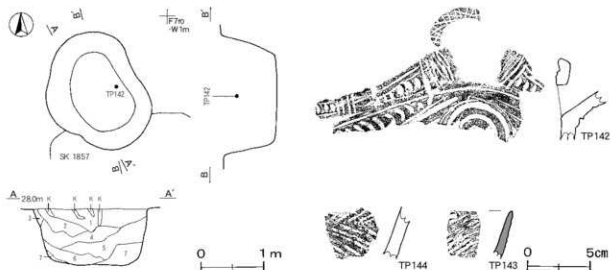
**覆土** 7層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいるが、堆積状況から自然堆積とみられる。

#### 土層解説

1	暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
2	灰 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量	7	褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	褐 色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量			

**遺物出土状況** 縄文土器片17点が出土している。TP142は、北東壁寄りの覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期中葉と考えられる。



第28図 第1647号土坑・出土遺物実測図

第1647号土坑出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP142	縄文土器	深鉢	細砂・雲母	明赤褐	良好	波頭部に注口状の突起 口唇部・体部沈線文	覆土中層	PL12
TP143	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	にぶい橙	普通	無節縄文	覆土中	PL12
TP144	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	貝殻線文	覆土中	PL12

第1652号土坑(第29図)

位置 調査区中央部のG7a4区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.81m、短径0.76mの円形で、深さは68cmである。底面は皿状で、壁は若干外傾して立ち上がっている。

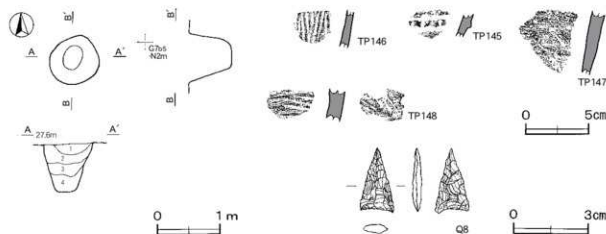
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックを少量含んでいるが、堆積状況から自然堆積とみられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片13点、石器1点(鎌)が出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第29図 第1652号土坑・出土遺物実測図

第1652号土坑出土遺物観察表 (第29図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP145	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	隆帯上に棒状工具による押捺	覆土中	
TP146	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	黒褐	普通	条痕文	覆土中	
TP147	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒褐	やや不良	無文 内面条痕文	覆土中	
TP148	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q 8	石鏝	2.5	1.3	0.3	0.99	瑪瑙	押圧潤滑による調整	覆土中	PL25

第1663号土坑 (第30図)

位置 調査区中央部のF7h8区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第160号住居跡、第1666号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.73m、短径1.50mの楕円形で、長径方向はN-51°-Wである。深さは117cmで、底面は平坦である。壁は中位まで直立し、上位は外傾して立ち上がっている。

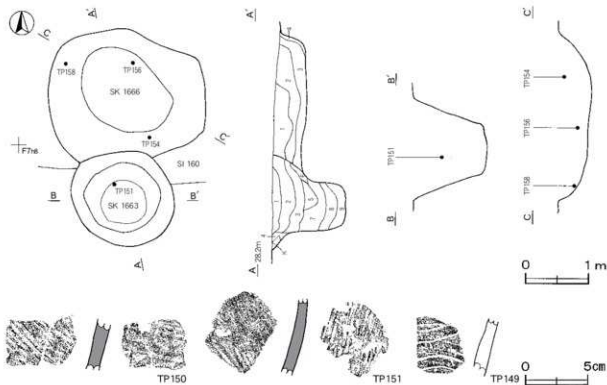
覆土 9層に分層できる。ロームブロックを含む層もあるが、堆積状況から自然堆積とみられる。

土層解説

- |        |   |                     |        |   |                  |
|--------|---|---------------------|--------|---|------------------|
| 1 黒 褐色 | 色 | ロームブロック・焼土粒子微量      | 6 暗 褐色 | 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐 褐色 | 色 | ロームブロック多量        |
| 3 暗 褐色 | 色 | ローム粒子・炭化粒子微量        | 8 褐 褐色 | 色 | ロームブロック少量        |
| 4 褐 褐色 | 色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量      | 9 褐 褐色 | 色 | ロームブロック中量        |
| 5 暗 褐色 | 色 | ロームブロック・炭化粒子微量      |        |   |                  |

遺物出土状況 縄文土器片25点が出土している。TP151は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第30図 第1663・1666号土坑実測図、第1663号土坑出土遺物実測図

### 第1663号土坑出土遺物観察表 (第30図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP149	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	平行沈線文	覆土中	PL12
TP150	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	暗褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL12
TP151	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中層	

### 第1664号土坑 (第31図)

**位置** 調査区東部のG8a5区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 東半部が第353号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南北径0.75mで、東西径は0.5mしか確認できなかったが、残存状況から円形と推定できる。深さは25cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

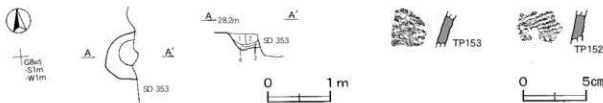
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から人為堆積とみられる。

#### 土層解説

- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片3点が出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代前期初頭と考えられる。



第31図 第1664号土坑・出土遺物実測図

### 第1664号土坑出土遺物観察表 (第31図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP152	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	無節縄文	覆土中	
TP153	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	明赤褐	普通	無文	覆土中	

### 第1666号土坑 (第30・32図)

**位置** 調査区北部のF7g8区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第160号住居跡を掘り込み、南壁が第1663号土坑、東半部が第354号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.56m、短径2.09mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。深さは52cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

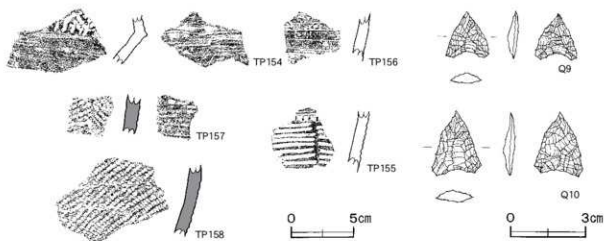
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが、堆積状況から自然堆積とみられる。

#### 土層解説

- |       |                       |       |                  |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量   | 3 褐色  | ロームブロック少量・炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子中量・炭化粒子少量・焼土粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック少量・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片13点、石器2点(鎌)、剥片1点が出土している。TP154は南壁寄りの覆土上層、TP156、TP158は北壁寄りの覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第32図 第1666号土坑出土遺物実測図

第1666号土坑出土遺物観察表 (第32図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP154	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	隆帯上にキザミ 棒状工具による刺突文	覆土上層	PL12
TP155	縄文土器	深鉢	細砂	明赤褐	普通	平行沈線文と刺突文	覆土中	PL12
TP156	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	平行沈線文	覆土中層	PL12
TP157	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面無節縄文 内面委痕文	覆土中	
TP158	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	褐	普通	結節された単節縄文	覆土中層	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	石鎌	1.8	1.7	0.4	0.90	チャート	押圧剥離による調整	覆土中	PL25
Q10	石鎌	2.5	1.9	0.4	1.18	チャート	押圧剥離による調整	覆土中	PL25

### 第1672号土坑 (第33図)

位置 調査区南東部のG8c3区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.44m、短径1.35mの不整形円で、深さは10cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

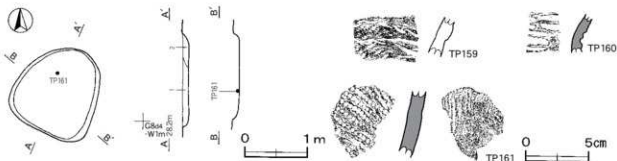
覆土 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積とみられる。

#### 土層解説

1 黒 褐色 色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 極細 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片13点が出土している。TP161は、北部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第33図 第1672号土坑・出土遺物実測図

### 第1672号土坑出土遺物観察表 (第33図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP159	縄文土器	深鉢	細砂	にぶい黄褐	普通	結節された単節縄文	覆土中	PL12
TP160	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	平行波線文	覆土中	PL12
TP161	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	外面単節縄文 内面条痕文	中央部底面	PL12

### 第1673号土坑 (第34図)

**位置** 調査区南東部のG8a5区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 西壁を第137号住居、中央部を第353号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認できた長径2.4m、短径1.4mの楕円形で、長径方向はN-76°-Eである。深さは18cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

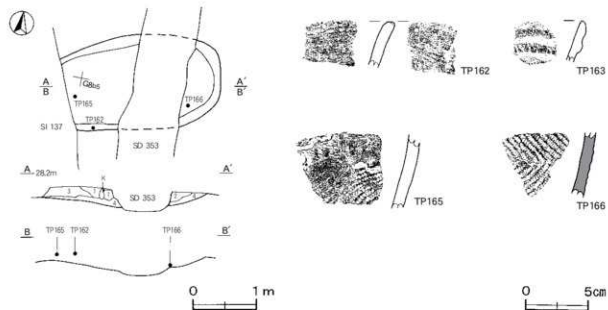
**覆土** 4層に分層できる。堆積状況から自然堆積とみられる。

#### 土層解説

- |       |                       |       |                  |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量     |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 4 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片25点が出土している。TP162、TP165は西部の覆土上層、TP166は東部の底面からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第34図 第1673号土坑・出土遺物実測図

### 第1673号土坑出土遺物観察表 (第34図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP162	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部ヤザミ 外・内面ともに条痕文	覆土上層	PL12
TP163	縄文土器	深鉢	細砂	灰褐	普通	縁帯上にヤザミ	覆土中	PL12
TP165	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	結節された単節縄文	覆土上層	
TP166	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	暗褐	普通	単節縄文による羽状縄文	底面	



### 第1677号土坑 (第35図)

**位置** 調査区北西部のF7e4区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径1.10m、短径0.84mの楕円形で、長径方向はN-38°-Eである。深さは40cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

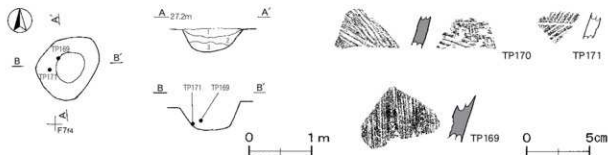
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積とみられる。

**土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量      3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片14点、剥片1点が出土している。TP169は北壁寄りの覆土中層、TP171は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末と考えられる。



第35図 第1677号土坑・出土遺物実測図

### 第1677号土坑出土遺物観察表 (第35図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP169	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	暗赤褐色	普通	条痕文	覆土中層	PL13
TP170	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL13
TP171	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	平行沈線文	覆土下層	PL13

### 第1678号土坑 (第36図)

**位置** 調査区南部のG7c8区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.03m、短径0.92mの楕円形で、長径方向はN-87°-Wである。深さは23cmで、底面は平坦である。壁は若干外傾して立ち上がっている。

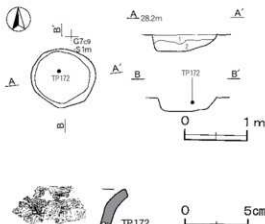
**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積とみられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片5点が出土している。TP172は、中央部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末と考えられる。



第36図 第1678号土坑・出土遺物実測図

### 第1678号土坑出土遺物観察表 (第36図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP172	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい黄橙	普通	無節縄文の押圧	覆土中層	PL13

### 第1681号土坑 (第37図)

**位置** 調査区南部のG7b8区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第156号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.89m、短径1.40mの楕円形で、長径方向はN-83°-Eである。深さは58cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

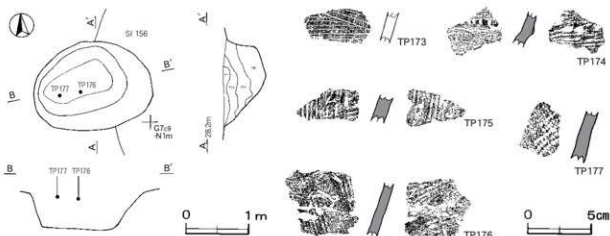
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積とみられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 黒暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量  
 3 黒暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量  
 4 黒褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片20点が出土している。TP176、TP177は、中央部の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第37図 第1681号土坑・出土遺物実測図

### 第1681号土坑出土遺物観察表 (第37図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP173	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	平行沈線文	覆土中	PL13
TP174	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	隆帯上にキザミ 外・内面ともに条痕文	覆土中	PL13
TP175	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL13
TP176	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	明赤褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土上層	
TP177	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	外面無節縄文 内面条痕文	覆土上層	

### 第1686号土坑 (第38図)

**位置** 調査区南東部のG7c2区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径2.09m、短径1.33mの楕円形で、長径方向はN-39°-Eである。深さは29cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積とみられる。

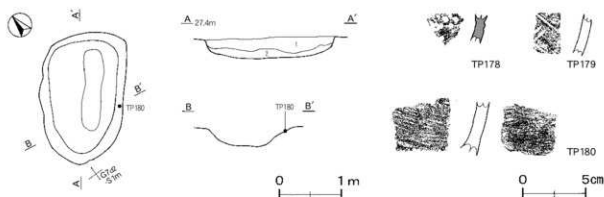
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

2 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片18点が出土している。TP180は、東壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末と考えられる。



第38図 第1686号土坑・出土遺物実測図

第1686号土坑出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP178	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい橙	普通	竹管による刺突文	覆土中	PL13
TP179	縄文土器	深鉢	細砂	橙	普通	半截竹管による平行沈線文	覆土中	PL13
TP180	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面ともに条痕文	覆土上層	PL13

第1687号土坑 (第39図)

位置 調査区南東部のG7d2区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.01m、短径0.45mの楕円形で、長径方向はN-7°-Eである。深さは33cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積とみられる。

土層解説

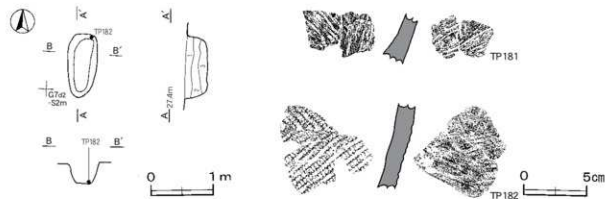
1 褐色 炭化物・ローム粒子微量

3 褐色 ロームブロック微量

2 褐色 ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片6点が出土している。TP182は、北部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第39図 第1687号土坑・出土遺物実測図

### 第1687号土坑出土遺物観察表 (第39図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP181	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	明褐色	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL13
TP182	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐色	普通	外面単節縄文による羽状縄文 内面条痕文	北壁底面	PL13

### 第1690号土坑 (第40図)

**位置** 調査区北西部のF7e1区で、標高26.5mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径0.79m、短径0.64mの楕円形で、長径方向はN-74°-Wである。深さは12cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積とみられる。

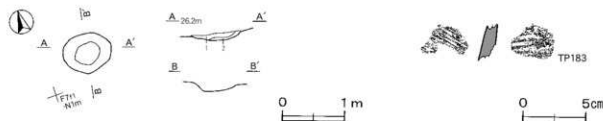
#### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片1点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末と考えられる。



第40図 第1690号土坑・出土遺物実測図

### 第1690号土坑出土遺物観察表 (第40図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP183	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	褐色	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	

### 第1691号土坑 (第41図)

**位置** 調査区北西部のF7e2区で、標高27mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径1.43m、短径1.24mの楕円形で、長径方向はN-21°-Wである。深さは22cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積とみられる。

#### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

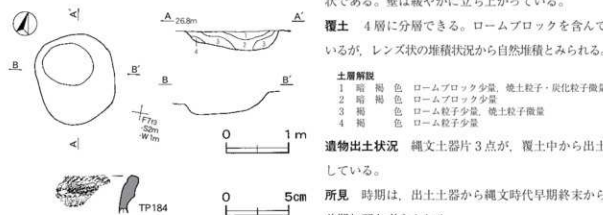
2 暗褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

4 褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 縄文土器片3点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第41図 第1691号土坑・出土遺物実測図

### 第1691号土坑出土遺物観察表 (第41図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP184	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	無節縄文	覆土中	

### 第1696号土坑 (第42図)

**位置** 調査区南西部のG7b4区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径1.42m、短径1.14mの楕円形で、長径方向はN-75°-Wである。深さは45cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

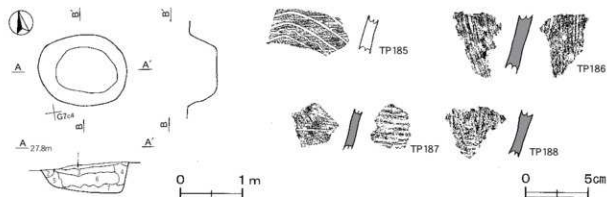
**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックを含み、不自然な堆積状況から人為堆積とみられる。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	6	灰褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3	灰褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・黒色粒子微量			

**遺物出土状況** 縄文土器片13点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末と考えられる。



第42図 第1696号土坑・出土遺物実測図

### 第1696号土坑出土遺物観察表 (第42図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP185	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条痕文を地文として平行沈線文・波状沈線文	覆土中	PL13
TP186	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL13
TP187	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL13
TP188	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	条痕文	覆土中	PL13

### 第1698号土坑 (第43図)

**位置** 調査区南西部のG6d9区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径1.19m、短径0.73mの楕円形で、長径方向はN-72°-Wである。深さは90cmで、底面は平坦で、西へ傾斜している。壁は若干外傾して立ち上がっている。

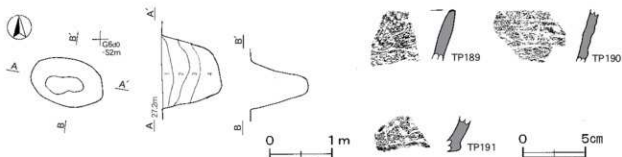
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含む層もあるが、堆積状況から自然堆積とみられる。

#### 土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	3	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	4	極暗褐色	炭化物・ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片12点が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第43図 第1698号土坑・出土遺物実測図

第1698号土坑出土遺物観察表 (第43図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP189	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒褐	普通	無節縄文	覆土中	PL13
TP190	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒褐	普通	平行沈線文	覆土中	PL13
TP191	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	単節縄文	覆土中	

第1701号土坑 (第44図)

位置 調査区南西部のG7c1区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1706号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.37m、短径1.44mの楕円形で、長径方向はN-34°-Eである。深さは69cmで、底面は中央部がややくぼんでいる。壁は外傾して立ち上がっている。

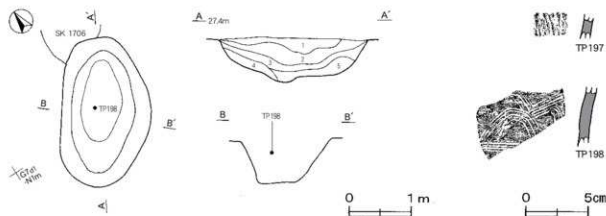
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいるが、堆積状況から自然堆積とみられる。

土層解説

- |        |                      |       |                  |
|--------|----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 灰褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量   |
| 2 黒褐色  | 炭化物・ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 褐色  | 焼土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐褐色 | ロームブロック微量、炭化物・焼土粒子微量 |       |                  |

遺物出土状況 縄文土器片6点が出土している。TP198は、中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末と考えられる。



第44図 第1701号土坑・出土遺物実測図

### 第1701号土坑出土遺物観察表 (第44図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP197	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	にぶい褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL13
TP198	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	橙	普通	櫛歯状工具による平行波線文	覆土上層	PL13

### 第1704号土坑 (第45図)

**位置** 調査区南部のG7d8区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.47m、短径0.42mの楕円形で、長径方向はN-34°-Eである。深さは37cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいるが、堆積状況から自然堆積とみられる。

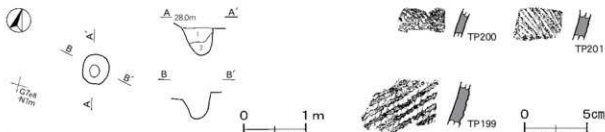
#### 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片3点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第45図 第1704号土坑・出土遺物実測図

### 第1704号土坑出土遺物観察表 (第45図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP199	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	燃赤文	覆土中	
TP200	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明褐	普通	燃赤文	覆土中	
TP201	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	黒褐	普通	条痕文	覆土中	

### 第1706号土坑 (第46図)

**位置** 調査区南西部のG7c1区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 南壁部を第1701号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認できた南北径0.85m、東西径0.92mで、残存状況から楕円形で、長径方向はN-6°-Eと推測される。深さは19cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

#### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

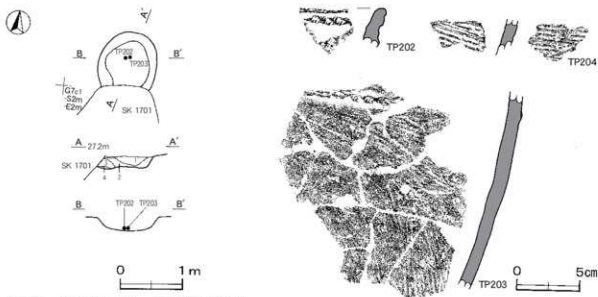
3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

4 褐色 ローム粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片13点が出土している。TP202・TP203は、中央部の底面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末と考えられる。



第46図 第1706号土坑・出土遺物実測図

第1706号土坑出土遺物観察表 (第46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP202	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	褐	普通	口唇部・隆帯上に結条体圧痕文	底面	TP203と併せ SE16 PL13
TP203	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	褐	普通	隆帯上に結条体圧痕文 胴部糸痕文	底面	TP202と併せ SE16 PL13
TP204	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい橙	普通	外・内面ともに糸痕文	覆土中	PL13

第1708号土坑 (第47図)

位置 調査区南西部のG6d0区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 北壁部を第150号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.62m、短径0.50mの楕円形で、長径方向はN-11°-Eである。深さは36cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

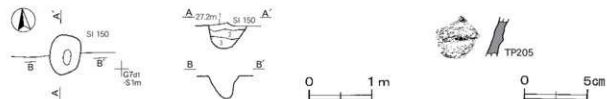
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量      3 黒褐色 ローム粒子微量  
2 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片3点が出土している。TP205は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末と考えられる。



第47図 第1708号土坑・出土遺物実測図

第1708号土坑出土遺物観察表 (第47図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP205	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明褐	やや不良	隆帯上に結条体圧痕文	覆土中	



### 第1714号土坑（第48図）

**位置** 調査区南西部のG7d1区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

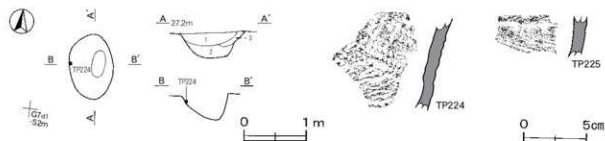
**規模と形状** 長径1.03m、短径0.71mの楕円形で、長径方向はN-10°-Wである。深さは40cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**  
 1 暗褐色 ロームブロック少量  
 2 褐色 ローム粒子少量  
 3 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片3点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第48図 第1714号土坑・出土遺物実測図

### 第1714号土坑出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP224	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	にがい黄褐色	普通	無節縄文による羽状縄文	覆土上層	PL13
TP225	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	やや不良	沈線文	覆土中	PL13

### 第1715号土坑（第49図）

**位置** 調査区南西部のG7d1区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

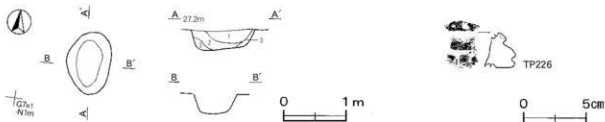
**規模と形状** 長径0.97m、短径0.70mの楕円形で、長径方向はN-5°-Wである。深さは32cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**  
 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック微量  
 3 褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 縄文土器片1点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代前期と考えられる。



第49図 第1715号土坑・出土遺物実測図

### 第1715号土坑出土遺物観察表 (第49図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP226	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	上部に比線文を施した陰帯	覆土中	PL13

### 第1716号土坑 (第50図)

**位置** 調査区南東部のG8c4区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.00m、短径0.72mの楕円形で、長径方向はN-71°-Eである。深さは63cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

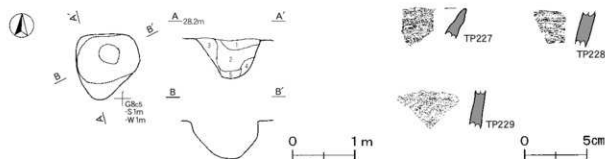
**覆土** 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

#### 土層解説

- |   |     |                      |   |    |                |
|---|-----|----------------------|---|----|----------------|
| 1 | 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量       | 4 | 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 | 褐色 | ロームブロック少量      |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量       |   |    |                |

**遺物出土状況** 縄文土器片4点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第50図 第1716号土坑・出土遺物実測図

### 第1716号土坑出土遺物観察表 (第50図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP227	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	陰帯上にキザミ	覆土中	
TP228	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	熱帯の圧痕文	覆土中	
TP229	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	にぶい赤褐	普通	無節縄文	覆土中	

### 第1717号土坑 (第51図)

**位置** 調査区南東部のG8b4区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 北部を第137号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径0.98m、短径0.75mの楕円形で、長径方向はN-18°-Wである。深さは50cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

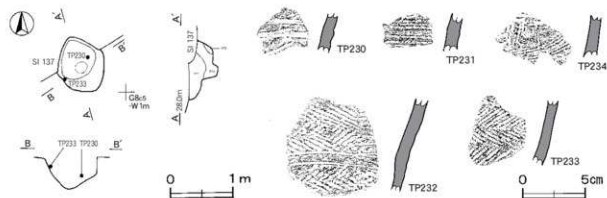
**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

#### 土層解説

- |   |     |                   |   |    |         |
|---|-----|-------------------|---|----|---------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量      |   |    |         |

**遺物出土状況** 縄文土器片18点、剥片1点が出土している。TP230は北東部の覆土中層、TP233は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第51図 第1717号土坑・出土遺物実測図

第1717号土坑出土遺物観察表 (第51図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP230	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	平行沈線文	覆土中層	PL14
TP231	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい橙	普通	熱帯圧痕文	覆土中	PL14
TP232	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	にぶい橙	普通	無節縄文による羽状縄文と平行沈線文	覆土上層	PL13
TP233	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	にぶい褐	普通	無節縄文による羽状縄文	覆土上層	PL14
TP234	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	熱帯圧痕文と刺突文	覆土中	PL14

第1720号土坑 (第52・53図)

**位置** 調査区中央部のF7j8区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 南壁部を第154号住居に、東壁部を第143号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.95m、短径1.67mの楕円形で、長径方向はN-19°-Wである。深さは77cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

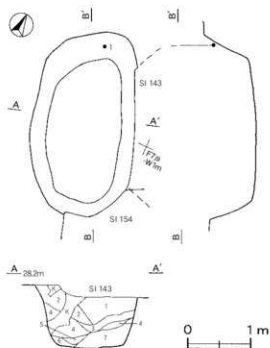
**覆土** 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**

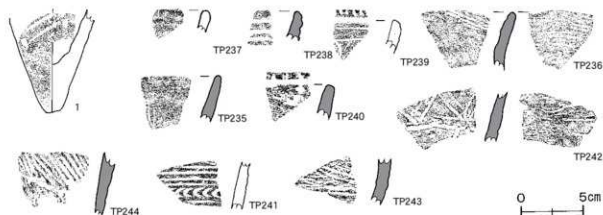
- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・炭化物粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片42点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期と考えられる。



第52図 第1720号土坑実測図



第53図 第1720号土坑出土遺物実測図

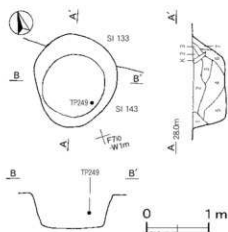
第1720号土坑出土遺物観察表 (第53図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
P 1	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	平行沈線文と爪形刺突文	覆土上層	PL14
TP235	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	条痕文	覆土中	PL14
TP236	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	暗赤褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL14
TP237	縄文土器	深鉢	細砂	橙	普通	無文	覆土中	
TP238	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	平行沈線文	覆土中	
TP239	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口唇部キザミ 沈線文	覆土中	
TP240	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	暗赤褐	普通	口唇部キザミ 無文	覆土中	PL14
TP241	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	平行沈線文と爪形文	覆土中	PL14
TP242	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	褐	普通	平行沈線文	覆土中	PL14
TP243	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	
TP244	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	条痕文	覆土中	PL14

### 第1721号土坑 (第54・55図)

位置 調査区中央部のF7h9区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北壁部を第133号住居に、南部を第143号住居に掘り込まれている。



第54図 第1721号土坑実測図

規模と形状 長径1.45m、短径1.32mの円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

#### 土層解説

- |   |   |   |                     |                        |              |
|---|---|---|---------------------|------------------------|--------------|
| 1 | 褐 | 色 | ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量 |                        |              |
| 2 | 暗 | 褐 | 色                   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |              |
| 3 | 暗 | 褐 | 色                   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      |              |
| 4 | 暗 | 褐 | 色                   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量  |              |
| 5 | 極 | 暗 | 褐                   | 色                      | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 | 暗 | 褐 | 色                   | ロームブロック・焼土粒子微量         |              |
| 7 | 褐 | 色 | ローム粒子・焼土粒子微量        |                        |              |

遺物出土状況 縄文土器片18点が、覆土中から出土している。

TP249は、南東部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期と考えられる。



第55図 第1721号土坑出土遺物実測図

第1721号土坑出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
P 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	無文	覆土中	PL14
TP245	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐色	普通	無節縄文	覆土中	
TP246	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄褐色	普通	平行沈線文	覆土中	PL14
TP247	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	平行沈線文	覆土中	
TP248	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	平行沈線文と爪彫文	覆土中	PL14
TP249	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	無節縄文による羽状縄文	覆土中層	PL14

### 第1722号土坑 (第56図)

**位置** 調査区南部のG 8 d1区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南側が調査区域外に延びているため東西径は2.86mで、南北径は1.65mしか確認できなかった。状況から長径方向N-7°-Wの楕円形と推測される。深さは70cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

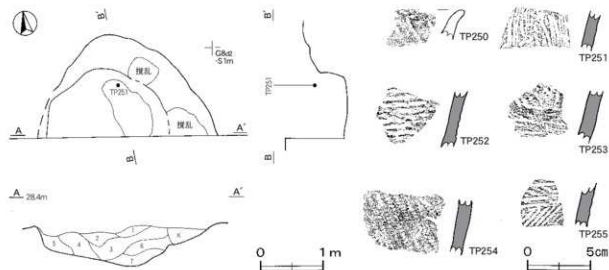
**覆土** 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

#### 土層解説

- |        |                     |       |                |
|--------|---------------------|-------|----------------|
| 1 褐色   | ロームブロック少量、炭化粒子微量    | 5 褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色   | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |       |                |

**遺物出土状況** 縄文土器片11点が、覆土中から出土している。TP251は、北部の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第56図 第1722号土坑・出土遺物実測図

第1722号土坑出土遺物観察表 (第56図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP250	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	普通	熱赤任痕文	覆土中	PL14
TP251	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	熱赤任痕文	覆土上層	PL14
TP252	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒	普通	無節縄文	覆土中	PL14
TP253	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	結条体任痕文	覆土中	PL14
TP254	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	普通	無節縄文	覆土中	PL14
TP255	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	灰褐色	普通	無節縄文と平行波線文	覆土中	

第1723号土坑 (第57図)

位置 調査区南部のG8c2区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径4.22m、短径2.09mの楕円形で、長径方向はN-12°-Wである。深さは13cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

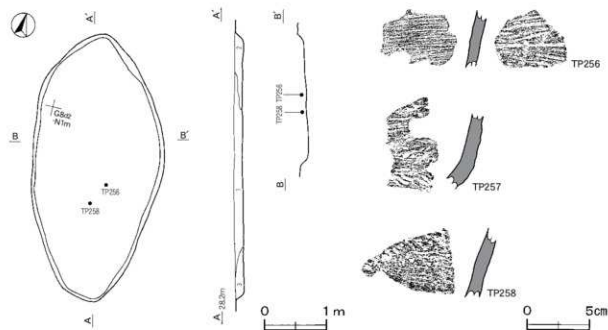
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量      3 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片7点が、覆土中から出土している。TP256・TP258は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第57図 第1723号土坑・出土遺物実測図

第1723号土坑出土遺物観察表 (第57図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP256	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	浅黄褐色	普通	外面条線文 内面条痕文	覆土下層	PL14
TP257	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒褐色	普通	無節縄文	覆土中	PL14
TP258	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	無節縄文	覆土下層	

### 第1852号土坑 (第58図)

**位置** 調査区中央部のF7h0区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.38m、短径1.23mの楕円形で、長径方向はN-24°-Wである。深さは33cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

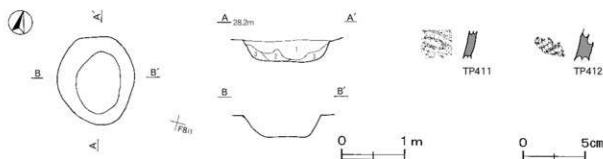
**覆土** 3層に分層できる。レンズ状に堆積しているが、下層が自然堆積で、上層はロームブロックを含んでいる状況から人為堆積である。

#### 土層解説

- |   |     |                |   |    |           |
|---|-----|----------------|---|----|-----------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 | 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 | 褐色  | ローム粒子少量        |   |    |           |

**遺物出土状況** 縄文土器片3点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代前期初頭と考えられる。



第58図 第1852号土坑・出土遺物実測図

### 第1852号土坑出土遺物観察表 (第58図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP411	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	にぶい橙	普通	結条体圧痕文	覆土中	
TP412	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい橙	普通	無節縄文	覆土中	

### 第1853号土坑 (第59図)

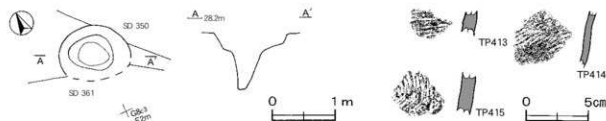
**位置** 調査区南東部のG8b3区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 北壁を第350号溝に、南壁を第361号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.13m、推定短径0.88mの楕円形で、長径方向はN-74°-Wである。深さは93cmで、中で段を有している。

**遺物出土状況** 縄文土器片6点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末から前期初頭と考えられる。



第59図 第1853号土坑・出土遺物実測図

### 第1853号土坑出土遺物観察表 (第59図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP413	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐色	普通	熱赤瓦文	覆土中	
TP414	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	熱赤文	覆土中	
TP415	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐色	普通	条状文	覆土中	

### 第1854号土坑 (第60図)

**位置** 調査区西部のF7h2区で、標高27.5mの台地斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径0.93m、短径0.85mの楕円形で、長径方向はN-71°-Eである。深さは25~31cmで、底部は鍋底である。壁は緩やかに立ち上がっている。

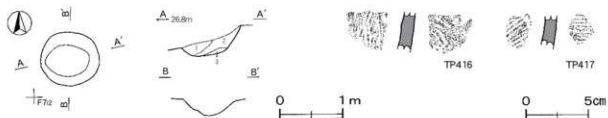
**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 rome 粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 粘土ブロック・rome 粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
 3 にぶい褐色 粘土ブロック・rome 粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片6点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期終末と考えられる。



第60図 第1854号土坑・出土遺物実測図

### 第1854号土坑出土遺物観察表 (第60図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP416	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	外・内面ともに条状文	覆土中	
TP417	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒褐色	普通	外・内面ともに条状文	覆土中	

### 第1855号土坑 (第61・62図)

**位置** 調査区西部のF6h0区で、標高27mの台地斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径1.07m、短径0.93mの不整楕円形で、長径方向はN-14°-Eである。深さは27cmで、底部は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**

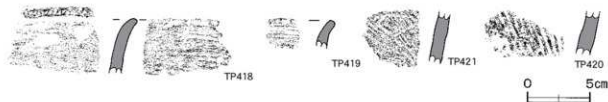
- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、rome 粒子微量  
 2 黒褐色 炭化物少量、rome 粒子・焼土粒子微量  
 3 暗褐色 rome 粒子・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 縄文土器片19点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代早期後葉と考えられる。

第61図 第1855号土坑実測図





第62図 第1855号土坑出土遺物実測図

第1855号土坑出土遺物観察表 (第62図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP418	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	普通	口唇部やザミ 外・内面ともに条痕文	覆土中	PL14
TP419	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	灰褐色	普通	条痕文	覆土中	PL14
TP420	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	赤褐色	普通	外・内面ともに条痕文	覆土中	PL14
TP421	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒褐色	普通	結晶体圧痕文	覆土中	PL14

第1856号土坑 (第63図)

**位置** 調査区西部のF7j1区で、標高27.5mの台地斜面部に位置している。

**規模と形状** 長径0.77m、短径0.70mの楕円形で、長径方向はN-5°-Wである。深さは85cmで、底面は鍋底状である。壁は直立している。

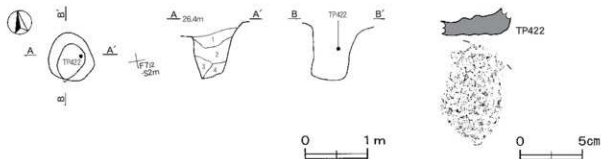
**覆土** 4層に分層できる。下層はブロック状であることから人為堆積、上層はレンズ状であることから自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                     |         |                |
|-------|---------------------|---------|----------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 にぶい褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 暗褐色   | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片3点が、覆土中から出土している。TP422は、覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代前期前葉と考えられる。



第63図 第1856号土坑・出土遺物実測図

第1856号土坑出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP422	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	普通	文様不明	覆土中層	

表4 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m, 深さは cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1647	F 7 f9	不整形円形	N-27°-W	1.92×1.47	84	外傾	平垣	自然	縄文土器	SK1867
1652	G 7 a4	円形	-	0.81×0.76	68	外傾	皿状	自然	縄文土器・石鏃	
1663	F 7 h8	楕円形	N-51°-W	1.73×1.50	117	外傾	平垣	自然	縄文土器	SK1666・SI160→本誌
1664	G 8 a5	[円形]	-	0.75×(0.5)	25	外傾	平垣	人為	縄文土器	本誌→SD353
1666	F 7 g8	楕円形	N-58°-W	2.56×2.09	52	外傾	平垣	自然	縄文土器・石鏃・銅片	SI160→本誌→SK1663・SD354
1672	G 8 c3	不整形円形	-	1.44×1.35	10	外傾	平垣	自然	縄文土器	
1673	G 8 a5	楕円形	N-76°-E	2.40×1.40	18	外傾	平垣	自然	縄文土器	本誌→SI37-6 D353
1677	F 7 e4	楕円形	N-38°-E	1.10×0.84	40	外傾	皿状	自然	縄文土器・銅片	
1678	G 7 c8	楕円形	N-87°-W	1.03×0.92	23	外傾	平垣	自然	縄文土器	
1681	G 7 b8	楕円形	N-83°-E	1.89×1.40	58	外傾	平垣	自然	縄文土器	SI156→本誌
1686	G 7 c2	楕円形	N-39°-E	2.09×1.33	29	緩斜	平垣	自然	縄文土器	
1687	G 7 d2	楕円形	N-7°-E	1.01×0.45	33	外傾	平垣	自然	縄文土器	
1690	F 7 e1	楕円形	N-74°-W	0.79×0.64	12	緩斜	平垣	自然	縄文土器	
1691	F 7 f2	楕円形	N-21°-W	1.43×1.24	22	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
1696	G 7 b4	楕円形	N-75°-W	1.42×1.14	45	外傾	平垣	人為	縄文土器	
1698	G 6 d9	楕円形	N-72°-W	1.19×0.73	90	外傾	平垣	自然	縄文土器	
1701	G 7 c1	楕円形	N-34°-E	2.37×1.44	69	外傾	平垣	自然	縄文土器	SK1706→本誌
1704	G 7 d8	楕円形	N-34°-E	0.47×0.42	37	外傾	皿状	自然	縄文土器	
1706	G 7 c1	[楕円形]	N-6°-E	(0.85)×0.92	19	外傾	平垣	自然	縄文土器	本誌→SK1701
1708	G 6 d0	楕円形	N-11°-E	0.62×0.50	36	外傾	皿状	自然	縄文土器	本誌→SI150
1714	G 7 d1	楕円形	N-10°-W	1.03×0.71	40	外傾	皿状	自然	縄文土器	
1715	G 7 d1	楕円形	N-5°-W	0.97×0.70	32	外傾	平垣	自然	縄文土器	
1716	G 8 c4	楕円形	N-71°-E	1.00×0.72	63	外傾	皿状	自然	縄文土器	
1717	G 8 b4	楕円形	N-18°-W	0.98×0.75	50	外傾	皿状	自然	縄文土器・銅片	本誌→SI137
1720	F 7 j8	楕円形	N-19°-W	2.95×1.67	77	外傾	平垣	自然	縄文土器	本誌→SI154・SI143
1721	F 7 h9	円形	-	1.45×1.32	55	外傾	平垣	自然	縄文土器	本誌→SI133・SI143
1722	G 8 d1	[楕円形]	N-7°-W	(1.65)×2.86	70	外傾	皿状	自然	縄文土器	
1723	G 8 c2	楕円形	N-12°-W	4.22×2.09	13	外傾	平垣	自然	縄文土器	
1852	F 7 h0	楕円形	N-24°-W	1.38×1.23	33	外傾	平垣	自+人	縄文土器	
1853	G 8 b3	楕円形	N-74°-W	1.13×[0.88]	93	直立	有段	不明	縄文土器	本誌→SD350・SD361
1854	F 7 h2	楕円形	N-71°-E	0.93×0.85	25~31	緩斜	鍋底	自然	縄文土器	
1855	F 6 h0	不整形円形	N-14°-E	1.07×0.93	27	外傾	平垣	自然	縄文土器	
1856	F 7 j1	楕円形	N-5°-W	0.77×0.70	85	直立	鍋底	人+自	縄文土器	

## (4) 遺物包含層

## 第2号遺物包含層 (第64~70図)

**確認状況** 調査区の表土を除去した段階で、西部のF6h0区を中心とする斜面部には、縄文土器片を含む黒色土が堆積していることを確認した。地形的には北西から入り込んだ亜支谷の谷頭で、標高24.7~26.7mの斜面である。遺物を包含している範囲は南北16mで、東西は西側が調査区域外に延びているため13mまでしか確認できなかった。

**土層** 確認した部分では17層に分層できる。遺物を包含しているのは、現地地表下1~1.3mに自然堆積している層厚40~80cmの黒褐色を主体とする層であり、遺物は9・10・14層から出土している。



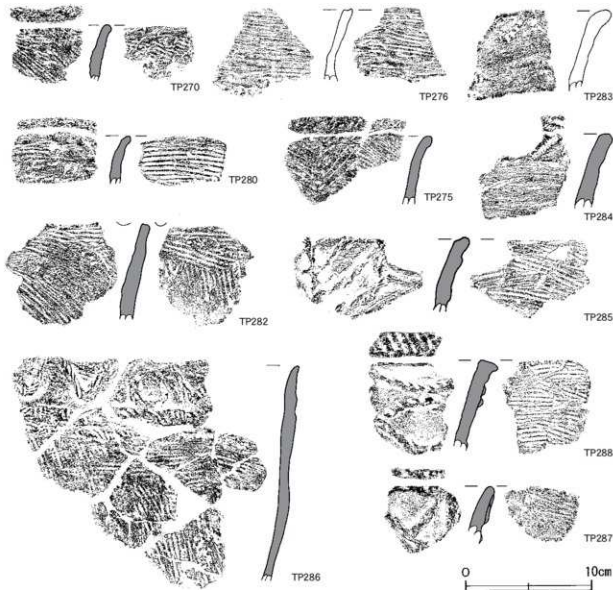
第64图 第2号遺物包含層・出土遺物実測図

土層解説

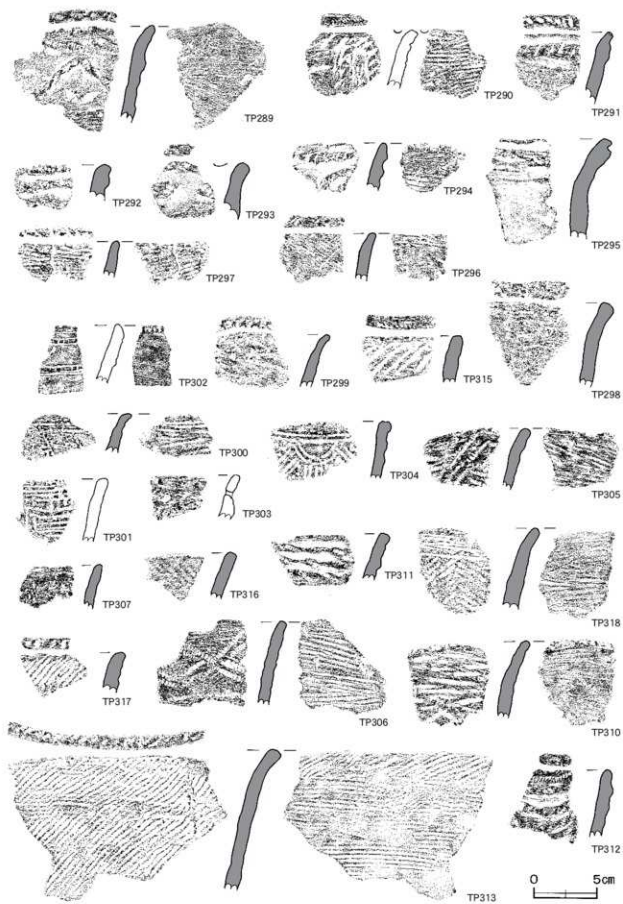
1	褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量	30	横暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	12	褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	13	褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック・細礫微量	14	横暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	16	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量
8	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	17	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物粒子微量			

**遺物出土状況** 縄文土器片2916点、石器・石製品18点（鎌2，匙1，楔形石器1，打製石斧1，磨石13），剥片5点，土師器片3点が出土している。土器片は大部分が細片である。散布状況は、谷底に近いF6 19付近に最も多く、周囲にいくに従って希薄となる。出土土器は、早期終末の条痕文系土器と前期初頭のもの为主体で、早期中葉と中期の土器片も若干認められる。

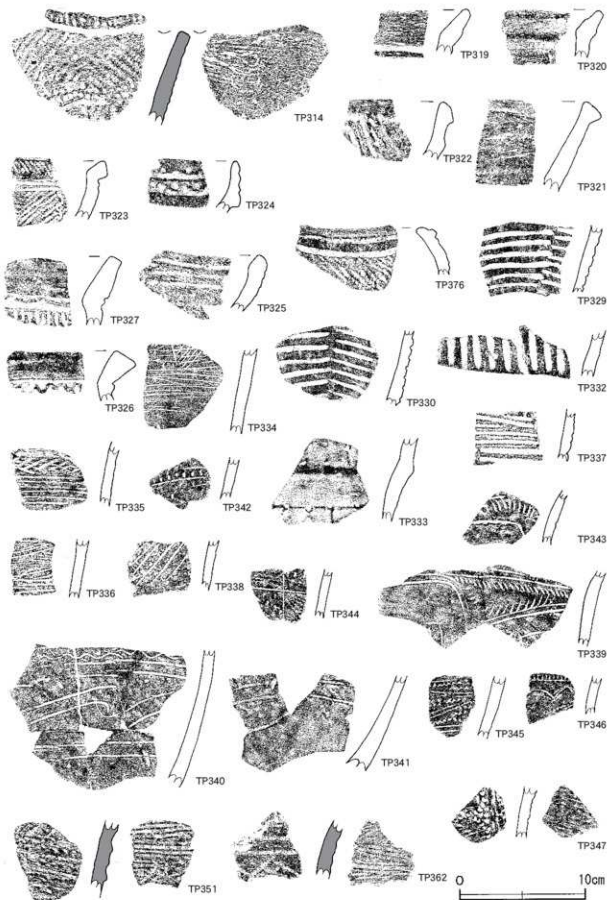
**所見** 確認状況の項でも記したように、遺物の出土地点は北西方向から入り込んだ亜支谷の谷頭にあたり、東側の台地平坦部には早期から前期にかけての集落跡が存在している。出土した土器片等は、東側の集落から流れ込んだか、投棄されたものと考えられる。形成された時期は、出土土器から早期後半から前期初頭である。



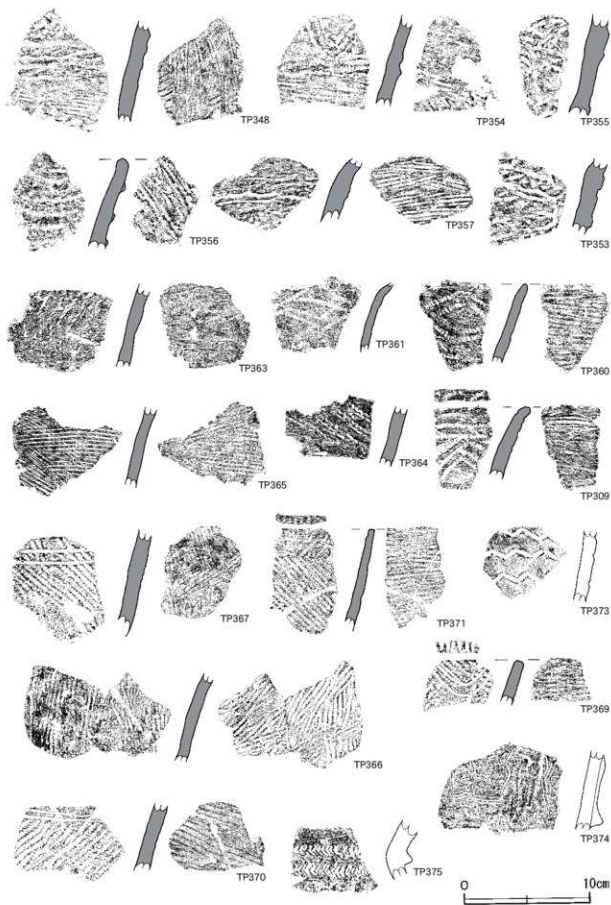
第65図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(1)



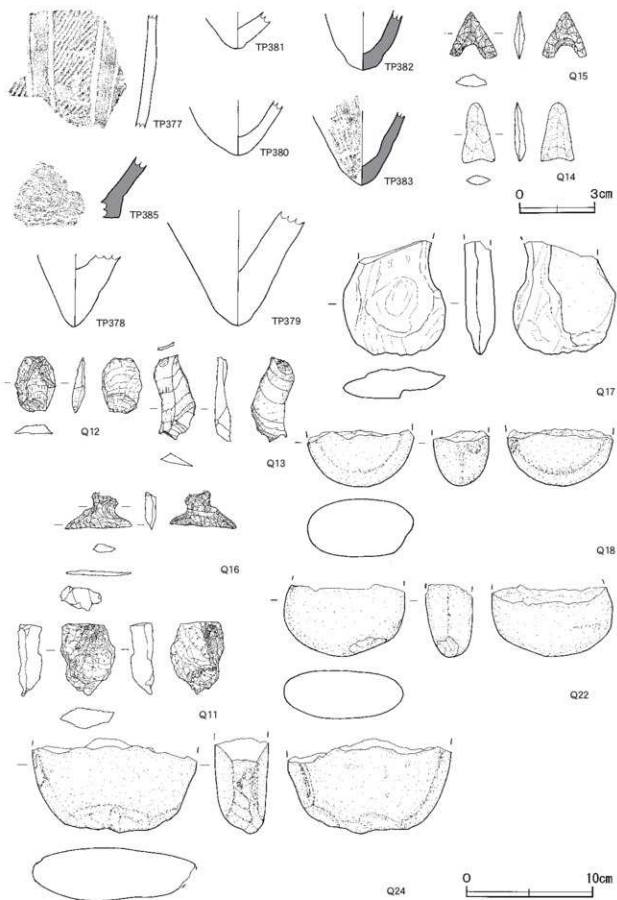
第66图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(2)



第67图 第2号遺物包含層出土遺物実測图(3)

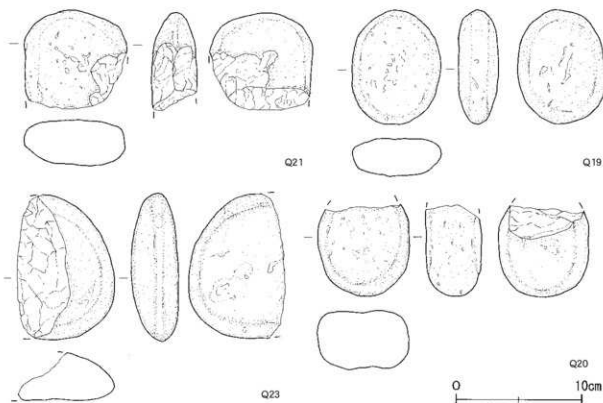


第68图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(4)



第69图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(5)





第70図 第2号遺物包含層出土遺物実測図(6)

第2号遺物包含層出土遺物観察表(第64~70図)

番号	種類	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	備考
TP264	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	半截竹管による平行沈線文	PL15
TP265	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	櫛歯状工具による平行沈線文	PL15
TP266	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	櫛歯状工具による平行沈線文	PL16
TP267	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	横位と縦位の平行沈線文	PL15
TP268	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に平行沈線文 胴部に平行沈線文と刺突文	PL15
TP269	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇部にキザミ 胴部に平行沈線文と半截竹管による刺突文	PL15
TP270	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部給糸体押圧 外・内面ともに条痕文	PL15
TP271	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	条痕文と刺突文	PL15
TP274	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	外面条痕文と刺突文 内面条線文	PL15
TP275	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	暗赤褐	普通	口唇部キザミ 鋸歯状の平行沈線文	PL15
TP276	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	外・内面ともに条痕文 隆帯上に粗いキザミ	PL15
TP278	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒褐	やや不良	無文 補修孔あり	PL15
TP279	縄文土器	深鉢	細砂・雲母	にぶい橙	普通	外・内面ともに条痕文	PL15
TP280	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	外・内面ともに条痕文	PL16
TP282	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	液状口縁 外・内面ともに条痕文	PL15
TP283	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	隆帯上にキザミ	PL15
TP284	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	口唇部・口縁部給糸体圧痕文 内面条痕文	PL15
TP285	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	黒褐	普通	隆帯上に撚糸の押圧 内面条痕文	PL15
TP286	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	にぶい赤褐	やや不良	隆帯上に撚糸の押圧 胴部条痕文 内面条痕文	PL15
TP287	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部・隆帯上に給糸体圧痕文	PL16
TP288	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	口唇部・隆帯上に給糸体圧痕文 内面条痕文	PL15
TP289	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	褐	普通	口唇部・隆帯上に給糸体圧痕文 内面条痕文	PL15
TP290	縄文土器	深鉢	長石・石英	赤褐	普通	隆帯上にキザミ 内面条痕文	PL16
TP291	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	口唇部給糸体押圧 隆帯上にキザミ 内面条痕文	PL15
TP292	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	橙	普通	口唇部・隆帯上に撚糸の押圧	PL16

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	備考
TP293	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	橙	普通	隆帯上に熱糸の押圧	PL16
TP294	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	にぶい赤褐	普通	隆帯上にキザミ 内面糸状文	PL16
TP295	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	にぶい褐	普通	隆帯上に絡糸体押圧	PL15
TP296	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	口唇部にキザミ 外面糸状文 内面糸状文	PL16
TP297	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい橙	普通	口唇部熱糸押圧 外・内面ともに糸状文	PL16
TP298	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	赤褐	普通	口唇部に絡糸体押圧文	PL16
TP299	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	口唇部にキザミ	PL16
TP300	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外面沈線文 内面糸状文	PL16
TP301	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	糸状文	PL16
TP302	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口唇部にキザミ 両側に沈線を有する隆帯上にキザミ	PL16
TP303	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	普通	隆帯 内面糸状文	PL16
TP304	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	半截竹管による平行沈線文 内面縄文	PL16
TP305	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	赤褐	普通	口唇部・胴部絡糸体押圧文	PL16
TP306	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部・胴部絡糸体押圧文 内面糸状文	PL16
TP307	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	絡糸体押圧文	PL16
TP309	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部・胴部絡糸体押圧文	PL16
TP310	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒褐	普通	口唇部・胴部絡糸体押圧文	PL16
TP311	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部・隆帯上に絡糸体押圧文	PL16
TP312	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母	橙	普通	口唇部・隆帯上及び胴部に絡糸体押圧文	PL16
TP313	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	口唇部・外面及び口縁部内面に熱糸文 内面糸状文	PL16
TP314	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	波状口縁 口唇部・外面熱糸文 内面糸状文	PL16
TP315	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	口唇部絡糸体押圧 外面貝殻線文 内面糸状文	PL16
TP316	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	黒褐	普通	熱糸文	PL16
TP317	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	褐	普通	口唇部縄文押圧 外面無節縄文 内面糸状文	PL16
TP318	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外面無節縄文による羽状縄文 内面糸状文	PL15
TP319	縄文土器	深鉢	細砂	橙	普通	口縁部無文 沈線文	PL16
TP320	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	無文	PL17
TP321	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口唇部肥厚 無文	PL17
TP322	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部を隆帯で区画	PL17
TP323	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線による区画内に結節縄文	PL17
TP324	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口縁部下に沈線と凹形刺突文	PL17
TP325	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部下に3条の沈線	PL17
TP326	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部下に細い隆帯を波状に貼り付け 交互に刺突文	PL17
TP327	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部下に細い隆帯を波状に貼り付け、その下に平行沈線文	PL17
TP329	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	横位の平行沈線文	PL17
TP330	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	横位の平行沈線文	PL17
TP332	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	縦位の平行沈線文	PL18
TP333	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐灰	普通	細い隆帯と凹形刺突文	PL17
TP334	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	半截竹管による横位と斜位の平行沈線文	PL17
TP335	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	格子の沈線文と半截竹管による横位の平行沈線文	PL17
TP336	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	半截竹管による平行沈線文と貝殻線文	PL17
TP337	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	平行沈線文と貝殻線文	PL17
TP338	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	斜位の平行沈線文	PL17
TP339	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	平行沈線文と貝殻線文	PL17
TP340	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	平行沈線文と波状沈線文	PL17
TP341	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	平行沈線文	注1) 同一個体 注2) 同一個体
TP342	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	横位の平行沈線文と連続刺突文	PL17
TP343	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	沈線文と貝殻線文	PL17
TP344	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	縦位と横位に沈線で区画 貝殻線文と刺突文を交互に光積	PL17
TP345	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	半截竹管による平行沈線文と貝殻線文貝殻線文	PL17
TP346	縄文土器	深鉢	細砂	にぶい褐	普通	横位・波状の沈線文と貝殻線文	PL17
TP347	縄文土器	深鉢	細砂	橙	普通	糸状文を地文とし、細い隆帯と半截竹管による連続刺突文	PL17
TP348	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	糸状文を地文とし、隆帯上に絡糸体押圧文 内面糸状文	PL17

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	備考
TP351	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒褐	やや不良	隆帯貼り付け 内面条状文	PL17
TP353	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	にぶい赤褐	普通	隆帯上にキザミ	PL18
TP354	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	赤褐	普通	隆帯上に結条体押圧 内面条状文	PL18
TP355	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	明赤褐	普通	隆帯上にキザミ	PL18
TP356	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	明赤褐	普通	隆帯上にキザミ 内面条状文	PL18
TP357	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	にぶい赤褐	普通	隆帯上にキザミ 内面条状文	PL17
TP360	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒褐	普通	結条体圧痕文 内面条状文	PL18
TP361	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	黒褐	普通	結条体圧痕文	PL18
TP362	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい褐	普通	結条体圧痕文 内面条状文	PL18
TP363	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	捩糸圧痕文	PL18
TP364	縄文土器	深鉢	細砂・雲母・繊維	にぶい橙	普通	捩糸圧痕文	PL18
TP365	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	にぶい赤褐	普通	歯輪条工具による集合沈線文	PL18
TP366	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外・内面ともに条状文	
TP367	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	単節縄文を地文とし平行沈線文 内面条状文	PL18
TP369	縄文土器	深鉢	砂粒・雲母・繊維	褐	普通	口唇部キザミ 単節縄文を地文とし平行沈線文 内面条状文	PL18
TP370	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	単節縄文を地文とし平行沈線文 内面条状文	PL18
TP371	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	口唇部キザミ 外面単節縄文 内面条状文	PL18
TP373	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	沈線による鋸歯文	PL18
TP374	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	普通	隆帯による区画文と半截竹管による平行沈線文	PL18
TP375	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯と隆帯に沿って連続刺突文	PL18
TP376	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯に沿って沈線文と単節縄文	PL18
TP377	縄文土器	深鉢	細砂・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文を地文とし、沈線周を磨り消し	PL18
TP378	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	無文	PL18
TP379	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	無文	PL18
TP380	縄文土器	深鉢	細砂	明赤褐	普通	無文	PL18
TP381	縄文土器	深鉢	砂粒	橙	普通	無文	
TP382	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	無文	PL18
TP383	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	灰褐	普通	歯輪状工具による平行沈線文	
TP385	縄文土器	深鉢	細砂・繊維	橙	普通	無文	PL18

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	備考
Q11	割片	5.7	4.2	1.8	44.0	黒曜石	押圧剥離痕	
Q12	楔形石器	4.4	3.0	0.9	14.0	安山岩	押圧剥離による調整	PL26
Q13	割片	6.7	3.3	0.75	12.7	黒曜石	押圧剥離痕	
Q14	石鏃	2.3	1.3	0.38	0.87	トロトロ石	調整痕不明	PL25
Q15	石鏃	1.8	1.9	0.4	0.77	チャート	押圧剥離による調整	PL25
Q16	石匙	(2.8)	5.2	0.8	(6.50)	建質頁岩	押圧剥離による調整	PL26
Q17	打製石斧	(9.1)	8.0	2.4	(190)	安山岩	分銅形 刃部摩滅	PL25
Q18	磨石	(4.6)	8.4	4.5	(209)	安山岩	磨面2面	PL25
Q19	磨石	9.1	7.0	3.1	224.0	安山岩	磨面1面	PL25
Q20	磨石	(7.3)	4.5	7.2	(349)	安山岩	磨面1面	PL25
Q21	磨石	(7.8)	8.1	3.7	(250)	安山岩	磨面1面	PL25
Q22	磨石	(5.7)	9.7	3.7	(261)	安山岩	磨面2面	PL25
Q23	磨石	11.5	(7.7)	3.7	(269)	安山岩	磨面1面	
Q24	磨石	(7.5)	12.9	4.2	(551)	安山岩	磨面1面	PL25

## 2 弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡3軒が確認されており、調査区東半部の標高28mの台地平坦部に位置している。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

### 竪穴住居跡

#### 第135号住居跡（第71～73図）

**位置** 調査区東部のF8h2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第138号住居跡を掘り込み、北壁を第1670号土坑、中央部を第1636号土坑、西壁を第68号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸7.10m、短軸6.20mの隅丸長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は15～32cmで、ほぼ直立している。

**床** はほぼ平坦で、北東側に硬化面が認められる。北東コーナー部、北西コーナー部、及び西壁中央部から南壁中央部にかけての覆土下層から床面には、炭化材が放射状に存在している。

**炉** 3か所。炉1は中央部やや東寄りに位置し、長径80cm、短径67cmの楕円形である。炉2は炉1の北に位置し、長径57cm、短径48cmの楕円形である。両者ともに床面を若干掘り込んだ地床炉で、炉床は火を受けて赤変硬化している。長径方向も両者ともに住居跡の主軸方向と同じである。炉3は南西コーナー部に近いP8の北側に位置し、東半部を第1636号土坑に掘り込まれている。南北径43cmで、東西径は35cmしか確認できなかったが、長径方向がN-73°-Eの楕円形と想定される。床面を皿状に7cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉1・2・3土層解説

- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 5 暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  |                              |

**ピット** 13か所。各コーナー部寄りに位置しているP1～P4は、深さ31～77cmで規模と位置的に主柱穴である。南壁寄りに位置しているP5は、深さ21cmで出入り口施設に伴う柱穴とみられる。P6・P8～P13は深さ15～43cmで、いずれも性格は不明である。

**埋壺** 南壁寄りに位置しているP7は、径44cmの円形で、深さ43cmである。このピット内に頸部から上位を切断された壺（3）が正位で埋設され、その上に別個体の壺の胴部（TP395）が蓋状に被せられていた。壺の内部から、炭化種実2点が出土した。種類同定を実施した結果、イネとオオムギであった。そのうちのイネについて放射性炭素年代測定を実施したところ、「暦年較正值ではAD1642以降となり、後代のものが混入した可能性がある」との結果がだされた。オオムギについては年代測定を実施していないため、埋設土器に伴うものであるか否か結論づけることは困難であるので、種実が出土したということに止めておきたい。埋壺の性格は、食料の貯蔵穴と住居内埋葬の可能性が考えられるが、別個体の蓋が被せられていたことや同時期の他の例から後者の可能性が大である。

#### 埋壺土層解説

- |                             |                 |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子微量   |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量               | 7 暗褐色 ローム粒子中量   |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量             |                 |

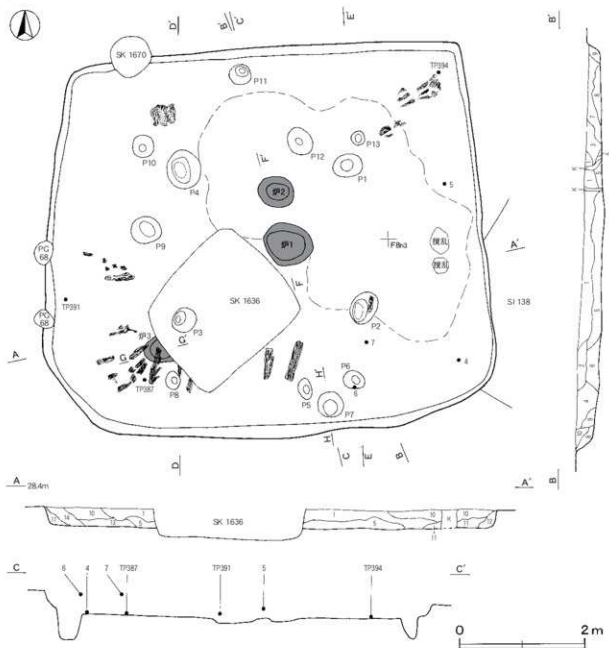
**覆土** 14層に分層できる。7・8層は、ロームブロックが含まれていることや堆積状況から人為堆積とみられるが、他の層は堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- |          |                      |           |                     |
|----------|----------------------|-----------|---------------------|
| 1 極 暗 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量         | 8 褐 色     | ロームブロック少量、焼土粒子微量    |
| 2 極 暗 褐色 | ロームブロック微量            | 9 褐 色     | ローム粒子中量、焼土粒子微量      |
| 3 暗 褐色   | ローム粒子・焼土粒子微量         | 10 極 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量        |
| 4 暗 褐色   | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  | 11 暗 褐色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 5 暗 褐色   | 炭化材・焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 12 暗 褐色   | ローム粒子少量、焼土粒子微量      |
| 6 暗 褐色   | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 13 暗 褐色   | 炭化材中量、ローム粒子微量       |
| 7 暗 褐色   | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 14 暗 褐色   | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |

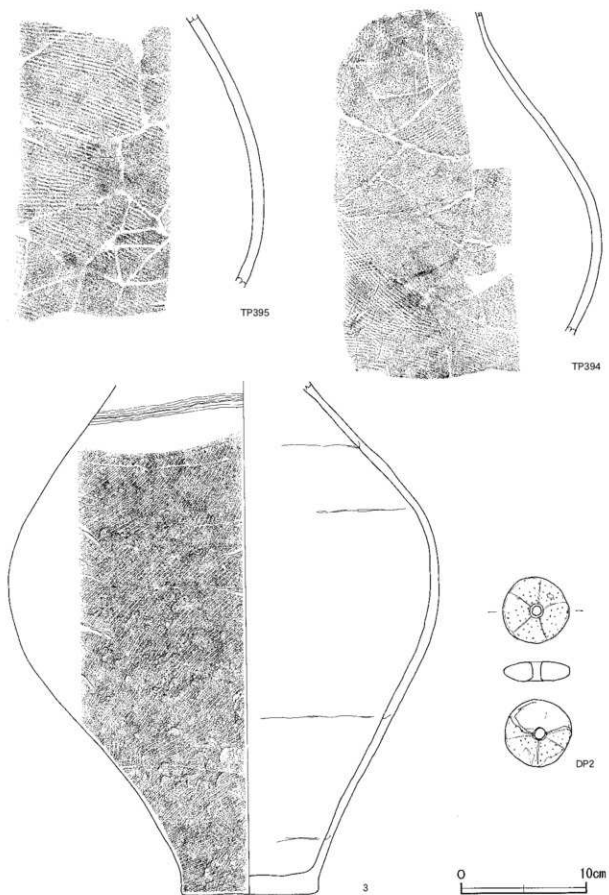
遺物出土状況 弥生土器壺6点、土製紡錘車1点のほか、弥生土器片120点が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片202点、石鏃2点、剥片2点も出土している。4は南東コーナー部の床面、5は東壁際北寄りの覆土中層、6・7は南壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。TP387は南西コーナー寄りの床面、TP391は西壁際の覆土下層、TP394は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。炭化材は柱状のものが多く、上屋を構築していた建築部材とみられ、住居が焼失したことを物語っている。



第71図 第135号住居跡実測図





第73図 第135号住居跡出土遺物実測図

第135号住居跡出土遺物観察表 (第72・73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
3	弥生土器	壺	-	(40.7)	11.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部縞線模文 胴部附加条一種	P7内	90% PL19
4	弥生土器	壺	-	(20.1)	9.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条一種 (附加1条) 縄文	南東隅床面	50% PL19
5	弥生土器	壺	-	(4.2)	7.8	長石・石英・雲母	橙	普通	縄文	東壁中層	10% PL19
6	弥生土器	壺	-	(2.5)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種 (附加2条) 縄文 底部木葉痕	南東上層	5%
7	弥生土器	壺	-	(2.2)	6.7	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胴部附加条一種 (附加2条) 縄文 底部木葉痕	南東上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP387	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部キザミ	南西部床面	PL20
TP388	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部6本一組の齒歯状工具による平行沈線文	覆土中	PL20
TP389	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	頸部縞線模文 胴部附加条一種縄文	覆土中	PL20
TP390	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部5本一組の齒歯状工具による沈線文 胴部附加条一種縄文	覆土中	PL20
TP391	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部無文 胴部附加条一種縄文	西壁下層	PL20
TP392	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部縞線文	覆土中	PL20
TP393	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	頸部斜格子文	覆土中	PL20
TP394	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	頸部無文 胴部附加条一種縄文	北東隅床面	PL19
TP395	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	附加条一種縄文	P7内	PL19

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP2	紡錘車	5.3	1.5	0.8	(35.4)	土	両面に放射状の沈線と刺突文	覆土中	PL24

## 第145号住居跡 (第74・75図)

位置 調査区東部のG8a2区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第146号住居跡を掘り込み、西半部を第140号住居、中央部を第350号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.58m、短軸6.45mの隅丸長方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は20~55cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された部分はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

ピット 22か所。各コーナー部寄りに位置しているP1~P4は深さ13~24cmと浅いが、位置から主柱穴と考えられる。南壁寄りに位置しているP5は深さ12cmで、出入り口の施設に伴う柱穴の可能性がある。P6~P8の性格は不明である。P9~P22は深さ10cm内外で、壁際にほぼ等間隔で配されており、壁柱穴の可能性もあるが、壁から30cmほど離れていることから断定はできない。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックを若干含んでいる層もあるが、堆積状況から自然堆積とみられる。

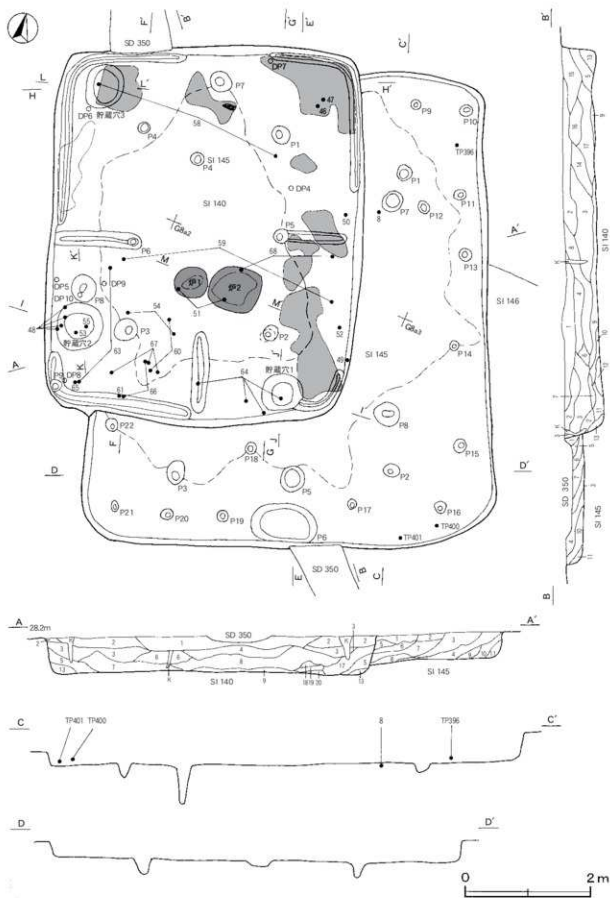
## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	10 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量		

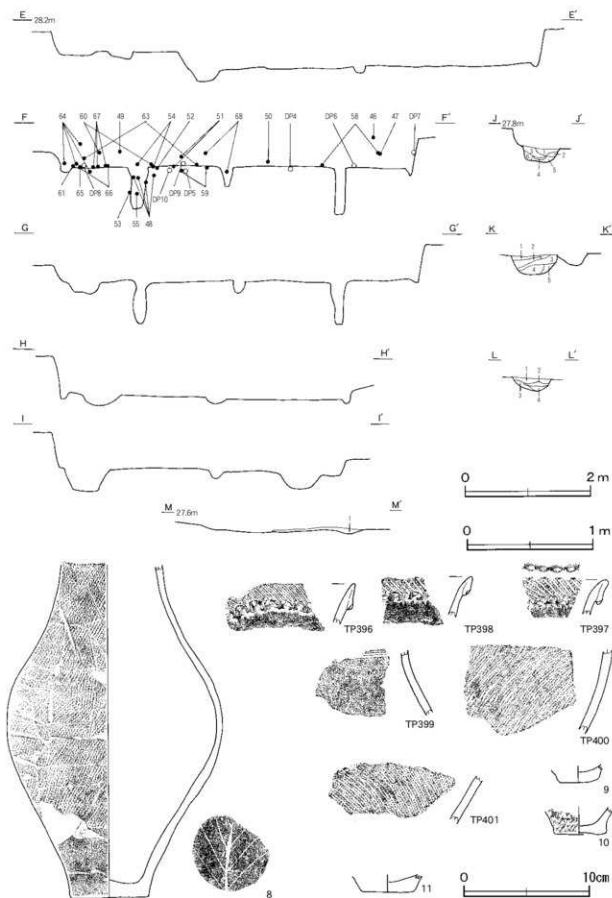
遺物出土状況 弥生土器壺1点のほか、弥生土器片78点が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片228点、剥片5点も出土している。8は北東部の床面、TP396は北東コーナー部付近、TP400・TP401は南東コーナー部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。





第74図 第140・145号住居跡実測図



第75图 第140·145号住居跡、第145号住居跡出土遺物実測図

第145号住居跡出土遺物観察表 (第75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
8	弥生土器	壺	-	(26.2)	6.2	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	頸部無文 胴部附加条一種縄文	北東部床面	70% PL19
9	弥生土器	壺	-	(1.5)	3.0	長石・石英	にぶい褐色	普通	無文	覆土中	5%
10	弥生土器	壺	-	(2.2)	4.2	長石・石英	褐色	普通	附加条縄文	覆土中	5%
11	弥生土器	壺	-	(1.5)	4.2	長石・石英	褐色	普通	無文	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP396	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	褐色	普通	口唇部縄文押圧 口縁部縄文施文後、指頭押圧	北東部下層	PL20
TP397	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口唇部・口縁部下層指頭押圧 口縁部附加条一種縄文	覆土中	PL20
TP398	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部附加条一種縄文 口縁部下層棒状工具押圧	覆土中	PL20
TP399	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	頸部脚面状工具による平行沈線文	覆土中	PL20
TP400	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	褐色	普通	附加条一種縄文	南東隅下層	PL20
TP401	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	附加条一種縄文	南東隅下層	PL20

第152号住居跡 (第76・77図)

位置 調査区南東部のG 8 d2区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 大部分が調査区域外で北コーナー部しか確認できなかったため、北西-南東軸は3.0m、北東-南西軸は1.6mが確認されただけで、隅丸方形あるいは隅丸長方形と推測される。壁高は25~27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 確認された部分はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

ピット P1は深さ15cmで、北コーナー部に位置していることから主柱穴と考えられる。

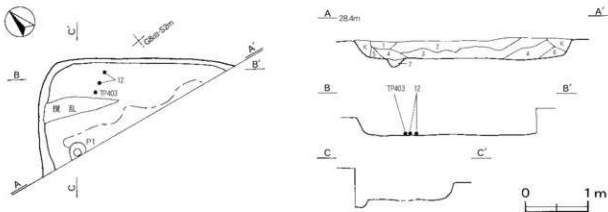
覆土 7層に分層できる。3・4層はロームブロックを含み、堆積状況から人為堆積とみられるが、その他の層は堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- |       |   |                       |      |   |                  |
|-------|---|-----------------------|------|---|------------------|
| 1 暗褐色 | 色 | ローム粒子微量               | 5 褐色 | 色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量   |
| 2 黒褐色 | 色 | 焼土粒ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量  | 6 褐色 | 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | 色 | ロームブロック微量 (P1覆土) |
| 4 暗褐色 | 色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |      |   |                  |

遺物出土状況 弥生土器壺1点のほか、弥生土器片15点が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片28点や土師器片14点も出土している。12・TP403は、北コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第76図 第152号住居跡実測図



第77図 第152号住居跡出土遺物実測図

第152号住居跡出土遺物観察表 (第77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
12	弥生土器	壺	[13.2]	(6.6)	-	長石・石英	赤褐	普通	口唇部・口縁部・頸部附加条一種縄文	北西部床面	5% PL19

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP402	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	暗褐	普通	口唇部・口縁部附加条一種縄文 下端指頭押圧	覆土中	PL20
TP403	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部下端指頭押圧	北部床面	PL20

表5 弥生時代住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期
								柱穴	竪入口	ゾット	炉	貯蔵穴				
135	F 8 h2	隅丸長方形	N-2°-W	7.10×6.20	15~32	平坦	-	4	1	8	3	-	人為・自然	弥生土器・埴輪・粘土	後期	
145	G 8 a2	隅丸長方形	N-22°-W	7.58×6.45	20~55	平坦	-	4	1	17	-	-	自然	弥生土器	後期	
152	G 8 a2	[隅丸長方形]	-	(3.0×1.6)	25~27	平坦	-	1	-	-	-	-	人為・自然	弥生土器	後期	

### 3 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡9軒、土坑4基、溝跡1条が確認されている。これらの遺構は、調査区東半部の標高28mの台地平坦部に位置している。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

#### (1) 竪穴住居跡

##### 第133号住居跡 (第78・79図)

**位置** 調査区北部のF7g0区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第143・159・161号住居跡、第3号陥し穴、第1721号土坑を掘り込み、南西部を第1648号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.48m、短軸5.85mの隅丸長方形で、主軸方向はN-34°-Eである。壁高は12~29cmで、外傾して立ち上がっている。北壁から東壁にかけて、壁溝が認められる。

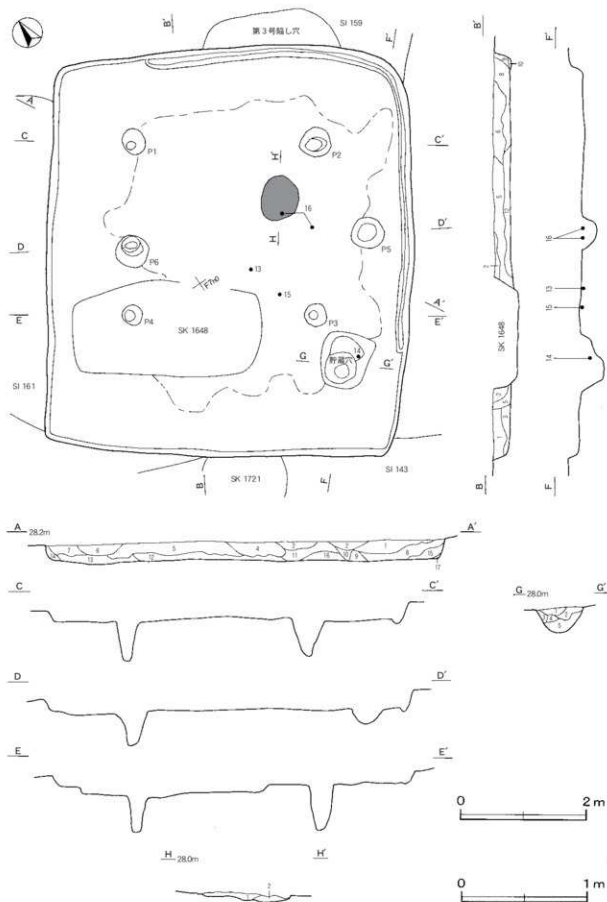
**床** ほぼ平坦であるが、北部に向かって若干傾斜している。壁際を除いて硬化面が認められる。

**炉** 中央部のP2寄りに付設された地床炉である。長径75cm、短径62cmの楕円形で、長径方向は住居跡の主軸方向と同じである。東半部の炉床に焼土ブロックを含んだ粘土が存在していたが、性格は不明である。また、炉床の北部から炉石とみられる火を受けた礫が出土している。

#### 炉土層解説

1 褐灰色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量      2 赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量

**ピット** 6か所。各コーナー部寄りに位置しているP1~P4は、深さ55~71cmで規模と位置から主柱穴であ



第78図 第133号住居跡実測図

る。南東壁寄りに位置しているP5は深さ23cm、北西壁寄りに位置しているP6は深さ54cmで、ともに補助柱穴の可能性はある。

**貯蔵穴** 南コーナー部に位置し、長軸89cm、短軸72cmの隅丸長方形で、深さは40cmである。底面は南半部が深く、段をなしている。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |                     |        |                   |
|-------|---------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量      | 5 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量  |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量      |        |                   |

**覆土** 17層に分层できる。9～12・16層は、ロームブロックが含まれていることや堆積状況から人為堆積とみられるが、その他の層は自然堆積である。

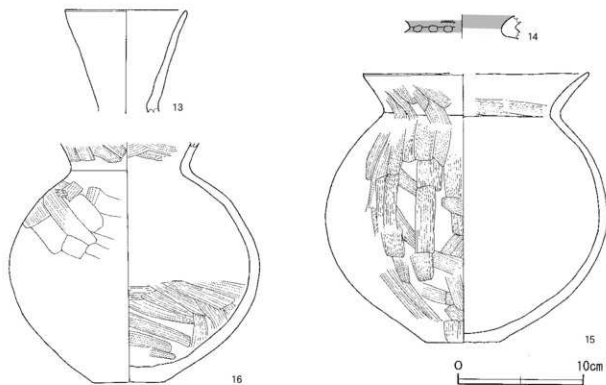
**土層解説**

- |        |                       |         |                         |
|--------|-----------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量   | 10 黒褐色  | 炭化粒子中量、ローム粒子微量          |
| 2 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     | 11 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量   |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 12 暗褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量   | 13 黒褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量        |
| 5 極暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 14 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子微量        |
| 6 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量   |
| 7 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 16 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量   |
| 8 黒褐色  | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量   | 17 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量          |
| 9 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量      |         |                         |

**遺物出土状況** 土師器甕1点、壺1点、甕2点のほか、土師器片349点（器台4・高坏4・甕341）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片374点、弥生土器片6点、須恵器片2点、石鏃1点も出土している。遺物の大半は、東半部の切跡から貯蔵穴付近にかけての覆土下層から床面にかけて出土している。

13・15・16は中央部東壁寄りの床面、14は貯蔵穴の覆土中層から出土しており、遺棄されたものとみられる。

**所見** 時期は、古墳時代前期である。



第79図 第133号住居跡出土遺物実測図

第133号住居跡出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
13	土師器	埴	9.7	(8.2)	-	長石・石英・チャート	明赤褐	普通	器面剥落により不明	床面	40%
14	土師器	壺	-	(1.9)	-	長石・石英・角閃石	明赤褐	普通	頸部外面磨位、内面磨位のヘラ磨き	貯蔵穴内	5%
15	土師器	甕	[18.1]	21.3	6.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面磨位・斜位、口縁内面磨位のハケ目	床面	80% PL22
16	土師器	甕	-	(19.0)	5.8	長石・石英・スコリア	橙	普通	頸部・体部斜位、口縁内面磨位のハケ目	床面	70%

第137号住居跡（第80・81図）

**位置** 調査区南東部のG 8 b4区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第146号住居跡、第1717号土坑を掘り込み、南西コーナー付近を第350号溝と第1641号土坑、東壁部を第1673号土坑、東壁寄りを第1676号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.37m、短軸5.60mの隅丸長方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は15~22cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほは平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。南コーナー部寄りの床面に、焼土塊が2か所存在していた。

**炉** 西壁寄りに付設された地床炉である。南半部が第1641号土坑によって失われているため、東西径53cmで、南北径は43cmしか確認できなかった。

**伊土層解説**

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量

2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

**ビット** 6か所。各コーナー部寄りに位置しているP1~P4は、深さ31~77cmで規模と位置から主柱穴である。南壁寄りのP5は深さ22cm、北壁寄りのP6は深さ16cmで、ともに後世のビットの可能性がある。

**覆土** 10層に分層できる。4・6・7層は、ロームブロックが含まれていることや堆積状況から人為堆積とみられるが、その他の層は自然堆積である。

**土層解説**

1 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量

6 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

2 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

7 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

3 褐色 ロームブロック中量

8 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

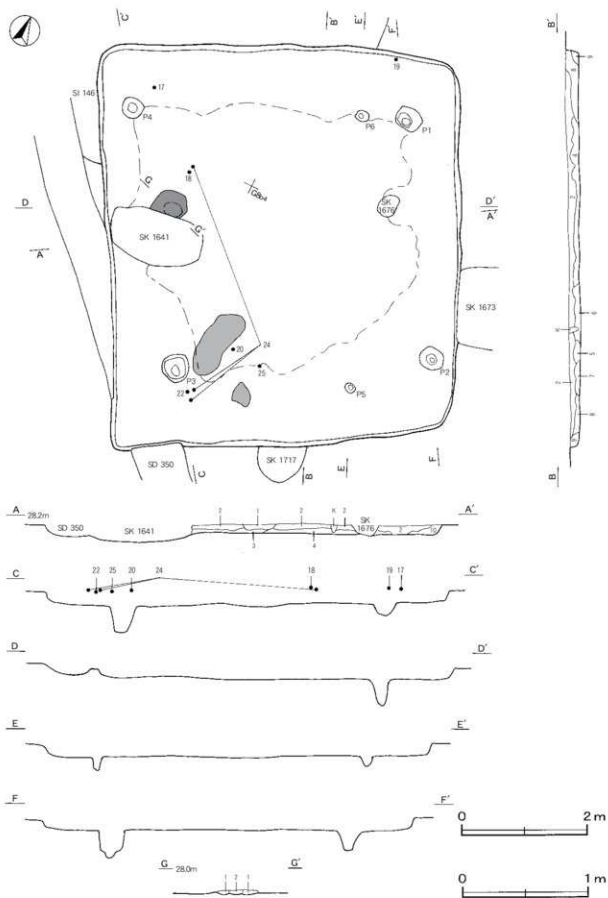
9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

10 暗褐色 ロームブロック少量

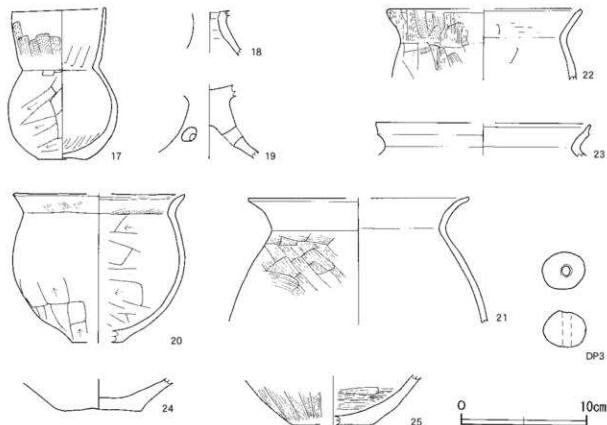
**遺物出土状況** 土師器埴・器台・高坏各1点、甕6点、球状土錘1点のほか、土師器片311点（高坏8・壺2・甕301）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片308点、弥生土器片20点、須恵器片2点、剥片17点も出土している。ほとんどの遺物が、覆土上層からの出土である。17・18は西コーナー部、19は北コーナー部、20・22・25は南コーナー部寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。24は西壁寄りの広範囲の覆土上層から出土した破片が接合したものである。

**所見** 遺物の多くは覆土上層から出土しているもので、本住居に伴う可能性は低い。時期は、出土土器と住居の様相から古墳時代前期と想定される。



第80图 第137号住居跡実測図





第81図 第137号住居跡出土遺物実測図

第137号住居跡出土遺物観察表 (第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴はか	出土位置	備考
17	土師器	埴	7.3	11.9	4.0	細砂	橙	普通	口縁部縦位のハケ目 体部斜位のヘラ削り	覆土上層	98% PL21
18	土師器	器台	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面縦位のヘラ削き 内面縦位のヘラナデ	覆土上層	5%
19	土師器	高坏	-	(5.9)	-	細砂	橙	普通	肩部外面ハケ目の後、斜位のヘラ削き	覆土上層	10%
20	土師器	甕	[13.6]	11.8	[4.2]	長石・石英・スコリア	橙	普通	口縁部横位のハケ目 体部縦位のヘラ削り	覆土上層	30%
21	土師器	甕	[17.8]	(10.0)	-	長石・石英・スコリア	灰黄褐	普通	体部外面斜位のハケ目 内面ナデ	覆土中	5%
22	土師器	甕	[15.2]	(5.5)	-	細砂	にふい橙	普通	口縁部・体部外面縦位のハケ目	覆土上層	5%
23	土師器	甕	[17.0]	(2.5)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外面ナデ 内面ハケ目の後ナデ	覆土中	5%
24	土師器	甕	-	(2.5)	6.7	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り	覆土上層	5%
25	土師器	甕	-	(3.9)	[6.4]	長石・石英	にふい黄橙	普通	体部外面縦位、内面横位のハケ目	覆土上層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 3	球状土師	3.3	2.9	0.8	27.4	(細砂)	一方向から穿孔 ヘラ傷有り	覆土中	PL24

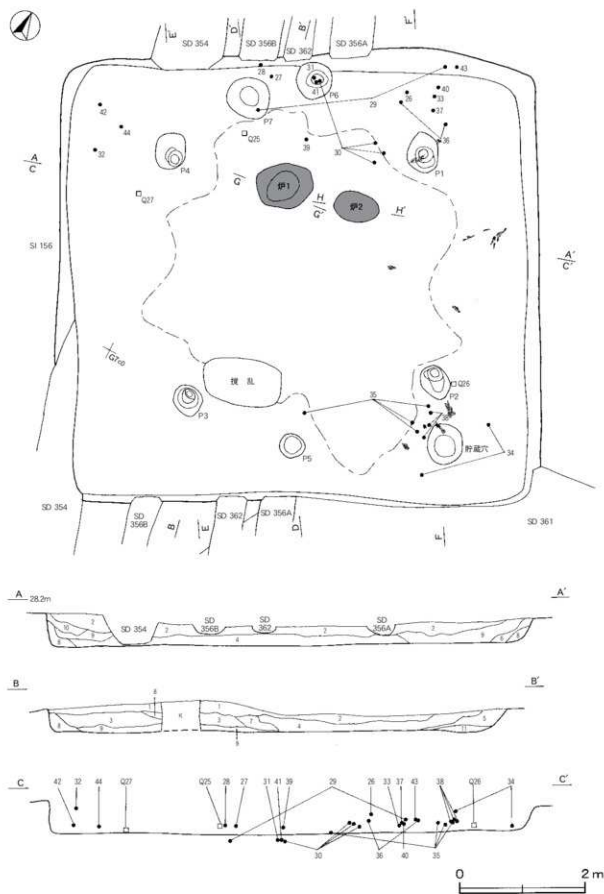
### 第139号住居跡 (第82~87図)

位置 調査区南部のG7b0区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

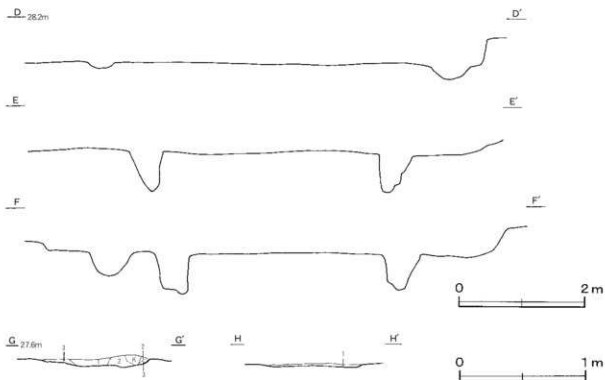
重複関係 第156号住居跡を掘り込み、第354・356A・356B・361・362号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.67m、短軸7.04mの隅丸方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁高は14~48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほは平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。北壁寄りの一部は貼床である。南壁及び東壁寄りの床面



第82图 第139号住居跡实测图(1)



第83図 第139号住居跡実測図(2)

に、柱状の炭化材が数か所存在していた。

**炉** 2か所。両者とも中央部の北西壁寄りに付設された地床炉である。炉1はP1とP4の中間に位置し、長径91cm、短径72cmの楕円形で、床面を10cm掘り込んでいる。炉2は、炉1の東側に位置し、長径71cm、短径45cmの楕円形で、床面を炉床としている。

**炉1土層解説**

- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量    | 3 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |                            |

**炉2土層解説**

- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量

**ピット** 7か所。各コーナー部寄りに位置しているP1～P4は、深さ56～62cmで規模と位置から主柱穴である。南壁寄りのP5は深さ9cmで、炉と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットとみられる。北壁寄りのP6は深さ13cm、P7は深さ19cmで、ともに性格は不明である。

**貯蔵穴** 南東コーナー部に位置しており、長径62cm、短径56cmの楕円形で、深さは36cmである。底面は鍋底状で、壁はわずかに外傾して立ち上がっている。

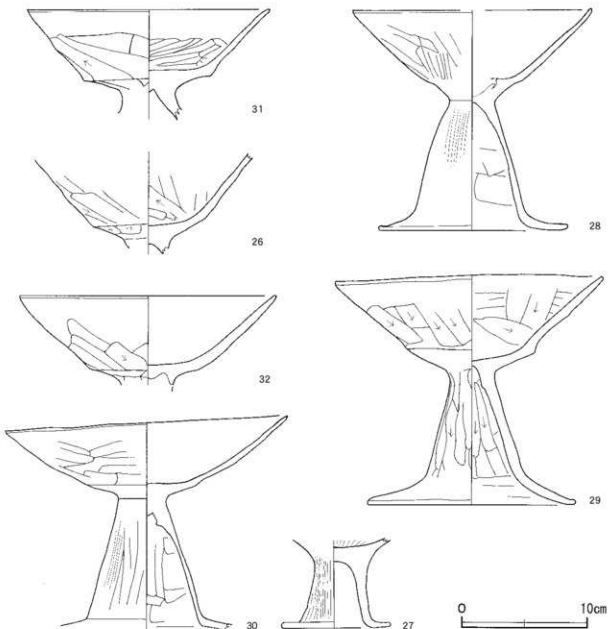
**覆土** 11層に分層できる。2・4・5・7層は、ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることや堆積状況から人為堆積とみられるが、その他の層は自然堆積である。

**土層解説**

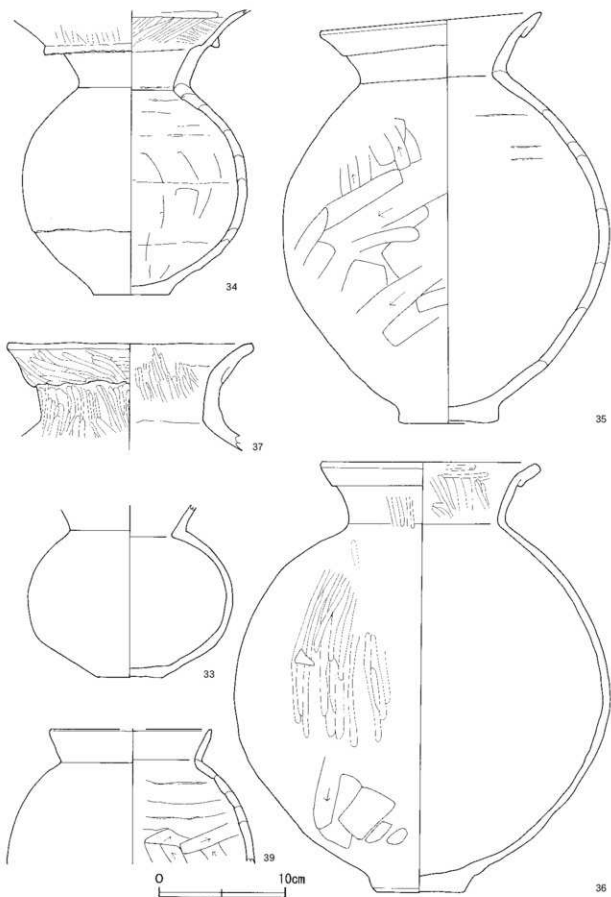
- |                              |                                 |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量     | 7 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量           |
| 2 極暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量  | 8 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量             |
| 3 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物微量           | 9 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量      |
| 4 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量         | 10 極暗褐色 炭化物・焼土粒子微量              |
| 5 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量     | 11 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |                                 |

**遺物出土状況** 土師器高坏10点、壺13点、甕7点、石製品3点（勾玉・勾玉模造品・紡錘車）のほか、土師器片1853点（器台2・高坏87・壺82・甕1682）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片105点、弥生土器片61点、須恵器片1点、陶器片1点、鉄製品1点（不明）、剥片11点、種実1点（不明）も出土している。遺物の大半は、北壁寄りと東壁寄りの主柱穴を結んだ外側の覆土中層から出土している。特にP1と貯蔵穴及び炉跡の北側に集中している。26・29は北東コーナー部、32は北西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。27・28・39・Q25は北壁寄り、33・37・40は北東コーナー部寄り、Q26は南東コーナー部寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。30は北壁寄りとP6内から、36は北東コーナー部付近から出土した破片が接合したものである。34・35・38は、南東コーナー部付近から出土した破片が接合したものである。

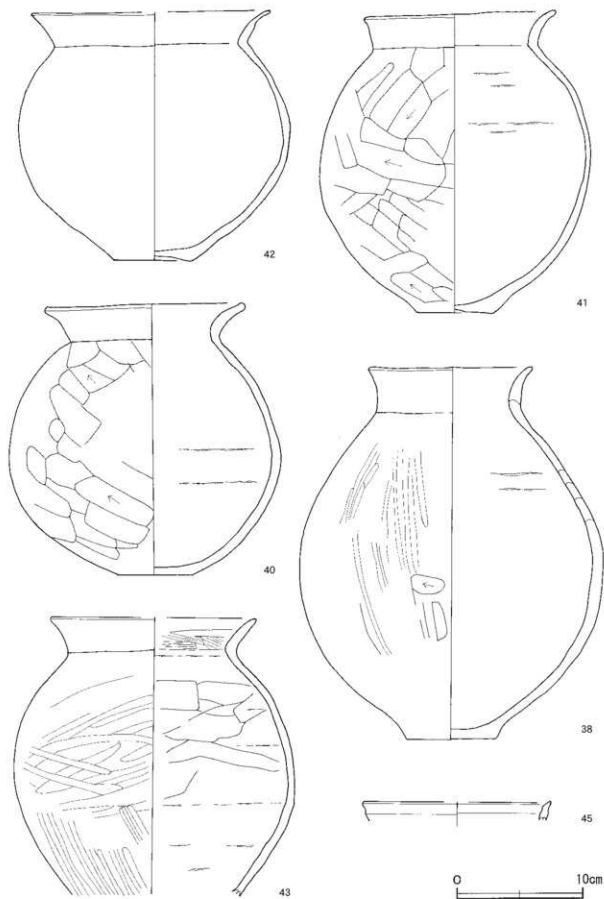
**所見** 遺物の多くは覆土中層からのもので、いずれも廃絶後に流れ込んだものとみられ、当住居に伴うものではない。時期は、出土土器の時期と大差は無いと思われることから、前期後半に比定できる。床面から炭化材が出土していることから、焼失住居とみられる。



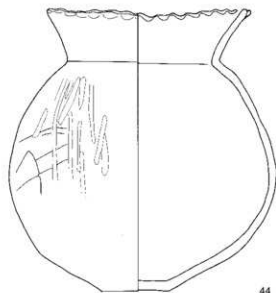
第84図 第139号住居跡出土遺物実測図（1）



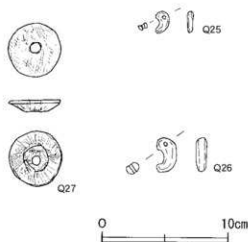
第85图 第139号住居跡出土遺物実測図(2)



第86图 第139号住居跡出土遺物実測図(3)



第87図 第139号住居跡出土遺物実測図(4)



第139号住居跡出土遺物観察表 (第84~87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
26	土師器	高坏	-	(7.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	坏部上半斜位・下半横位のヘラ削り	覆土上層	30%
27	土師器	高坏	-	(7.1)	8.5	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部外面斜位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ	覆土中層	30% PL21
28	土師器	高坏	[19.1]	17.4	15.0	長石・石英	橙	普通	胴部外面斜位のヘラナデ, 胴部横位のヘラ磨き	覆土中層	50% PL21
29	土師器	高坏	21.3	18.0	16.6	長石・石英・スコリア	明赤褐	普通	坏部内・外面斜位のヘラナデ, 胴部内面削り	P 7 内	30% PL21
30	土師器	高坏	22.3	(17.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	坏部外面斜位のヘラナデ	覆土中層	60%
31	土師器	高坏	19.4	(8.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部外面斜位のヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	P 6 内	60% PL21
32	土師器	高坏	20.4	(7.0)	-	長石・石英・スコリア	橙	普通	坏部外面斜位のヘラナデ 内面ナデ	覆土上層	50%
33	土師器	壺	-	(13.7)	5.0	長石・石英・スコリア	明赤褐	普通	体部外面斜位のヘラナデ	覆土中層	60% PL23
34	土師器	壺	-	(22.6)	6.0	長石・石英・チャート	にぶい橙	普通	口縁部内面斜位のヘラ磨き 胴部横位のヘラナデ	覆土上層	70%
35	土師器	壺	17.4	32.6	7.8	長石・石英・チャート	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面斜位のヘラナデ	覆土中層	60% PL23
36	土師器	壺	17.0	34.2	6.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面斜位, 体部上半横位のヘラ磨き	覆土中層	70% PL23
37	土師器	壺	19.1	(8.5)	-	長石・石英・チャート	にぶい赤褐	普通	胴部外・内面横位のヘラ磨き	覆土中層	20%
38	土師器	壺	12.9	29.5	7.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面斜位のヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中層	60% PL23
39	土師器	甕	[12.7]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部・体部外面ナデ	覆土中層	20%
40	土師器	甕	15.4	21.5	6.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面斜位のヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	30% PL22
41	土師器	甕	15.0	24.0	6.1	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面斜位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	P 6 内	70% PL22
42	土師器	甕	[19.0]	19.8	6.1	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面ナデ	覆土下層	70% PL22
43	土師器	甕	[16.4]	(22.0)	-	長石・石英	橙	普通	体部上半斜位, 下半横位のヘラ磨き	覆土中層	70% PL22
44	土師器	甕	16.0	22.5	4.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面斜位, 内面横位のヘラナデ	覆土下層	60% PL22
45	土師器	甕	[15.0]	(1.5)	-	礫砂	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q25	勾玉模造品	1.79	1.15	0.44	0.2	1.34	滑石	完形 屈曲部は丁寧な面取り	覆土中層	PL26
Q26	勾玉	2.7	1.6	0.8	0.2	4.50	鮫紋岩	完形 孔は両面から穿っている	覆土中層	PL26
Q27	紡錘車	4.2	-	0.9	0.8	22.6	滑石	完形 下面は放射状の磨り	覆土下層	PL26

## 第140号住居跡（第74・88・89図）

**位置** 調査区南東部のG8a2区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第145号住居跡を掘り込み、中央部を第350号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.05m、短軸4.95mの隅丸長方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は48~57cmで、ほぼ直立している。

**床** はほぼ平坦であるが、南側に向かって若干傾斜している。壁際を除いて硬化面が認められる。各コーナー部には壁溝が存在している。また、東壁・南壁及び西壁の中央部から住居の中心部へ向かって間仕切り溝が延びている。東壁・西壁から延びている間仕切り溝の端部には、深さ30cmほどのピットが存在している。南西コーナー部を除く各壁際の床面及び覆土下層には焼土がブロック状に堆積しており、北壁寄りには炭化材が若干認められる。

**炉** 2か所。両者ともに中央部の南壁寄りに付設された地床炉である。炉1はやや西側に位置し、長径55cm、短径49cmの楕円形で、炉床は床面とはほぼ同じである。炉2は、炉1の東側に位置し、長径83cm、短径70cmの楕円形で、床面を6cm掘り込んでいる。

### 炉2土層解説

1 極暗褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

**ピット** 9か所。各コーナー部寄りに位置しているP1~P4は、深さ60~70cmで規模と位置から主柱穴である。北壁寄りに位置しているP7は深さ10cmで、炉と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットとみられる。P5、P6は、間仕切り溝の端部に位置しているピットである。西壁寄りに位置しているP8は深さ20cm、南西コーナー部に位置しているP9は深さ28cmで、いずれも性格は不明である。

**貯蔵穴** 3か所。貯蔵穴1は南東コーナー部に位置し、長径66cm、短径57cmの楕円形で、深さは36cmである。貯蔵穴2は南西コーナー部に位置し、径75cmほどの不整形で、深さは70cmである。貯蔵穴3は北西コーナー部に位置し、長径69cm、短径59cmの楕円形で、深さは35cmである。底面はいずれも鍋底状で、壁は外傾して立ち上がっている。

### 貯蔵穴1土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量

4 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

5 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量

6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

### 貯蔵穴2土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量

4 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

### 貯蔵穴3土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量

2 極暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

3 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**覆土** 20層に分層できる。6~8・12・17~19層は、ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることや堆積状況から人為堆積とみられるが、その他の層は自然堆積である。

### 土層解説

1 極暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

5 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

7 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物微量

8 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

9 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量

10 ほぼ赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量

11 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物微量

12 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

13 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量

14 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

15 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量

16 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

17 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

18 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

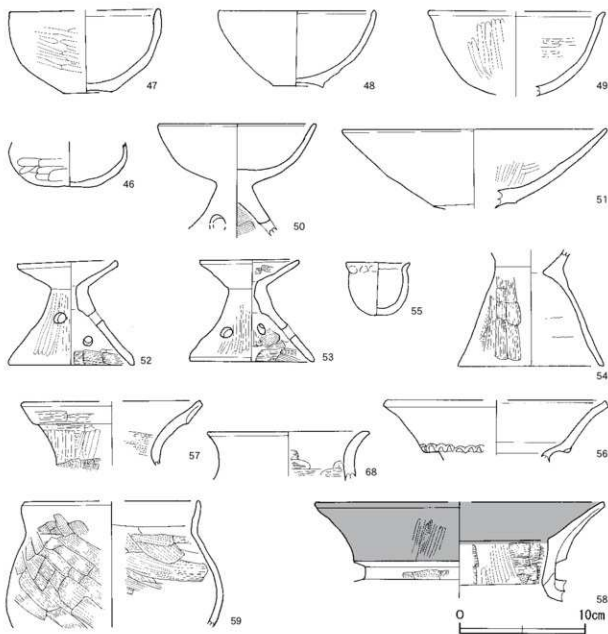
19 赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物微量

20 極暗赤褐色 炭化物・焼土粒子少量、ロームブロック微量

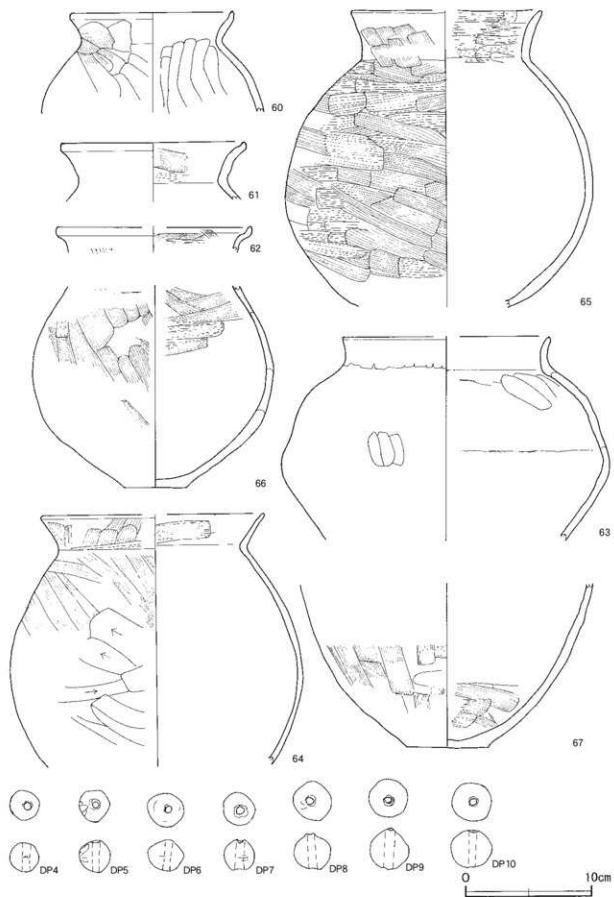


**遺物出土状況** 土師器埴・炉器台各1点、器台・高坏各2点、椀4点、壺3点、甕12点、ミニチュア1点、土製品7点（球状土錘）のほか、土師器片1150点（埴5・高坏79・甕1066）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片469点、弥生土器片65点、須恵器片1点、石鏡1点、剥片27点も出土している。46は北東コーナー部の覆土上層、DP 7は北東コーナー部の覆土中層から出土している。48・53・55は、貯蔵穴2内から出土している。58は北西コーナー部の覆土中層と北東コーナー部寄りの床面、68は東壁寄りの覆土中層と炉2内から出土した破片が接合したものである。50・52・DP 4は東壁寄り、61・65・66、DP 5・DP 8・DP 9は、南西コーナー部付近の床面からそれぞれ出土している。59は東壁寄りと西壁寄りの床面、67・54は南西コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。

**所見** 遺物の大半は覆土下層や床面から出土しており、遺棄されたか、廃絶後の早い時期に投棄されたものとみられる。床面から焼土塊や炭化材が出土していることから、焼失住居である。時期は、出土土器から前期後葉に比定できる。



第88図 第140号住居跡出土遺物実測図（1）



第89图 第140号住居跡出土遺物実測图(2)

第140号住居跡出土遺物観察表 (第88・89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
46	土師器	埴	-	(3.6)	4.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下平ヘラナデ	覆土上層	10% PL20
47	土師器	碗	[12.0]	6.5	3.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部上半横位のヘラ磨き 下半ナデ	覆土中層	80% PL20
48	土師器	碗	12.5	6.0	3.8	長石・石英・雲母、黒い	橙	普通	器面割落により調整痕不明	貯蔵穴2	80% PL20
49	土師器	碗	[14.0]	(6.7)	-	細砂・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位 内面横位のヘラ磨き	覆土上層	20%
50	土師器	高坏	12.5	(8.8)	-	細砂・雲母・スコリア	赤	普通	坏部調整痕不明 坏部外面縦位のヘラ磨き	床面	90% PL21
51	土師器	高坏	21.2	(6.2)	-	細砂・スコリア	赤	普通	坏部外面磨き 内面縦位のヘラ磨き	覆土下層	50%
52	土師器	器台	7.9	8.3	10.0	細砂・雲母	にぶい赤褐	普通	受部・脚部外面ヘラ磨き 脚内面ハケ目	床面	95% PL21
53	土師器	器台	7.9	8.1	9.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	受部・脚部外面縦位のヘラ磨き	貯蔵穴2	95% PL21
54	土師器	炉器台	-	(9.3)	11.6	長石・石英	灰黄褐	普通	外面縦位のハケ目 内面横位のヘラナデ	床面	60%
55	土師器	ミニチュア	5.0	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面ナデ	貯蔵穴2	80% PL24
56	土師器	壺	[17.4]	(4.7)	-	長石・石英・チャート	黄橙	普通	外面縦位のヘラ磨き 口縁部下端熱赤磨き	覆土中	5%
57	土師器	壺	[14.2]	(5.1)	-	長石・石英	明赤褐	普通	器部外面縦位のヘラ磨き 内面横位のハケ目	覆土中	10%
58	土師器	壺	[23.0]	(7.7)	-	長石・石英・スコリア	明赤褐	普通	口縁部外・内面縦位のヘラ磨き	覆土中層・床面	10%
59	土師器	壺	[14.0]	(10.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面斜位 内面横位のハケ目	床面	20%
60	土師器	壺	12.8	(8.0)	-	長石・石英・スコリア	にぶい橙	普通	体部外面斜位のハケ目 内面縦位のナデ	覆土上・下層	15%
61	土師器	壺	14.6	(4.6)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面ナデ 内面横位のハケ目	床面	5%
62	土師器	壺	[15.2]	(2.0)	-	細砂	にぶい褐	普通	口縁部外面ナデ 内面横位のハケ目	覆土中	5%
63	土師器	壺	[16.4]	(16.2)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面粗いヘラ磨き	覆土下層	30% PL23
64	土師器	壺	[17.6]	(19.8)	-	長石・石英・チャート	橙	普通	口縁部外面縦位 内面横位 体部斜位のハケ目	覆土上層	60% PL23
65	土師器	壺	[15.2]	(23.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外面縦位 内面・体部横位のハケ目	床面	40%
66	土師器	壺	-	(16.0)	5.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面中段まで磨き 内面横位のハケ目	床面	65% PL24
67	土師器	壺	-	(13.0)	6.6	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面縦位のハケ目 内面縦位のヘラナデ	床面	45%
68	土師器	壺	12.6	(3.8)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面縦位 内面横位のヘラ磨き	炉2内	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
DP 4	球状土師	2.3	2.3	0.7	10.2	土(細砂)	表面ナデ 一方向から穿孔	床面	PL24
DP 5	球状土師	2.5	2.5	0.7	14.6	土(長石・石英)	表面ナデ 一方向から穿孔	床面	PL24
DP 6	球状土師	2.8	2.4	0.5	17.7	土(長石・石英)	表面ナデ 一方向から穿孔	床面	PL24
DP 7	球状土師	2.5	2.4	0.6	17.1	土(細砂)	表面ナデ 一方向から穿孔	覆土中層	PL24
DP 8	球状土師	3.4	2.8	0.6	24.8	土(細砂)	表面ナデ 一方向から穿孔	床面	PL24
DP 9	球状土師	3.2	3.2	0.6	25.0	土(細砂)	表面ナデ 一方向から穿孔	床面	PL24
DP10	球状土師	3.2	2.8	0.4	29.1	土(細砂・スコリア)	表面ナデ 一方向から穿孔	P 8内	PL24

## 第144号住居跡 (第90~93図)

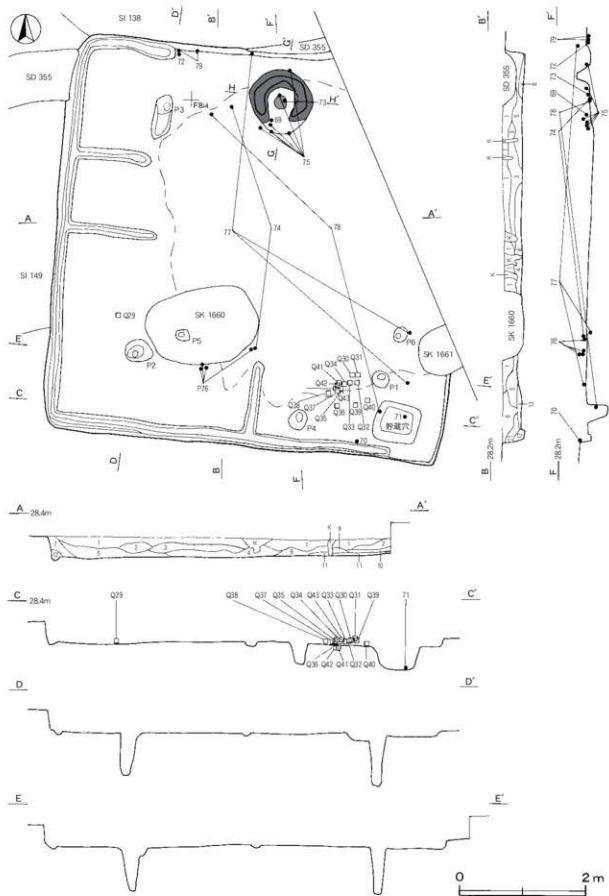
位置 調査区東部のF84区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第138・149号住居跡を掘り込み、南部を第1660号土坑、東壁部を第1661号土坑、北壁部を第355号溝に掘り込まれている。

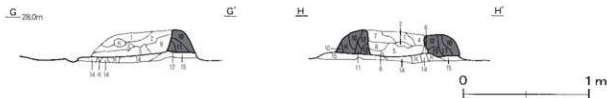
規模と形状 長軸6.37m、短軸6.32mの隅丸方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は11~36cmで、ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。東壁下を除いて壁溝が巡っている。また、南壁中央部から1条、西壁の中央部とやや北壁寄りから中心部へ向かって各1条の間仕切り溝が延びている。

竈 北壁寄りのほぼ中央部、北壁の55cm内側に付設されている。焚口部から煙道部まで130cm、燃焼部幅51cmで、袖部、奥壁部は床面と同じ高さを基部として、砂質粘土を用いて構築している。火床部も床面と同



第90图 第144号住居跡实测图(1)



第91図 第144号住居跡実測図(2)

じ高さであり、火床面は火を受けて赤変硬化している。火床部から、土師器甕がつぶれた状態で出土している。

**覆土層解説**

- |          |                          |           |                       |
|----------|--------------------------|-----------|-----------------------|
| 1 暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量   | 9 灰褐色     | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量      |
| 2 暗褐色    | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量       | 10 灰褐色    | 焼土ブロック・粘土ブロック微量       |
| 3 灰褐色    | 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量     | 11 灰褐色    | 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量  |
| 4 暗褐色    | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 灰褐色    | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量       |
| 5 にふいふ褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量     | 13 にふいふ褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック微量       |
| 6 にふいふ褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量              | 14 赤褐色    | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量       |
| 7 暗褐色    | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量         | 15 灰赤色    | 焼土粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 8 暗赤褐色   | 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量       |           |                       |

**ピット** 6か所。北東コーナーを除いた各コーナー部寄りに位置しているP1～P3は、深さ66～80cmで規模と位置から主柱穴である。南壁下の中央部に位置しているP4は、深さ34cmで竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットとみられる。P2の東側に位置しているP5は深さ18cm、P1の北側に位置しているP6は深さ15cmで、ともに性格は不明である。

**貯蔵穴** 南東コーナー部に付設されている。長軸75cm、短軸64cmの長方形で、深さは40cmである。底面は鍋底状で、壁はやや外傾して立ち上がっている。

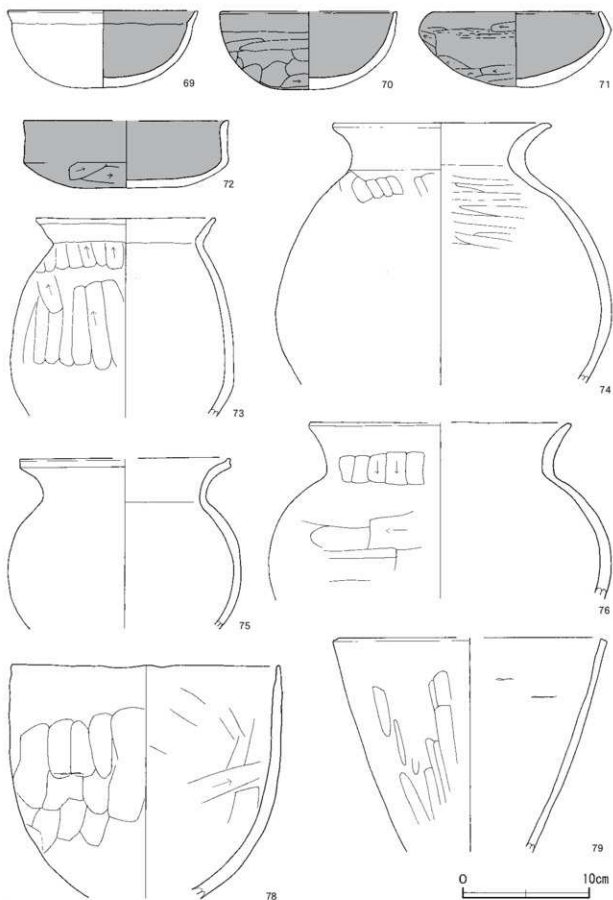
**覆土** 13層に分層できる。6・8・9層は、ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることや堆積状況から人為堆積とみられるが、その他の層は自然堆積である。

**土層解説**

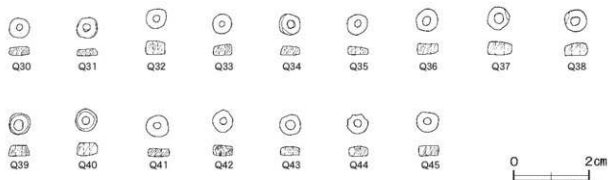
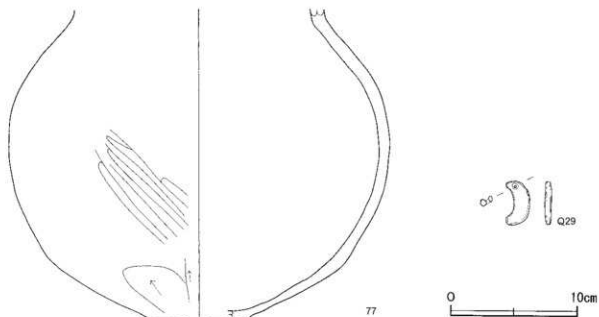
- |        |                     |        |                       |
|--------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量        | 8 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量        | 9 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量      | 10 褐色  | ローム粒子微量               |
| 4 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量      | 11 褐色  | ロームブロック少量             |
| 5 暗褐色  | 焼土粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 13 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子微量      |
| 7 暗褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量    |        |                       |

**遺物出土状況** 土師器環4点、椀2点、甕8点、瓶2点、石製品17点(白玉)のほか、土師器片336点(器台4・環24・高環1・壺1・甕305・瓶1)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片300点、石鏃1点、銅片42点も出土している。70は南壁際の覆土上層、76は南壁寄りの覆土下層、72・79は北壁際の床面からそれぞれ出土している。69・73・75は竈内、71は貯蔵穴内からそれぞれ出土している。74は北壁寄りと南壁寄りの床面、77は北壁寄りと南東コーナー付近の床面、78は北壁際の床面と貯蔵穴上面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。Q30～Q43は、貯蔵穴西側の床面の60×60cmの範囲から出土している。

**所見** 遺物の多くは、覆土下層から床面にかけて出土しており、遺棄されたか、廃絶後の早い時期に投棄されたものとみられる。時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。16点の白玉は一か所にまとまっており、住居内において何らかの祭祀行為が行われたことを示唆している。



第92图 第144号住居跡出土遺物実測図(1)



第93図 第144号住居跡出土遺物実測図(2)

第144号住居跡出土遺物観察表 (第92・93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
69	土師器	碗	15.0	6.1	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下半ヘラナデ 内面磨き	竈吹き口	70% PL20
70	土師器	碗	[14.0]	6.2	-	細砂・雲母	明赤褐	普通	体部下半横位のヘラ削り 内面磨き	覆土上層	70% PL20
71	土師器	碗	13.3	6.0	-	細砂・雲母・スコリア	赤	普通	体部下半横位のヘラ削り 内面磨き	貯蔵穴	100% PL20
72	土師器	坏	[16.2]	5.3	-	細砂・雲母	赤褐	普通	底部横位のヘラ削り 内面磨き	床面	30%
73	土師器	甕	14.1 (15.8)	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部上半縦位のヘラ削り 内面ナデ	竈火床面	60% PL24
74	土師器	甕	17.0	(20.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ナデ	床面	60%
75	土師器	甕	[16.6]	(13.5)	-	長石・石英	橙	普通	外面剥落により調整不明 体部内面ナデ	竈吹き口	30%
76	土師器	甕	[20.6]	(14.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のナデ	覆土下層	20%
77	土師器	甕	-	(24.5)	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 内面横位のナデ	床面	30%
78	土師器	瓶	21.2	(18.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位、内面不定方向のヘラナデ	床面・貯蔵穴	45% PL24
79	土師器	瓶	[20.8]	(17.0)	-	細砂・雲母・スコリア	橙	普通	体部外面縦位、内面不定方向のヘラナデ	床面	15%

番号	器種	長さ(径)	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q29	勾玉	3.4	1.89	0.45	0.20	5.16	滑石	一方向から穿孔	床面	PL26
Q30	白玉	0.50	-	0.20	0.20	0.08	滑石	横面に鋭い稜を有する	床面	PL26

番号	器種	長さ(径)	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q31	白玉	0.55	-	0.15	0.20	0.08	滑石	側面に縦位の磨痕	床面	PL26
Q32	白玉	0.50	-	0.30	0.20	0.16	滑石	側面に縦位の磨痕	床面	PL26
Q33	白玉	0.50	-	0.30	0.20	0.15	滑石	側面に弱い稜を有する	床面	PL26
Q34	白玉	0.50	-	0.20	0.20	0.11	滑石	側面に縦位の磨痕	床面	PL26
Q35	白玉	0.50	-	0.20	0.20	0.12	滑石	側面に縦位の磨痕	床面	PL26
Q36	白玉	0.55	-	0.26	0.20	0.11	滑石	側面に縦位の磨痕	床面	PL26
Q37	白玉	0.58	-	0.32	0.20	0.14	滑石	側面にやや影らみ	床面	PL26
Q38	白玉	0.53	-	0.30	0.20	0.12	滑石	側面にやや影らみ	床面	PL26
Q39	白玉	0.51	-	0.31	0.20	0.14	滑石	側面に弱い稜を有する	床面	PL26
Q40	白玉	0.53	-	0.33	0.20	0.17	滑石	側面に弱い稜を有する	床面	PL26
Q41	白玉	0.55	-	0.20	0.15	0.13	滑石	側面に縦位の磨痕	床面	PL26
Q42	白玉	0.50	-	0.20	0.30	0.13	滑石	側面にやや影らみ	床面	PL26
Q43	白玉	0.50	-	0.25	0.20	0.11	滑石	側面にやや影らみ	床面	PL26
Q44	白玉	0.50	-	0.30	0.20	0.10	滑石	側面にやや影らみ	覆土中	PL26
Q45	白玉	0.55	-	0.30	0.20	0.16	滑石	側面に縦位の磨痕	覆土中	PL26

#### 第147号住居跡 (第94・95図)

**位置** 調査区南部のC7d5区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第70号ピット群のP16に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸5.82m、短軸5.20mの隅丸長方形で、主軸方向はN-25°-Wである。壁高は10~20cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦で、主柱穴内側の中央部と北壁寄りの一部で硬化面が認められる。南壁下を除いて壁溝が巡っている。

**炉** 3か所。炉1は中央部北壁寄りに位置し、長径56cm、短径43cmの楕円形である。炉2は炉1の北側に位置し、長径98cm、短径41cmの楕円形である。炉3は北東コーナー部に位置し、長径37cm、短径25cmの楕円形である。いずれも床面を5cmほど掘り下げた地床炉である。

##### 炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

3 にふい赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量

##### 炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量

3 にふい赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量

4 にふい赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量

##### 炉3土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量

3 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

**ピット** 6か所。各コーナー部寄りに位置しているP1~P4は、深さ43~57cmで規模と位置から主柱穴である。南壁寄りの中央部に位置しているP5は、深さ13cmで竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットとみられる。P5の北側に位置しているP6は、深さ20cmで性格不明である。

**貯蔵穴** 南東コーナー部に付設されている。長軸73cm、短軸68cmの隅丸方形で、深さは43cmである。底面は鍋底状で、壁はやや外傾して立ち上がっている。

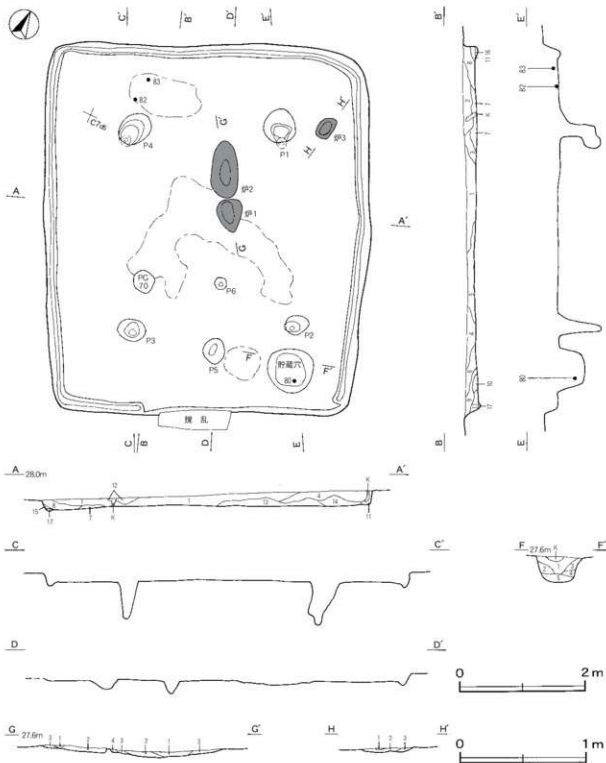
##### 貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量





第94図 第147号住居跡実測図

覆土 17層に分層できる。4～7・10・13層は、ロームブロックが含まれていることや堆積状況から人為堆積とみられるが、他の層は自然堆積である。

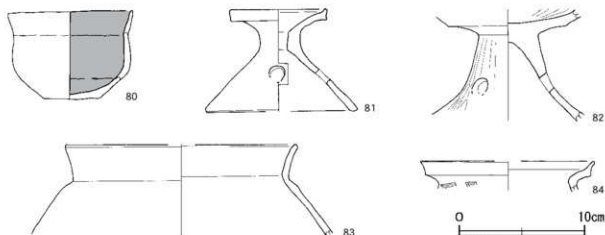
土層解説

- |          |                  |        |                |
|----------|------------------|--------|----------------|
| 1 極 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量   | 5 褐 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐色   | ローム粒子・焼土粒子微量     | 6 暗 褐色 | ロームブロック微量      |
| 3 暗 褐色   | ローム粒子微量          | 7 暗 褐色 | ロームブロック少量      |
| 4 暗 褐色   | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 8 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |

9	褐	色	ローム粒子少量	14	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10	極	暗	褐色	15	褐	色	ロームブロック少量
11	褐	色	ローム粒子中量	16	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量
12	暗	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	17	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
13	暗	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量				

**遺物出土状況** 土師器埴3点、甕2点、器台・高坏各1点のほか、土師器片106点（埴10・高坏7・甕88・台付甕1）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片144点、弥生土器片20点、石鏝1点、剥片5点も出土している。82・83は北西コーナー部付近の覆土下層、80は貯蔵穴内からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から前期後葉に比定できる。



第95図 第147号住居跡出土遺物実測図

第147号住居跡出土遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴ほか	出土位置	備考
80	土師器	埴	9.8	7.0	4.4	長石・石英・雲母	橙	普通	器面剥落により調整痕不明	貯蔵穴内	95% PL20
81	土師器	器台	7.7	8.0	[11.8]	長石・石英・角閃石	明赤褐	普通	受部内面・脚部外面履位のヘラ磨き	覆土中	50% PL21
82	土師器	高坏	-	(8.80)	-	長石・石英・スコリア	橙	普通	坏・脚部外面ヘラナデ 坏部内面ヘラ磨き	覆土下層	60%
83	土師器	甕	[18.2]	(7.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ 内面履位のヘラナデ	覆土下層	5%
84	土師器	甕	[13.6]	(2.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	破片

第148号住居跡（第96・97図）

**位置** 調査区東部のG7c7区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第151号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸5.42m、短軸3.97mの隅丸方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は21~30cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

**炉** 中央部に位置し、径95cmほどの円形で、床面を10cm掘り下げた地床炉である。

**炉土層解説**

- |   |   |   |    |                       |   |   |   |     |                       |
|---|---|---|----|-----------------------|---|---|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗 | 赤 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     | 3 | 極 | 暗 | 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 | 黒 | 褐 | 色  | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 | 黒 | 褐 | 色   | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     |

**ピット** 12か所。各コーナー部寄りに位置しているP1~P4は、深さ31~68cmで規模と位置から主柱穴である。南壁下の中央部に位置しているP5は深さ30cm、P6は深さ17cmで、竈と向かい合う位置にあることから

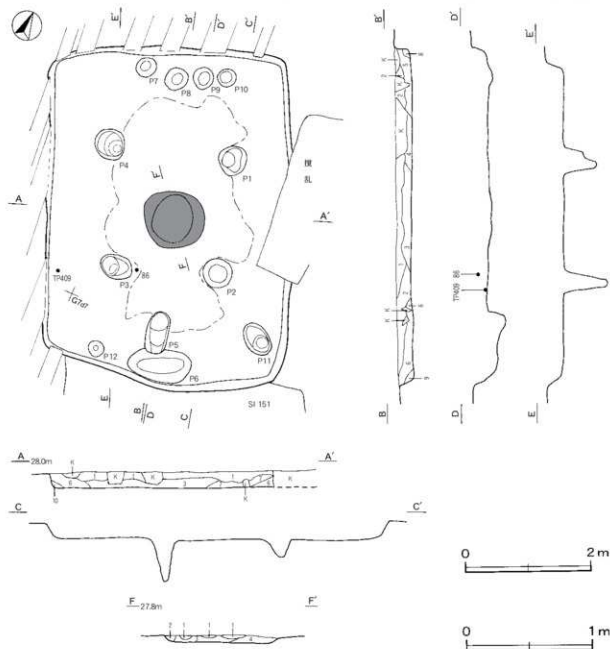
出入り口施設に伴うピットとみられる。北壁際に位置している P7～P10は深さ9～11cm, 南東コーナー部に位置している P11は深さ33cm, 南西コーナー部に位置している P12は深さ13cmで、いずれも性格は不明である。

**覆土** 10層に分層できる。ほとんどの層にロームブロックが含まれているが、1・2層と壁際の8～10層は自然堆積で、その他の層は人為堆積とみられる。

**土層解説**

- |        |                       |       |                     |
|--------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量      |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色  | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色  | ロームブロック少量           |
| 4 暗褐色  | 焼土粒子少量、ロームブロック微量      | 9 褐色  | ロームブロック微量           |
| 5 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 10 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量    |

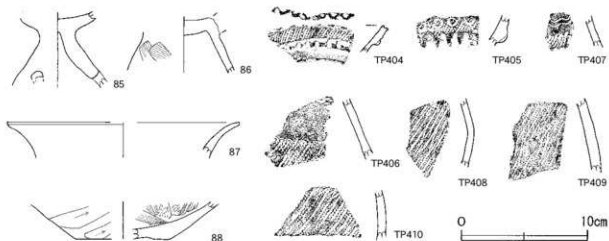
**遺物出土状況** 土師器高坏・台付甕各1点、甕2点のほか、土師器片186点(埴1・埴3・高坏1・甕181)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片166点、弥生土器片51点、須恵器片1点、鉄製品2点(不明)、石



第96図 第148号住居跡実測図

製品2点(球状耳飾り・石匙)、剥片13点も出土している。86はP3東側の覆土層、TP409は西壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後葉に比定できる



第97図 第148号住居跡出土遺物実測図

第148号住居跡出土遺物観察表 (第97図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
85	土師器	高坏	-	(5.9)	-	細砂・スコリア	橙	普通	器面剥落により調整痕不明	覆土中	5%
86	土師器	台付甕	-	(4.4)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	頸部外面斜位のハケ目 内面ヘラナデ	覆土層	5%
87	土師器	甕	[18.4]	(2.8)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	5%
88	土師器	甕	-	(3.0)	[7.6]	長石・石英・スコリア	にぶい赤褐色	普通	体部外面斜位のヘラ振り 内面ハケ目	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP404	弥生土器	甕	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部附加条縄文 口縁部下端棒状工具による押圧	覆土中	
TP405	弥生土器	甕	長石・石英	橙	普通	口縁部縄文施文後、円形刺突文 下縁棒状工具による押圧	覆土中	
TP406	弥生土器	甕	長石・石英	橙	普通	頸部無文 胴部縄文	覆土中	
TP407	弥生土器	甕	長石・石英・雲母	赤	普通	頸部棒状工具による波状文 胴部縄文	覆土中	
TP408	弥生土器	甕	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	附加条一種縄文	覆土中	
TP409	弥生土器	甕	長石・石英・雲母	橙	普通	附加条一種縄文	西壁床面	
TP410	弥生土器	甕	長石・石英・雲母	橙	普通	附加条一種縄文	覆土中	

### 第149号住居跡 (第98・99図)

位置 調査区東部のF8i3区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 東半部を第144号住居、北壁を第355号溝に、西壁を第1700号土坑、北壁寄りを第68号ピット群にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 東半部が第144号住居に掘り込まれているために、南北軸4.4mで、東西軸は3.49mしか確認できなかった。形状から主軸方向がN-19°-Wの隅丸方形と推測できる。壁高は19~21cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

炉 2か所。炉1は中央部北壁寄りにあり、長径49cm、短径38cmの長方形の地床炉である。長径方向は住居跡の主軸方向と同じである。炉2は炉1の東側の北壁寄りにあり、径38cmの円形の地床炉である。

炉1土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量      2 に近い赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量

炉2土層解説

- 1 褐色 焼土ブロック中量      2 に近い赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量

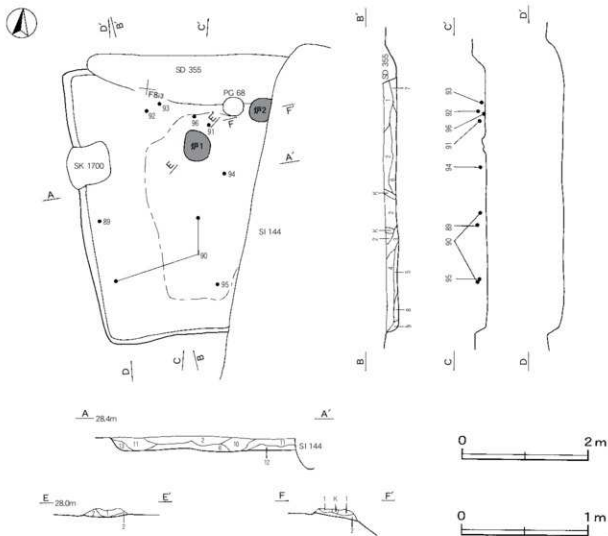
**覆土** 13層に分層できる。1・2・8～10層にはロームブロックが含まれ、不自然な堆積状況を示していることから、大部分は人為堆積の可能性があり、一部は堆積状況から自然堆積である。

土層解説

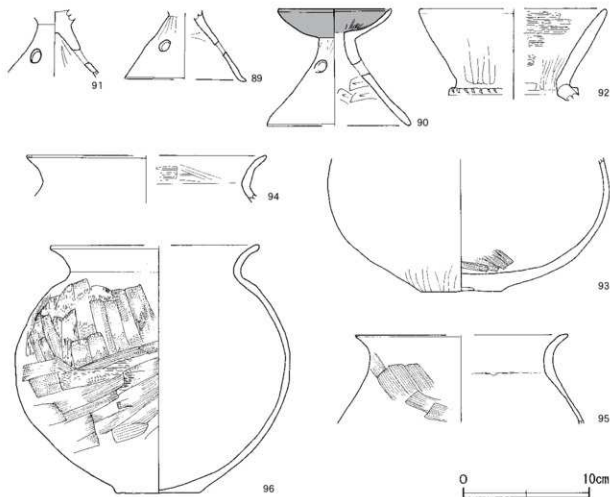
- |        |                   |        |                |
|--------|-------------------|--------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量      | 8 褐色   | ロームブロック微量      |
| 2 暗褐色  | ロームブロック微量         | 9 褐色   | ロームブロック少量      |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量  | 10 褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子微量      | 11 暗褐色 | ローム粒子微量        |
| 5 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量    | 12 暗褐色 | ロームブロック中量      |
| 6 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 7 褐色   | ローム粒子・焼土粒子微量      |        |                |

**遺物出土状況** 土師器器台・壺各2点、高坏1点、甕3点のほか、土師器片131点（器台7・高坏2・甕122）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片117点、石楾1点、羽片10点も出土している。89は西壁際、91～93は北壁寄り、94は中央部、95は南壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。90は、中央部と西壁寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。96は、北壁寄りの床面から出土している。

**所見** 土器の大半は、廃絶後に投棄されたか流れ込んだものである。時期は、出土土器から前期と考えられる。



第98図 第149号住居跡実測図



第99図 第149号住居跡出土遺物実測図

第149号住居跡出土遺物観察表 (第99図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
89	土師器	器台	-	(5.5)	[9.6]	長石・石英・雲母	赤褐	普通	脚部外面縦位・内面横位のヘラナデ	覆土中層	10%
90	土師器	器台	9.0	9.2	[11.2]	長石・石英・スコリア	橙	普通	受部下半横位。脚部縦位のヘラナデ	覆土中層	60% PL21
91	土師器	高坏	-	(5.2)	-	細砂	赤褐	普通	脚部外面縦位。内面横位のヘラナデ	覆土中層	20%
92	土師器	壺	[14.8]	(7.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部外・内面縦位のヘラナデ	覆土中層	5%
93	土師器	壺	-	(10.5)	6.0	長石・石英	橙	普通	体部外面縦位のヘラナデ 内面ナデ	覆土中層	30%
94	土師器	甕	[19.0]	(3.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面調整板不明 内面横位のハケ目	覆土中層	5%
95	土師器	甕	[16.8]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外面斜位のハケ目	覆土中層	10%
96	土師器	甕	[16.3]	19.7	6.5	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面ハケ目 内面ナデ	床面	60% PL24

第154号住居跡 (第100・101図)

位置 調査区東部のF7J9区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第143号住居跡、第1720号土坑を掘り込み、中央部を第354号溝、南部を第1675号土坑と第356A・B号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.94m、短軸5.85mの隅丸方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁高は19cmで、外傾して立ち上がっている。

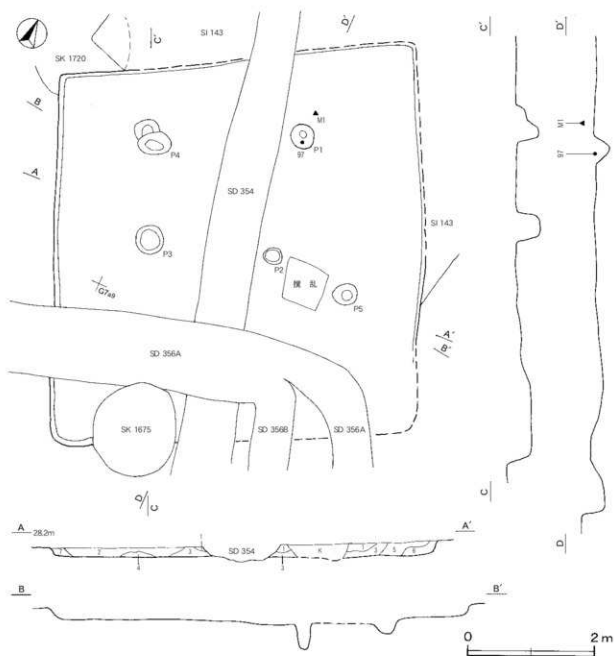
床 は平坦で、硬化した部分は認められない。

ピット 5か所。北東・北西コーナー部寄りに位置している P1 は深さ25cm、P4 は深さ38cm で規模と位置から主柱穴であるが、南壁側の主柱穴は不明である。中央部付近に位置している P2 は深さ43cm、P3 は深さ42cm、P5 は深さ27cm で、いずれも性格は不明である。

覆土 7層に分層できる。2・3層にはロームブロックが含まれ、不自然な堆積状況を示していることから人為堆積の可能性があり、その他の層は堆積状況から自然堆積である。

土層解説

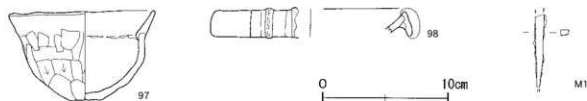
- |       |                         |       |                     |
|-------|-------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量       | 5 褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量      |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 7 暗褐色 | ロームブロック微量           |
| 4 褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量          |       |                     |



第100図 第154号住居跡実測図

**遺物出土状況** 土師器甕・壺各1点、鉄鏝1点のほか、土師器片109点(甕3・器台1・碗5・高坏5・甕95)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片53点、弥生土器片1点、剥片5点、土師質土器片2点も出土している。97はP1の覆土上層、M1は北壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から前期と考えられる。



第101図 第154号住居跡出土遺物実測図

第154号住居跡出土遺物観察表 (第101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
97	土師器	甕	11.5	7.1	2.5	灰石・石英・スコリア	明赤褐色	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面ナデ	P1内	100% PL20
98	土師器	壺	[15.0]	(2.0)	-	細砂	にぶい橙	普通	口縁部横ナデの後、棒状浮文彫り付け	覆土中	破片

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鏝	(5.8)	0.6	0.4	(6.9)	鉄	断面長方形 上部欠損	覆土上層	PL26

表6 古墳時代住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	
								柱穴	出入口	ゾット	竈・炉				
133	F7g0	隅丸長方形	N-34°-E	6.48×5.85	12~29	平相	一部	4	-	2	炉	1	人為・自然	土師器	前期
137	G8b4	隅丸長方形	N-30°-W	6.37×5.60	15~22	平相	-	4	-	2	炉	-	人為・自然	土師器・球状土師	前期
139	G7b0	隅丸方形	N-27°-W	7.67×7.04	14~48	平相	-	4	1	2	炉	2	人為・自然	土師器・勾玉・粘漆	前期
140	G8a2	隅丸長方形	N-18°-W	6.05×4.95	48~57	平相	-	4	1	4	炉	3	人為・自然	土師器・球状土師	前期
144	F844	隅丸方形	N-4°-E	6.37×6.32	11~36	平相	一部	3	1	2	竈	1	人為・自然	土師器・白土	中期
147	C7a5	隅丸長方形	N-25°-W	5.82×5.20	10~20	平相	半周	4	1	1	炉	3	人為・自然	土師器	前期
148	G7C7	隅丸方形	N-22°-W	5.42×3.97	21~30	平相	-	4	2	6	炉	-	人為・自然	土師器	前期
149	F833	隅丸方形	N-19°-W	4.4×(3.49)	19~21	平相	-	-	-	-	炉	2	人為・自然	土師器	前期
154	F7p	隅丸方形	N-24°-W	5.94×5.85	19	平相	-	2	-	3	-	-	人為・自然	土師器・鉄鏝	前期

(2) 土坑

第1636号土坑 (第102・103図)

**位置** 調査区東部のF8h2区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第135号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.23m、短軸1.91mの隅丸長方形で、長軸方向はN-46°-Eである。深さは19cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

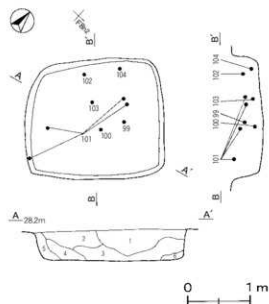


土層解説

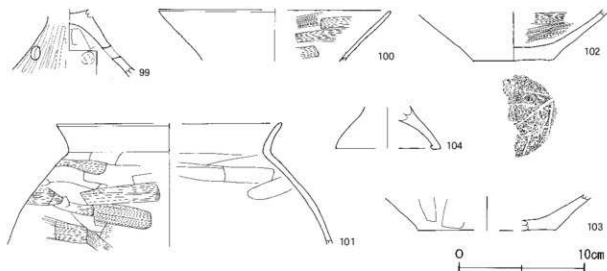
- 1 極暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器高坏2点、甕3点、台付甕1点のほか、土師器片13点（埴2・甕8・高坏2・台付甕1）が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片22点、石鉄1点も出土している。99・102は覆土中層、100・103・104は覆土下層からそれぞれ出土している。101は、覆土上層と中層から出土した破片が接合したものである。

**所見** 出土遺物は、いずれも埋め戻された際に混入したものである。覆土が埋め戻されていることと形状から墓坑の可能性はあるが、断定はできない。時期は、出土土器から古墳時代前期以降である。



第102図 第1636号土坑実測図



第103図 第1636号土坑出土遺物実測図

第1636号土坑出土遺物観察表 (第103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
99	土師器	高坏	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部外面縦位のヘラ磨き 3孔で1か所未穿孔	覆土中層	25%
100	土師器	高坏	[18.6]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	坏部外面縦位のヘラナデ	覆土中層	5%
101	土師器	甕	[16.0]	(9.5)	-	チャート・スコリア	灰褐	普通	体部外面横位のハケ目 内面横位のナデ	覆土上・中層	10%
102	土師器	甕	-	(3.9)	6.2	チャート・スコリア	におい赤褐	普通	体部外面ナデ 内面横位のハケ目	覆土中層	5%
103	土師器	甕	-	(2.7)	11.0	長石・石英	赤褐	普通	体部外面縦位のヘラナデ 内面横位のナデ	覆土下層	5%
104	土師器	台付甕	-	(3.3)	[8.4]	長石・石英・スコリア	におい赤褐	普通	脚部外・内面ナデ	覆土下層	5%

第1648号土坑 (第104図)

**位置** 調査区東部のF7h9区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第133号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.05m、短軸1.51mの隅丸長方形で、長軸方向はN-55°-Wである。深さは15cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

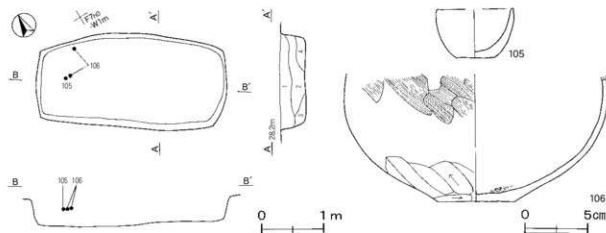
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量  
 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量  
 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
 4 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器甕・ミニチュア土器各1点のほか、土師器片12点(甕)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片12点、剥片1点も出土している。105・106は、西壁寄りの覆土中層から出土している。

**所見** 出土遺物は、いずれも埋め戻された際に混入したものである。覆土が埋め戻されていることと、形状から墓坑の可能性がある。時期は、出土土器から古墳時代前期以降である。



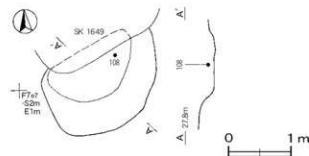
第104図 第1648号土坑・出土遺物実測図

第1648号土坑出土遺物観察表 (第104図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
105	土師器	ミニチュア	[6.0]	3.8	3.0	細砂・スコリア	橙	普通	外・内面ナデ	覆土中層	30%
106	土師器	甕	-	(10.0)	6.0	長石・石英・スコリア	にがい赤陶	普通	体部外面上半ハケ目 下半縦位のヘア割り	覆土中層	20%

第1653号土坑 (第105・106図)

**位置** 調査区東部のF7e7区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

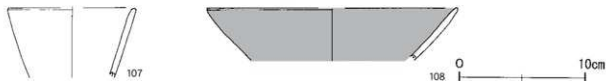


第105図 第1653号土坑実測図

**重複関係** 北部を第1649号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径2.10m、短径1.40mの不整楕円形で、長径方向はN-40°-Eである。深さは25cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

**遺物出土状況** 土師器片3点(埴1・高坏2)が出土している。108は覆土下層, 107は底面から出土している。  
**所見** 底面付近から土器が出土しているが, 形状から性格は不明である。時期は, 出土土器から前期後半と考えられる。



第106図 第1653号土坑出土遺物実測図

第1653号土坑出土遺物観察表 (第106図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
107	土師器	埴	[10.0]	(5.5)	-	細砂・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部外面覆土, 内面横位のヘラナデ	底面	5%
108	土師器	高坏	[20.0]	(4.1)	-	細砂・スコリア	橙	普通	坏部外・内面磨き	覆土下層	5%

第1718号土坑 (第107図)

**位置** 調査区南東部のG8b2区で, 標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 南半部の上部を第361号溝, 東部を第70号ピット群のP19に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.23m, 短径0.87mの楕円形で, 長径方向はN-84°-Wである。深さは45cmで, 底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれ, ブロック状の堆積状況から人為堆積である。

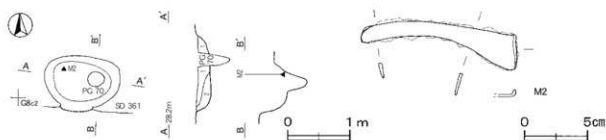
**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片13点(甕), 鉄製品1点(鎌)が出土しているほか, 流れ込んだ縄文土器片2点も出土している。M2は, 西壁寄りの底面から出土している。

**所見** 底面から鎌が出土しているが, 性格は不明である。時期は, 出土土器から中期と考えられる。



第107図 第1718号土坑・出土遺物実測図

第1718号土坑出土遺物観察表 (第107図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	鎌	12.4	2.8	0.3	21.0	鉄	柄装着部は上方へ90度折り曲げ 刃部中央部研ぎ減り	西部底面	PL36

表7 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m, 深さは cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1636	F 8 h2	隅丸長方形	N-46°-E	2.23×1.91	19	外傾	平坦	人為	土師器	SI135→本跡
1648	F 7 h9	隅丸長方形	N-55°-W	3.05×1.51	15	外傾	平坦	人為	土師器	SI133→本跡
1653	F 7 e7	不整楕円形	N-40°-E	2.10×1.40	25	緩斜	平坦	不明	土師器	本跡→SK1649
1718	G 8 b2	楕円形	N-84°-W	1.23×0.87	45	緩斜	平坦	人為	土師器・鎌	本跡→SD361・PG70

## (3) 溝跡

## 第361号溝跡 (第4・108・109図)

位置 調査区南東部のG7d0区からG8c5区にかけて、標高28mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第153号住居跡、第1853号土坑を掘り込み、第139号住居、第354・356A・356B・362号溝に掘り込まれている。第1692・1699・1710・1718号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

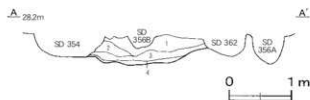
規模と形状 南半部が調査区域外に延びているため全容は明らかでないが、内径23mほどの半円状を呈している。農道を挟んだ南側は平成13年度に調査が行われているが、延長部は確認されていないことから本来の形状は不明である。幅は1.90～2.9m、深さは24～50cmで、底面から緩やかに立ち上がっている。溝底は西側が低く、東側に行くに従って浅くなり、G8d5区では確認できない。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

## 土層解説

- |        |                     |        |                     |
|--------|---------------------|--------|---------------------|
| 1 黒 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐色 | ロームブロック中量           |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片134点(器台1・碗2・高坏7・壺19・甕104・甔1)のほか、流れ込んだ縄文土器片66点、土師質土器片4点、剥片1点も出土している。



第108図 第361号溝跡実測図

所見 時期は、出土土器から中期と考えられる。形状が半円状を呈しており、円形周溝あるいは古墳の周溝の可能性もあるが、性格は不明である。



第109図 第361号溝跡出土遺物実測図

## 第361号溝跡出土遺物観察表 (第109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴ほか	出土位置	備考
109	土師器	甕	[16.0]	(3.3)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	5%
110	土師器	甔	-	(3.8)	3.4	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面縦位のヘラ削き	覆土中	5%

#### 4 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡2軒が確認されている。これらの遺構は、調査区南西部の標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

##### 竪穴住居跡

##### 第142号住居跡（第110・111図）

**位置** 調査区東部のG6d9区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 北壁中央部を第1694号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸4.41m、短軸3.62mの隅丸長方形で、主軸方向はN-95°-Eである。壁高は13~20cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほほ平坦であるが、竈前面がやや低くなっている。壁際を除いて硬化面が認められる。東壁の一部を除いて壁溝が巡っている。

**竈** 東壁中央部のやや南に付設されている。焚口部から煙道部まで113cm、燃焼部幅62cmである。袖部は無く、壁外へ逆U字状に奥行き79cm、幅99cm掘り込み、粘土を貼り付けて構築している。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

##### 竈土層解説

1 暗赤褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	14 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
2 暗赤褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量	15 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
3 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量	16 暗赤褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量、焼土粒子微量	18 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	19 暗赤褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
7 黒褐色	焼土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	20 暗赤褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8 暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量	21 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
9 暗赤褐色	焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量	22 暗赤褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
10 暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量	23 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子少量
11 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	24 暗赤褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
12 暗赤褐色	粘土粒子多量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		
13 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物・粘度粒子少量、ローム粒子微量		

**ピット** 6か所。西壁下の中央部に位置しているP1は、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設にともなうピットとみられる。南壁下の中央部に位置しているP2は、支柱穴の可能性もあるが、詳細は不明である。P3~P6は壁外に位置し、壁外柱穴の可能性もある。

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は南西コーナー部に位置し、径48cmの円形である。深さは28cmで、底面は鍋底状である。貯蔵穴2は南東コーナー部に位置し、長さ53cm、短径45cmの楕円形である。深さは10cmで、底面は皿状である。

##### 貯蔵穴1土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子中量	4 黒褐色	ロームブロック微量

##### 貯蔵穴2土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量	3 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量		

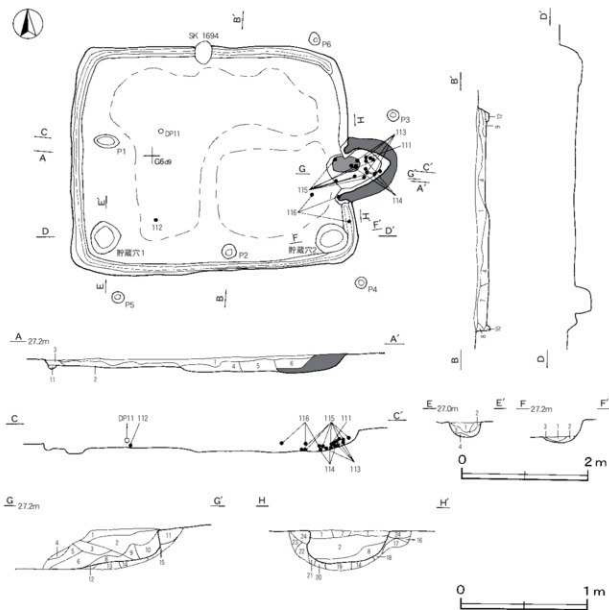
**覆土** 12層に分層できる。4~7層にはロームブロックが含まれ、不自然な堆積状況を示していることから人為堆積であり、他の層は自然堆積である。

土層解説

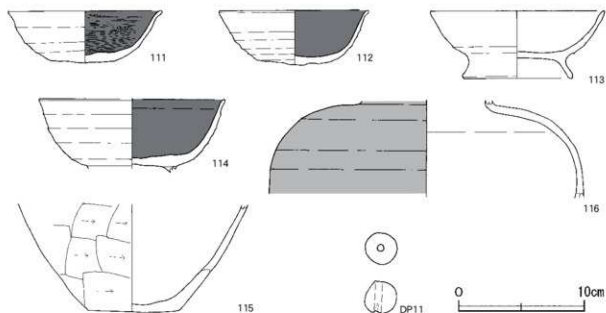
- |        |                       |         |                         |
|--------|-----------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量   | 7 黒暗褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 黒褐色   | 焼土粒子少量、ローム粒子微量          |
| 3 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 9 黒暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量        |
| 4 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 10 黒褐色  | ローム粒子微量                 |
| 5 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量  | 11 黒暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量          |
| 6 黒暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 12 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量       |

遺物出土状況 土師器環2点、高台付環1点、甕1点、須恵器高台付環1点、灰釉陶器短頸壺1点、球状土罐1点のほか、土師器片44点(環12・甕32)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片57点も出土している。111・113～115は竈内、116は竈前面から出土した破片が接合したものである。112は南西コーナー部寄りの床面、DP11は中央部南壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後半に比定できる。



第110図 第142号住居跡実測図



第111図 第142号住居跡出土遺物実測図

第142号住居跡出土遺物観察表 (第111図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
111	土師器	坏	12.2	4.1	4.9	灰石・石英・スコリア	にぶい橙	普通	外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中層	80% PL24
112	土師器	坏	11.8	4.4	6.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	床面	65% PL24
113	須恵器	高台付坏	13.4	5.4	8.6	長石・石英・雲母	灰オリーブ	二次	外・内面ともにロクロナデ 底部回転ヘラ磨き	竈燃焼部	80% PL24
114	土師器	高台付坏	[14.6]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	二次	外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	竈燃焼部	80% PL24
115	土師器	壺	-	(8.5)	7.4	長石・石英・チャート	明赤褐	二次	体部外面横位のヘラ磨り 内面ナデ	竈燃焼部	20%
116	灰輪陶器	短頸壺	-	(7.5)	-	灰石・石英	灰黄	良好	外・内面ともにロクロナデ	覆土下層	20% PL24

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	球状土師	2.5	2.5	0.5	14.3	土 (細砂)	一方向から穿孔 表面ナデ	覆土中層	PL24

### 第150号住居跡 (第112・113図)

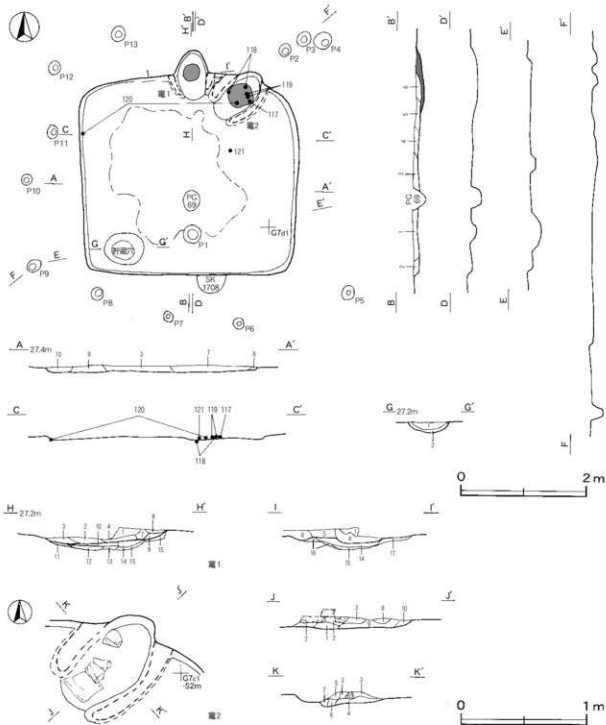
位置 調査区東部のG6c0区で、標高27.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1708号土坑を掘り込み、第69号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.48m、短軸3.18mの隅丸方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は5~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 若干凹凸があり、竈の前面がやや低くなっている。壁際を除いて硬化面が認められる。

竈 2か所。竈1は北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで87cm、燃焼部幅50cmである。袖部は失われており、床面を若干掘りくぼめた部分に粘土の基部が残っていた。壁外へ逆U字状に奥行き43cm、幅76cm掘り込み、粘土を貼り付けて構築している。火床部は床面を20cm掘り込み、粘土を埋め戻している。火床面は火を受けて赤変硬化している。竈2は、竈1の東側、北東コーナー部に付設されている。焚口部から煙道部まで109cm、燃焼部幅53cmで、袖部は失われている。壁外へ逆U字状に奥行き35cm、幅50cm掘り込みである。焚口部から燃焼部にかけての火床面より10cmほど上位に、雲母片岩4個が存在していた。いずれも



第112図 第150号住居跡実測図

火を受けた痕跡が認められ、竈の部材であったとみられるが、どのように使用されていたかは不明である。竈1は住居の主軸方向と同じであるが、竈2は主軸方向から45度東へ振れている。

竈1土層解説

- |         |                          |         |                                |
|---------|--------------------------|---------|--------------------------------|
| 1 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量      | 7 極暗赤褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色   | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量    | 8 黒褐色   | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量    |
| 3 黒褐色   | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量      | 9 暗赤褐色  | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量、焼土粒子微量    |
| 4 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量        |         |                                |
| 5 黒褐色   | 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 |         |                                |
| 6 黒褐色   | ロームブロック・炭化粒子少量           |         |                                |



- |          |                               |          |                              |
|----------|-------------------------------|----------|------------------------------|
| 10 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 | 14 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 11 暗赤褐色  | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 15 黒褐色   | 炭化粒子・粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量   |
| 12 黒褐色   | 焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量    | 16 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 13 極暗赤褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 17 暗赤褐色  | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量     |

#### 竈2土層解説

- |         |                              |         |                            |
|---------|------------------------------|---------|----------------------------|
| 1 黒褐色   | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量          | 7 赤黒色   | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量        |
| 2 黒褐色   | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量           | 8 極暗赤褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量   |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量        | 9 極暗赤褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量     |
| 4 極暗赤褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量             | 10 暗赤褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量        |         |                            |
| 6 暗赤褐色  | 焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量 |         |                            |

ピット 13か所。南壁寄りの中央部に位置しているP1は、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットとみられる。P2～P13は壁外に位置し、壁外柱穴の可能性がある。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置し、長径61cm、短径50cmの楕円形である。深さは17cmで、底面は鍋底状である。

#### 貯蔵穴土層解説

- |       |                |       |         |
|-------|----------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|----------------|-------|---------|

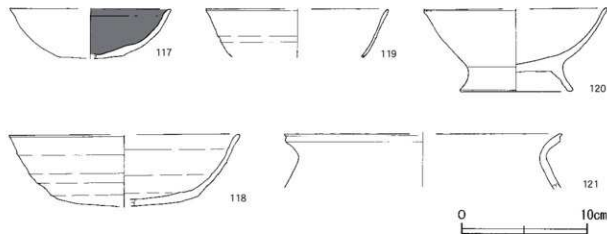
覆土 10層に分層できる。4・7層にはロームブロックが含まれ、不自然な堆積状況を示していることから人為堆積であり、他の層は自然堆積である。

#### 土層解説

- |        |                     |         |                       |
|--------|---------------------|---------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 極暗褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 7 黒褐色   | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量  |
| 3 黒褐色  | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 極暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量  |
| 4 極暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量    | 9 黒褐色   | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 5 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 10 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量   |

遺物出土状況 土師器坏3点、高台付坏・甕各1点のほか、土師器片31点(坏13・甕18)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片18点も出土している。117～119は、竈2内から出土している。120は竈2内と西壁際の床面から出土した破片が接合したものである。121は、中央部東寄りの床面から出土している。

所見 いずれの遺物も、廃絶時に遺棄されたものである。時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。竈は、土器や竈構築材とみられる雲母片岩が竈2に残されていたことから、廃絶時には竈2が使用されており、竈1から竈2へ造り替えられたものとみられる。



第113図 第150号住居跡出土遺物実測図

第150号住居跡出土遺物観察表 (第113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
117	土師器	坏	[12.8]	3.9	[5.2]	細砂・雲母・スコリア	橙	二次	器面剥落により調整痕不明 底部へウ張り	甕2熱焼部	30%
118	土師器	坏	[18.2]	5.7	[11.6]	細砂・雲母・スコリア	にぶい橙	二次	体部外面ロクロナテ	甕2熱焼部	20% PL24
119	土師器	坏	[14.4]	(3.9)	-	細砂・雲母	にぶい橙	二次	体部外面ロクロナテ	甕2熱焼部	20%
120	土師器	高台付坏	[14.4]	6.6	8.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	二次	体部外面ロクロナテ 内面へウ張り	甕2熱焼部	50%
121	土師器	甕	[22.0]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	器面剥落により調整痕不明	床面	破片

表8 平安時代住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	
								主出入口	並入口	ピット	竈				
142	G 6 d	隅丸長方形	N-9°-E	4.41×3.62	13~20	平直	全周	-	1	5	1	2	人為・自然	土師器・灰輪軸・土師	9世紀
150	G 6 d	隅丸方形	N-3°-W	3.48×3.18	5~10	若干凹み	-	-	1	11	2	-	人為・自然	土師器	9世紀

## 5 中・近世の遺構と遺物

中・近世の遺構は、墓坑2基、土坑6基、溝跡7条が確認されている。以下、主として遺物が出土している遺構については記述し、それ以外の遺構については一覧表で掲載する。

### (1) 墓坑

#### 第1649号土坑 (第114・115図)

**位置** 調査区北部のF7e7区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1653号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸2.04m、短軸0.98mの隅丸長方形で、長軸方向はN-62°-Eである。深さは21cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

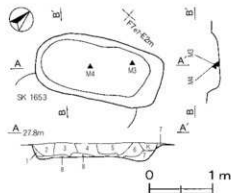
**覆土** 8層に分層される。ロームブロックが含まれ、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

#### 土層解説

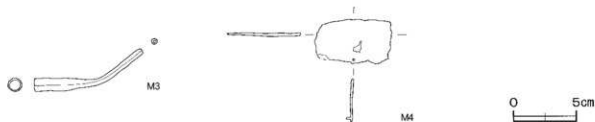
1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量	6 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量	7 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 煙管1点、不明鉄製品1点のほか、埋め戻され際に混入した縄文土器片8点、土師器片21点も出土している。3は北東部、4は中央部の底面からそれぞれ出土している。

**所見** 煙管は吸い口部だけであるが、覆土が埋め戻されていることから、本跡は墓で、遺物は副葬品と考えられる。時期は、煙管が副葬されていることから江戸時代と考えられる。



第114図 第1649号土坑実測図



第115図 第1649号土坑出土遺物実測図

第1649号土坑出土遺物観察表 (第115図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	煙管	8.5	径1.0	口付0.5	9.95	真鍮	吸い口部 中央部で屈曲している	北東部底面	PL36
M4	板状品	6.1	3.5	0.2	14.8	鉄	短辺の一方は刃先状 長辺の一方の縁に鉄1か所	中央部下層	PL36

第1697号土坑 (第116図)

**位置** 調査区北部のF7f7区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径2.13m、短径0.86mの舟形で、長径方向はN-14°-Wである。深さは南部が26cmと深く、北部へ向かうに従って浅くなっている。底面は舟底状で、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 6層に分層される。すべての層にロームブロックが含まれ、南側から埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 にぶい褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 煙管1点が北寄りの覆土上層から出土している。

ほかに埋め戻された際に混入した土師器片1点も出土している。

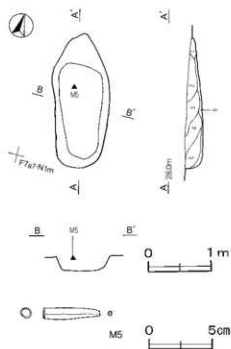
**所見** 煙管は雁首部だけであるが、覆土が埋め戻されていることから、本跡は墓で、遺物は副葬品と考えられる。時期は、煙管が副葬されていることから江戸時代と考えられる。

第1697号土坑出土遺物観察表 (第116図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	煙管	(4.4)	径0.8	-	(3.36)	銅	雁首部 火皿冠欠損	覆土上層	PL36

表9 中・近世墓坑一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m, 深さは cm)			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ	深さ					
1649	F7e7	隅丸長方形	N-62°-E	2.04×0.98	21	外傾	平坦	人為	煙管・不明鉄製品	SK1653→本跡	
1697	F7f7	舟形	N-14°-W	2.13×0.86	26	外傾	舟底	人為	煙管		



第116図 第1697号土坑・出土遺物実測図

## (2) 土坑

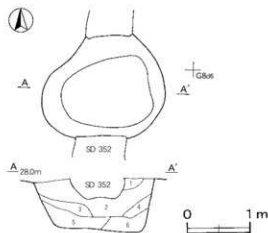
今回の調査で、中・近世とみられる土坑6基が確認されている。そのうち、第1646・1680・1688号土坑については文章で説明し、その他の土坑については、一覧表(表10)と実測図(第120図)を掲載することに定める。

### 第1646号土坑(第117図)

**位置** 調査区南東部のG8d5区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第153号住居跡を掘り込み、上部を第352号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.94m、短径1.73mの卵形で、長径方向はN-75°-Eである。深さは76cmで、底面は平坦である。壁は急な角度で立ち上がっている。



第117図 第1646号土坑実測図

**覆土** 6層に分層される。ロームブロックを含む層が多く、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

#### 土層解説

- |   |     |                     |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子微量             |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量      |
| 4 | 褐色  | ロームブロック少量・焼土粒子微量    |
| 5 | 褐色  | ロームブロック少量・炭化粒子微量    |
| 6 | 褐色  | ロームブロック・焼土粒子少量      |

**遺物出土状況** 土師質土器片2点(鍋)のほか、混入した縄文土器片、弥生土器片各2点も出土している。

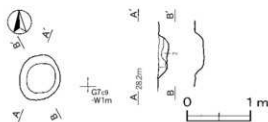
**所見** 副葬品は無いものの、覆土が埋め戻されていることから墓の可能性はある。時期は、出土土器から中世以降とみられる。

### 第1680号土坑(第118図)

**位置** 調査区南部のG7b8区で、標高28mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.72m、短径0.65mの円形である。深さは16cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層される。不自然な堆積状況から埋め戻されている。



第118図 第1680号土坑実測図

#### 土層解説

- |   |     |                     |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量・炭化粒子・黒色粒子微量 |
| 2 | 褐色  | ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子微量   |

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(鍋)のほか、混入した弥生土器片2点が出土している。

**所見** 覆土が埋め戻されているが、浅いことから性格は不明である。時期は、出土土器から中世以降とみられる。

### 第1688号土坑(第119図)

**位置** 調査区南部のG7a3区で、標高27.5mの台地斜面部に位置している。

**重複関係** 南半部を第356A号溝、西壁寄りを第1689号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認できた長軸2.70m、短軸1.20mで、N-65°-Wの長方形と推測できる。深さは7cmで、底面は平坦であるが、南側に傾斜している。壁は緩やかに立ち上がっている。

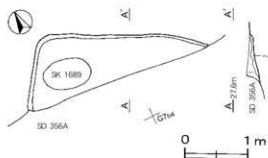
**覆土** 2層に分層される。不自然な堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

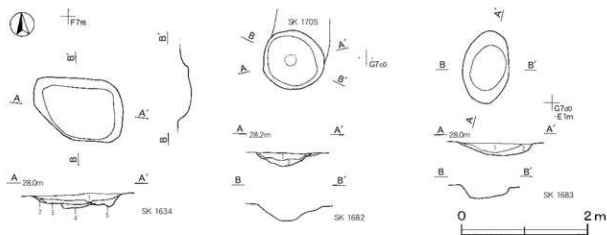
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(鍋)のほか、混入した縄文土器片3点が出土している。

**所見** 覆土が埋め戻されているが、浅いことから性格は不明である。時期は、出土土器から中世以降とみられる。



第119図 第1688号土坑実測図



第120図 第1634・1682・1683号土坑実測図

**第1634号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第1682号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量

**第1683号土坑土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

表10 中・近世土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m. 深さはcm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1634	F 7 ㊸	不整形円形	N-61°-W	1.58×1.05	22	外傾	皿状	人為	須恵器・陶器	
1646	G 8 ㊸	卵形	N-75°-E	1.94×1.73	76	外傾	平坦	人為	土師質土器	SH53→本跡→SDX52
1680	G 7 ㊸	円形	-	0.72×0.65	16	緩斜	平坦	人為	土師質土器	
1682	G 7 ㊸	円形	-	1.00×0.95	25	緩斜	皿状	人為	土師質土器	SK1705→本跡
1683	G 7 ㊸	楕円形	N-12°-E	1.14×0.75	19	緩斜	平坦	人為	須恵器・土師質土器	
1688	G 7 ㊸	[長方形]	N-65°-W	(2.70)×(1.20)	7	緩斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK1689-6 D356A

### (3) 溝跡

今回の調査で、中・近世とみられる溝7条が確認されている。そのうち、出土遺物があり、当遺跡の性格を考えるうえで必要な第356A・B号溝跡については文章で説明する。その他の溝跡については一覧表と土層断面図(第123図)及び出土遺物実測図(第124図)のみとし、平面図については遺構全体図(第4図)で掲載するにとどめる。

#### 第356A・B号溝跡(第121・122図)

**位置** 調査区南部のG6b8-G8d1区で、標高27~28mの台地斜面部から平坦部にかけて位置している。

**重複関係** 第139・154号住居跡、第2号陥し穴、第1688号土坑、第354・361号溝を掘り込んでいる。

**規模と形状** 確認できた長さは61mほどで、両端ともに調査区域外に延びているが、第1次調査において延長部は確認されていない。G7d0区から北方向(N-13°-W)へ直線的に15.5m延び、G7a1区では約90度西へ屈曲し、直線的に45.5m延び、G6b8区で調査区域外に至っている。なお、南側から屈曲部までは、AとBの2条に分かれているが、併存していたか否かについては不明である。上幅は0.60~1.98m、下幅0.20~0.66mで、東西方向が幅広である。深さは15~55cmで、底面の標高はコーナー部が最も高く、南端部との比高は0.24m、西端部との比高は1.53mである。断面形はU字状か逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** A-A'は4層、B-B'、C-C'はともに5層に分層される。ロームブロックを含んでいる層もあるが、レンズ状の堆積から自然堆積である。

##### 土層解説(A-A')

- |                    |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量      | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     |

##### 土層解説(B-B')

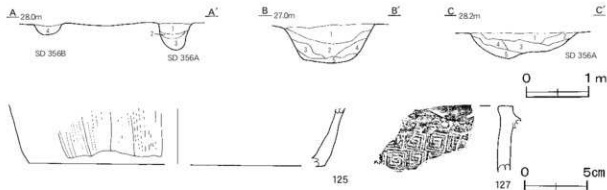
- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量             | 5 灰褐色 砂粒少量       |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |                  |

##### 土層解説(C-C')

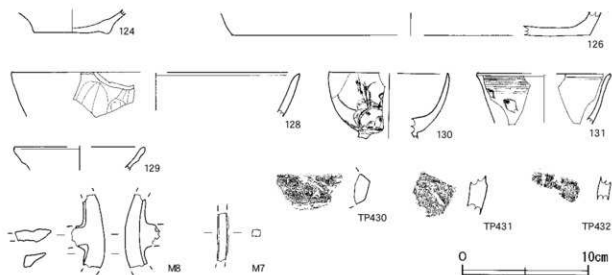
- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量     | 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量      | 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |                             |

**遺物出土状況** 土師質土器片11点(小皿1、火鉢1、鍋5、不明4)、陶器片3点(小皿1、碗2)、磁器片5点(碗)、鉄製品2点(釘・簧)が、覆土中から出土している。ほかに周囲の遺構から流れ込んだ縄文土器片85点、土師器片105点、埴輪片3点、尖頭器1点も出土している。

**所見** 第1次調査区から延長部が確認されていないことから、性格については不明であるが、何らかの区画溝と考えられる。時期は、出土土器から近世とみられる。



第121図 第356A・B号溝跡・出土遺物実測図



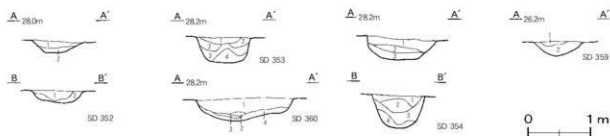
第122図 第356A・B号溝跡出土遺物実測図

第356A号溝跡出土遺物観察表 (第121・122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
124	土師質土器	小皿	-	(1.8)	6.0	細砂・スコリア	橙	普通	器面剥落により調整不明	覆土中	30%
125	土師質土器	鍋 <small>ハ</small>	-	(4.6)	[23.5]	砂粒・雲母・スコリア	にふい赤褐	普通	外面縦位のハケ目 内面ロクロナデ	覆土中	5%
126	土師質土器	鍋 <small>ハ</small>	-	(1.8)	[28.6]	長石・石英・角閃石	にふい赤褐	普通	外面ロクロナデ	覆土中	5%
127	土師質土器	火鉢	-	(5.2)	-	砂粒・雲母・スコリア	にふい橙	普通	口縁下に凸帯 雷文押印	覆土中	5%
128	青磁	碗	[23.0]	(3.5)	-	細砂	オリーブ灰	堅緻	外・内面青磁釉 蓮弁文	覆土中	5% PL24
129	陶器	小皿	[10.4]	(1.8)	-	細砂	にふい黄	普通	外・内面灰釉 ロクロナデ	覆土中	5%
130	磁器	碗	[9.6]	(5.1)	-	緻密	灰白	普通	染め付け	覆土中	10%
131	磁器	碗	[10.4]	(3.9)	-	緻密	灰白	普通	染め付け	覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
TP430	埴輪	円筒	長石・石英・雲母	にふい赤褐	普通	凸帯部横ナデ	覆土中	
TP431	埴輪	円筒	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	1 cm あたり 9 本の縦ハケ	覆土中	
TP432	埴輪	円筒	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	1 cm あたり 9 本の縦ハケ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	釘	(3.9)	0.8	0.5	(4.78)	鉄	両端部欠損	覆土中	
M8	簧	5.8	1.4	0.9	(30.4)	鉄	推定径14.6cmの円形 中央部に向かって幅1.6cmの棧	覆土中	



第123図 第352～354・359・360号溝跡実測図

第352号溝跡土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第353号溝跡土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

4 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第354号溝跡土層解説 (A-A')

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第354号溝跡土層解説 (B-B')

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・砂粒微量

4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

第359号溝跡土層解説

1 灰褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・砂粒微量

2 灰褐色 砂粒少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第360号溝跡土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量

4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量



第124図 第353・354号溝跡出土遺物実測図

第353号溝跡出土遺物観察表 (第124図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M9	釘	(4.2)	0.5	0.3	(3.58)	鉄	両端部欠損	覆土中	

第354号溝跡出土遺物観察表 (第124図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
122	土師質土器	小皿	-	(1.3)	[4.0]	細砂・スコリア	橙	普通	外・内面ともロクロナテ 底部回転糸切り	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M6	板状品	(2.4)	1.6	0.2	(1.26)	鉄	一方が撥形に広がる	覆土中	

表11 中・近世溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模 (m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長さ	上幅	下幅	深さ					
352	G 8 a5-G 8 e5	N-3°-E	U字形	(15.1)	0.92-0.50	0.73-0.32	15~20	横斜	平坦	人為	土師質土器・陶器	SK164・1646→本跡
353	F 8 15-G 8 c5	N-0°	逆台形	(11.25)	0.88-0.57	0.75-0.40	20~38	外傾	平坦	人為	土師質土器・陶器・瓦・鉄製品	SI153→本跡
354	F 7 d8-G 7 d0	N-13°-W	U字形	(39.60)	1.60-0.60	0.8-0.2	35	横斜	浅いU字	自然	土師質土器・陶器・鉄製品	本跡→SD356A
356A	G 6 b8-G 8 d1	N-80°-E	U字形	(59.80)	1.98-0.60	0.66-0.20	15~55	外傾	平坦	人為	土師質土器・陶器・鉄製品	SD354→本跡
356B	G 7 a9-G 8 d1	N-13°-W	U字形	(11.50)	0.65-0.40	0.30-0.18	11~19	横斜	浅いU字	自然		SI139→本跡
359	F 6 e0-F 7 d1	N-78°-W	U字形	(4.68)	0.77-0.64	0.32-0.17	22	横斜	浅いU字	人為	土師質土器	
360	G 8 c3-G 8 d4	N-13°-E	逆台形	(4.55)	1.90-0.90	0.93-0.40	21~33	横斜	浅いU字	人為	土師質土器・土師	本跡→SK1674

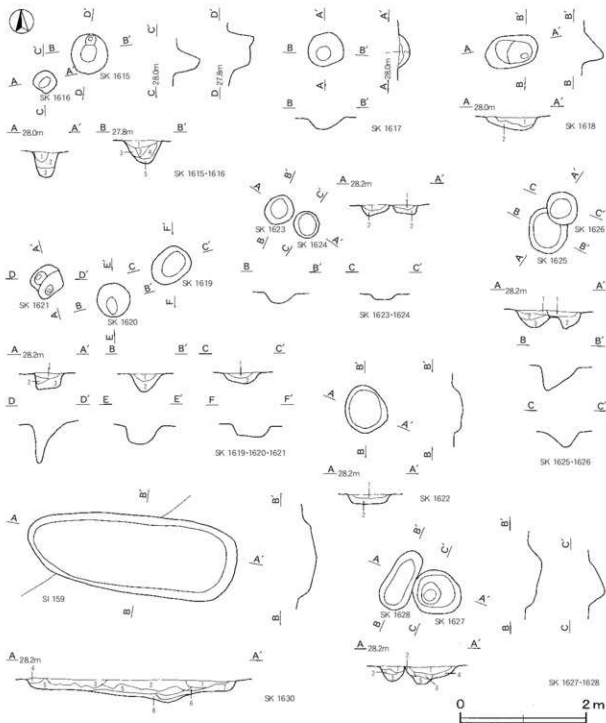


## 6 その他の遺構と遺物

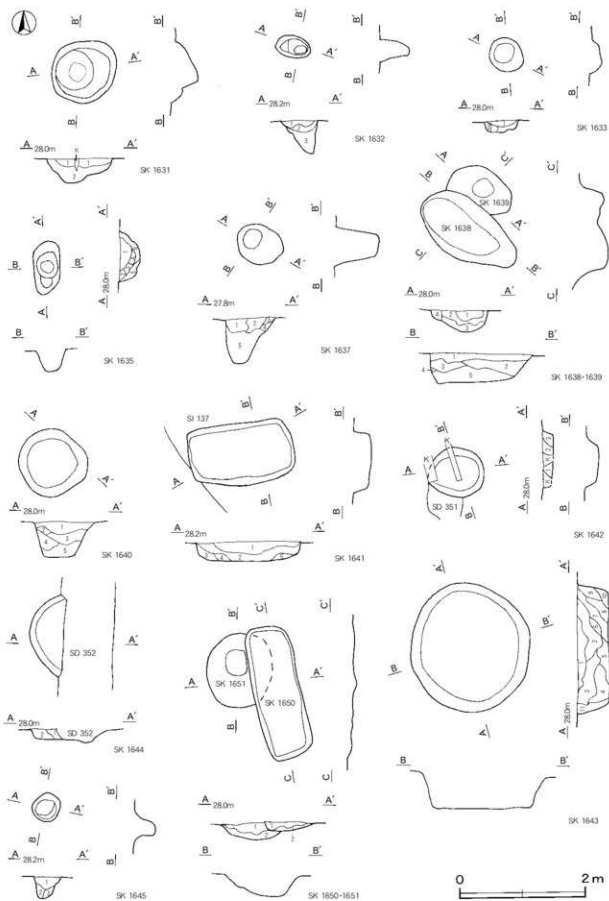
遺物が出土していないことなどから時期を決定できない遺構として、土坑66基、溝跡6条、ピット群3か所が存在する。以下、それらの遺構については、実測図と一覧表を掲載する。

### (1) 土坑 (第125～129図)

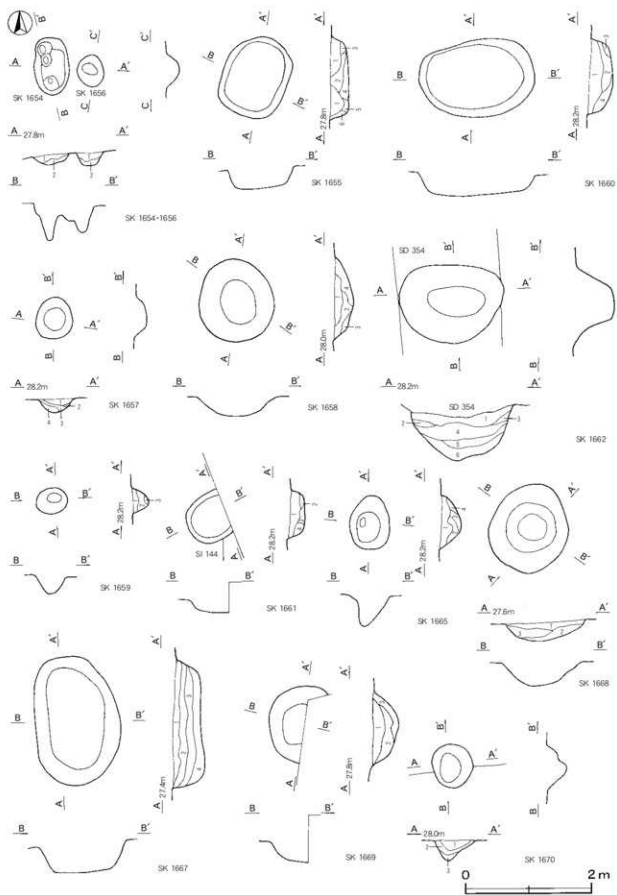
今回の調査で、時期・性格ともに不明の土坑66基が確認されている。これらの土坑については、規模・形状等について一覧表と実測図を掲載するにとどめる。



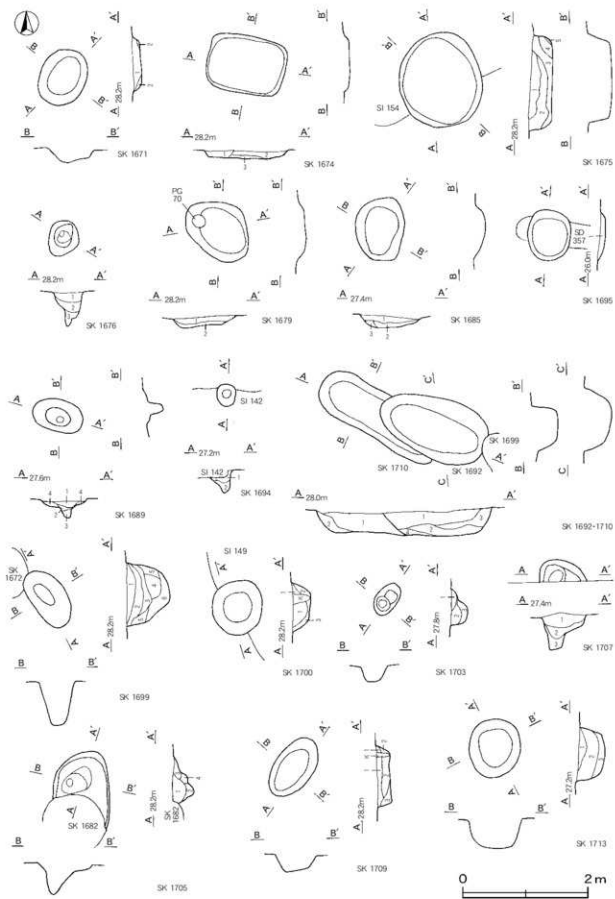
第125図 時期不明土坑実測図(1)



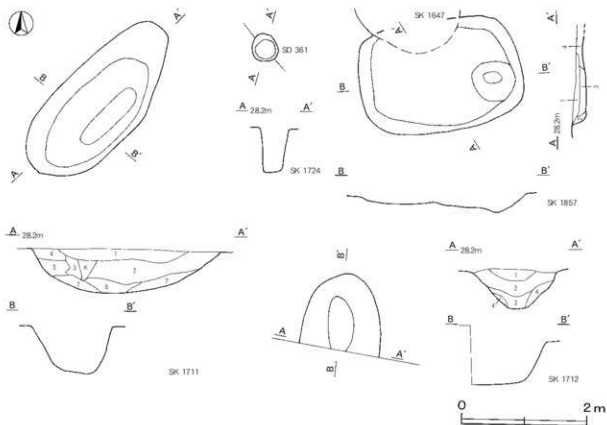
第126图 时期不明土坑实测图(2)



第127图 时期不明土坑实测图(3)



第128图 时期不明土坑实测图(4)



第129図 時期不明土坑実測図(5)

第1615号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量

第1616号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第1617号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

第1618号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子少量・焼土粒子微量

第1619号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量

第1620号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量・焼土粒子微量

- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量

第1621号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量・焼土粒子微量

第1622号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量・炭化粒子微量

第1623号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

第1624号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量

**第1625号土坑土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第1626号土坑土層解説**

- 1 極暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

**第1627号土坑土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
3 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 4 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
5 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第1628号土坑土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

- 3 黒 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

**第1630号土坑土層解説**

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
3 灰 褐色 ロームブロック・炭化粒子・炭化粒子微量  
4 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

- 5 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
6 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量  
7 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
8 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第1631号土坑土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

- 2 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**第1632号土坑土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量  
2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

- 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

**第1633号土坑土層解説**

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
2 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第1635号土坑土層解説**

- 1 暗 褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量  
2 灰 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

- 4 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
5 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量  
6 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量

**第1637号土坑土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
3 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

- 4 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量  
5 褐 色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

**第1638号土坑土層解説**

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
3 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量

- 4 褐 色 ロームブロック少量  
5 褐 色 ロームブロック中量

**第1639号土坑土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量  
2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

- 3 褐 色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量  
4 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第1640号土坑土層解説**

- 1 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量  
2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
3 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

- 4 褐 色 ロームブロック微量  
5 褐 色 ロームブロック少量

**第1641号土坑土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
3 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

- 4 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量(締まりが弱い)  
5 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第1642号土坑土層解説**

- 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

- 3 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第1643号土坑土層解説**

- 1 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量  
2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
3 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
4 暗 褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量  
5 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量  
6 暗 褐色 ロームブロック少量

- 7 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
8 褐 色 ロームブロック微量  
9 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
10 暗 褐色 ロームブロック少量  
11 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第1644号土坑土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

**第1645号土坑土層解説**

- 1 極暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗 褐色 ロームブロック少量

- 3 褐 色 ロームブロック少量

**第1650号土坑土層解説**

1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第1651号土坑土層解説**

1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 2 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**第1654号土坑土層解説**

1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗 褐色 ロームブロック少量

**第1655号土坑土層解説**

1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 4 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子微量  
2 褐 色 ロームブロック中量 5 褐 色 ロームブロック微量  
3 暗 褐色 ローム粒子少量 6 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**第1656号土坑土層解説**

1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 2 褐 色 ロームブロック微量

**第1657号土坑土層解説**

1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 3 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**第1658号土坑土層解説**

1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量  
2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 4 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**第1659号土坑土層解説**

1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 3 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量

**第1660号土坑土層解説**

1 黒 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 3 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
2 黒 色 炭化物中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量 4 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量

**第1661号土坑土層解説**

1 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**第1662号土坑土層解説**

1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 4 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 5 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
3 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 6 褐 色 ロームブロック少量

**第1665号土坑土層解説**

1 極暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 3 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 4 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

**第1667号土坑土層解説**

1 灰 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量  
2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 4 黒 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

**第1668号土坑土層解説**

1 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 灰 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第1669号土坑土層解説**

1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 3 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量  
2 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第1670号土坑土層解説**

1 褐 灰 色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 3 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
2 灰 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**第1671号土坑土層解説**

1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第1674号土坑土層解説**

1 黒 褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量 3 極暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量

**第1675号土坑土層解説**

1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 4 暗 褐色 ロームブロック微量  
2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 5 褐 色 ロームブロック微量  
3 暗 褐色 ローム粒子微量

**第1676号土坑土層解説**

1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 3 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第1679号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1685号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量  
2 褐色 ロームブロック微量

第1689号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量 3 褐色 ローム粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量 4 褐色 ロームブロック少量

第1692号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 4 褐色 ロームブロック少量

第1694号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ロームブロック微量 2 暗褐色 ロームブロック少量

第1695号土坑土層解説

- 1 灰褐色 粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量

第1699号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 5 褐色 ローム粒子少量  
3 暗褐色 ローム粒子微量 6 明褐色 ロームブロック中量

第1700号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 3 褐色 炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量

第1703号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ロームブロック微量 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1705号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量 4 褐色 ロームブロック微量

第1707号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第1709号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量  
2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1710号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量 2 褐色 焼土粒子・ローム粒子微量

第1711号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 6 褐色 ロームブロック微量  
3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 7 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
4 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1712号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

第1713号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量 3 褐色 ローム粒子微量  
2 褐色 ロームブロック微量

第1857号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 4 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

表12 時期不明土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m、深さ±2 cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1615	F 8 d 2	楕円形	N-4°-E	0.64×0.57	37	直立	平垣	人為		
1616	F 8 d 2	隅丸方形	N-46°-E	0.34×0.33	42	外傾	皿状	人為		
1617	F 8 e 1	円形	-	0.59×0.55	19	緩斜	平垣	自然		

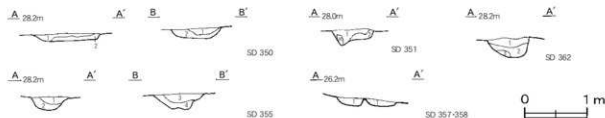


番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m, 深さは cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1618	F 8 g 3	楕円形	N-69°-E	0.86×0.53	34	外傾	有段	自然	縄文土器・土師器	
1619	F 8 f 2	楕円形	N-41°-E	0.65×0.52	20	緩斜	平坦	自然		
1620	F 8 g 2	円形	-	0.55×0.50	31	外傾	皿状	自然	弥生土器	
1621	F 8 f 2	不整形	-	0.55×0.52	40-63	直立	有段	人為	縄文土器・土師器	
1622	F 8 f 2	楕円形	N-11°-W	0.75×0.66	15	外傾	平坦	自然		
1623	F 8 g 1	円形	-	0.48×0.45	17	緩斜	平坦	自然	縄文土器・土師器	
1624	F 8 g 2	円形	-	0.43×0.40	16	緩斜	平坦	自然		
1625	F 8 f 1	楕円形	N-9°-W	0.72×0.62	40	直立	皿状	人為	縄文土器・土師器	本跡→SKI626
1626	F 8 f 1	円形	-	0.55×0.52	28	外傾	皿状	人為	縄文土器・土師器	SK1625→本跡
1627	F 8 g 1	楕円形	N-55°-W	0.80×0.72	27	緩斜	皿状	人為	縄文土器	SI159→本跡
1628	F 8 g 1	楕円形	N-30°-E	1.00×0.48	24	緩斜	皿状	人為	縄文土器・土師器・銅片	SI159→本跡
1630	F 7 f 0	隅丸長方形	N-82°-W	3.36×1.25	26	緩斜	平坦	人為	縄文土器・石鏃・銅片	SI159→本跡
1631	F 7 f 8	楕円形	N-60°-E	1.10×0.96	39	緩斜	皿状	自然	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器	
1632	F 7 f 9	楕円形	N-72°-W	0.55×0.37	52	外傾	皿状	自然	縄文土器	
1633	F 7 f 8	楕円形	N-48°-W	0.78×0.52	19	緩斜	皿状	人為		
1635	F 7 g 6	楕円形	N-12°-E	0.86×0.43	36	外傾	皿状	人為		
1637	F 7 e 6	楕円形	N-64°-W	0.76×0.60	70	外傾	皿状	人為	縄文土器・土師器	
1638	F 8 e 1	楕円形	N-52°-W	1.73×0.92	52	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK1639→本跡
1639	F 8 e 1	楕円形	N-60°-W	1.08×(0.55)	41	外傾	皿状	人為		本跡→SKI638
1640	F 7 d 0	円形	-	1.11×1.07	57	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI136→本跡
1641	G 8 b 3	長方形	N-78°-E	1.68×0.98	28	外傾	平坦	人為	土師器・須恵器・銅片	SI137→本跡
1642	G 8 e 6	楕円形	N-72°-E	0.90×0.80	21	外傾	平坦	人為		SD351→本跡
1643	G 8 c 6	円形	-	2.06×1.95	53	外傾	平坦	人為	縄文土器・土師器・銅片	
1644	G 8 d 5	[円形]	-	1.30×(0.53)	15	緩斜	平坦	人為		本跡→SD352
1645	G 8 d 4	円形	-	0.46×0.43	34	外傾	皿状	人為	縄文土器	
1650	F 7 f 7	長方形	N-13°-W	2.11×0.73	12	外傾	平坦	人為		SK1651→本跡
1651	F 7 f 7	楕円形	N-11°-E	1.17×(0.7)	32	緩斜	皿状	人為	土師器	本跡→SK1650
1654	F 7 g 5	楕円形	N-6°-E	0.92×0.55	44-56	外傾	皿状	人為		
1655	F 7 f 6	隅丸長方形	N-19°-E	1.30×1.03	33	外傾	平坦	人為		
1656	F 7 g 5	楕円形	N-7°-E	0.50×0.43	22	緩斜	皿状	人為		
1657	F 8 h 1	円形	-	0.65×0.58	20	緩斜	皿状	人為		
1658	F 7 g 7	楕円形	N-9°-W	1.35×1.20	27	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
1659	F 8 h 1	楕円形	N-66°-E	0.52×0.43	27	外傾	皿状	人為		
1660	F 8 i 4	楕円形	N-72°-E	1.84×1.23	37	外傾	平坦	人為	縄文土器・土師器	SI144→本跡
1661	F 8 j 5	[円形]	-	0.75×(0.54)	21	緩斜	平坦	人為	縄文土器・土師器	SI144→本跡
1662	F 7 g 8	楕円形	N-71°-E	1.75×1.27	61	外傾	皿状	自然	縄文土器	SI160→本跡→SD354
1665	F 8 j 4	楕円形	N-11°-E	0.85×0.61	48	外傾	皿状	人為	縄文土器・土師器	
1667	F 7 g 4	楕円形	N-5°-W	2.05×1.33	45	外傾	平坦	人為	土師器	
1668	F 7 h 5	楕円形	N-20°-E	1.45×1.25	39	緩斜	皿状	人為	縄文土器・土師器	
1669	F 7 g 5	[楕円形]	N-10°-E	1.23×(0.55)	30	緩斜	皿状	人為	土師器・金属製品	
1670	F 8 g 1	円形	-	0.69×0.63	32	外傾	有段	人為		SI135→本跡
1671	G 8 c 2	楕円形	N-41°-E	0.90×0.72	21	緩斜	平坦	人為	縄文土器・土師器	
1674	G 8 d 4	長方形	N-77°-W	1.24×0.90	10	外傾	平坦	人為	縄文土器・弥生土器・土師器	
1675	G 8 a 9	楕円形	N-5°-E	1.51×1.34	35	外傾	平坦	自然	縄文土器	本跡→SI154
1676	G 8 a 4	楕円形	N-31°-E	0.40×0.39	55	直立	有段	人為		SI137→本跡
1679	G 7 c 9	楕円形	N-57°-W	1.15×0.89	20	緩斜	平坦	人為		SI156→本跡→PG70
1685	G 7 c 2	楕円形	N-20°-E	1.05×0.75	18	緩斜	皿状	人為		

番号	位置	平面形	長径方向	規模 (m, 深さは cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (旧→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1689	G 7 a 3	楕円形	N-78°-W	0.77×0.50	35	外傾	皿状	人為		本跡→SK1688
1692	G 8 c 3	楕円形	N-71°-W	1.75×0.95	41	緩斜	平坦	人為		SK1710→本跡→SK1699-SD061
1694	G 6 c 9	楕円形	N-4°-W	0.37×0.28	17	外傾	皿状	人為		SI142→本跡
1695	F 6 d 0	楕円形	N-17°-W	0.81×0.70	8	緩斜	平坦	人為		SD357→本跡
1699	G 8 c 3	楕円形	N-35°-W	1.00×0.57	70	外傾	皿状	人為	縄文土器・土師器・羽片	SD361・SK1692→本跡
1700	F 8 i 2	円形	-	0.87×0.80	25	外傾	平坦	人為	縄文土器・土師器	SI149→本跡
1703	G 7 d 7	楕円形	N-40°-E	0.55×0.35	10-25	外傾	有段	人為		SI151→本跡
1705	G 7 c 9	楕円形	N-2°-E	(1.25)×0.88	50	外傾	皿状	人為		本跡→SK1682
1707	G 7 d 1	[円形]	-	0.72×(0.35)	52	外傾	皿状	人為	縄文土器	
1709	G 8 d 3	楕円形	N-32°-E	1.04×0.63	25	外傾	平坦	人為		
1710	G 8 b 3	[楕丸長方形]	N-63°-W	(2.15)×0.70	36	外傾	平坦	自然	縄文土器・土師器・羽片	本跡→SK1692-6 D361
1711	G 8 c 2	楕円形	N-43°-E	3.00×1.31	75	緩斜	皿状	自然	縄文土器・土師器	
1712	G 8 d 4	[楕円形]	N-5°-E	(1.20)×1.30	65	外傾	平坦	自然	縄文土器・土師器	SI155→本跡
1713	G 7 d 1	楕円形	N-27°-W	0.91×0.80	45	外傾	平坦	人為		
1724	G 8 c 3	楕円形	N-27°-W	0.46×0.41	70	直立	平坦	不明		SD361→本跡
1857	F 7 i 9	[楕丸長方形]	N-82°-E	2.60×1.70	15-30	緩斜	平坦	人為	縄文土器・土師器	SK1647

## (2) 溝跡

今回の調査で、時期不明の溝跡6条が確認されている。いずれも遺構に伴う出土遺物がなく、性格も不明である。規模等については一覧表で、土層断面図(第130図)と土層解説については遺構順に掲載し、平面図については遺構全体図(第4図)で掲載するにとどめる。



第130図 時期不明溝跡実測図

### 第350号溝跡土層解説

A-A'

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量

B-B'

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

### 第351号溝跡土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

### 第355号溝跡土層解説

1 暗褐色 焼土粒子微量

2 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量

4 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

### 第357号溝跡土層解説

1 灰褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量

### 第358号溝跡土層解説

1 灰褐色 砂粒少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

### 第362号溝跡土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

3 褐色 ローム粒子少量

表13 時期不明溝跡一覧表

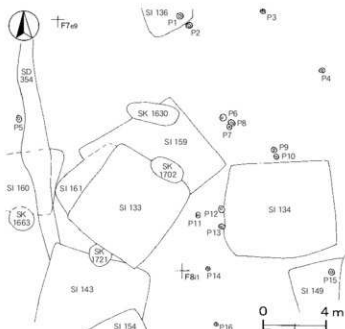
番号	位置	方向	断面形	規模 (m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長さ	上幅	下幅	深さ					
350	F7 10-G8 d5	N-45°-W	U字形	(26.40)	1.06-0.67	0.97-0.50	11~20	縦斜	平埋	人為	縄文土器・土師器	
351	G8 e6	N-8°-E	逆台形	(1.05)	0.55-0.35	0.43-0.10	16	外傾	平埋	人為		本跡→SK1642
355	F8 h3-F8 h4	N-89°-E	U字形	(7.30)	0.81-0.59	0.39-0.23	16~23	縦斜	浅いU字	自然	縄文土器・土師器	SI144→本跡
357	F6 d0-F7 d2	N-81°-W	逆台形	6.34	0.54-0.35	0.28-0.15	12	外傾	平埋	人為	縄文土器	本跡→SK1695
358	F6 d0-F7 d2	N-78°-W-E	逆台形	(8.90)	0.52-0.32	0.32-0.14	9	外傾	平埋	人為	土師器	
362	G7 a0-G7 d0	N-17°-E	U字形	(13.45)	0.60-0.40	0.20-0.12	15~33	縦斜	浅いU字	不明		

(3) ビット群

今回の調査で、南部、北東部及び南西部の3か所でビット群が確認された。いずれも建物跡を想定できるような配置ではなく、時期も不明である。ここでは、ビット群ごとにビット計測表と平面図を掲載する。

第68号ビット群 (第131図)

調査区北東部のF7 d0～F8 i3区にかけての東西20m、南北20mの範囲から、柱穴状のビット16か所が確認された。平面形は長径25～50cmの円形あるいは楕円形で、深さは12～64cmである。分布状況から建物は想定できない。覆土中から縄文土器片や土師器片が出土しているビットもあるが、時期・性格ともに不明である。



第131図 第68号ビット群実測図

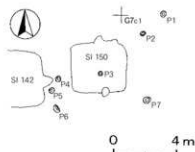
ビット計測表

単位は cm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	43	40	46	7	45	30	16	13	37	27	30
2	50	33	35	8	34	32	35	14	25	25	12
3	36	30	27	9	40	35	25	15	32	31	21
4	39	30	26	10	31	30	64	16	27	25	21
5	40	35	40	11	34	30	26				
6	45	40	16	12	39	38	37				

第69号ビット群 (第132図)

調査区南西部のG7 c1～G7 d1にかけての東西8m、南北6mの範囲から、柱穴状のビット7か所が確認さ



第132図 第69号ピット群実測図

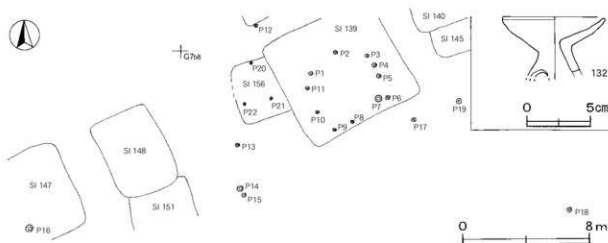
れた。平面形は長径28~50cmの円形あるいは楕円形で、深さは13~35cmである。分布状況から建物は想定できない。覆土中から縄文土器片が出土しているピットもあるが、時期・性格ともに不明である。

ピット計測表						単位は cm		
番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	
1	41	41	18	5	33	33	16	
2	28	26	28	6	50	34	13	
3	31	25	16	7	40	36	35	
4	40	35	13					

### 第70号ピット群 (第133図)

調査区南部の G7 a9~ G8 d4区にかけての東西22m、南北12mの範囲から、柱穴状のピット22か所が確認された。平面形は長径19~41cmの円形あるいは楕円形で、深さは10~59cmである。大部分は第139号住居跡内にあり、径5mほどの円形状に分布しているが、第139号住居より新しいものである。覆土中から土師器片が出土しているピットもあるが、時期・性格ともに不明である。

ピット計測表										単位は cm		
番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	
1	23	23	12	9	23	22	16	17	23	22	30	
2	23	23	31	10	20	18	12	18	25	25	12	
3	19	18	16	11	21	19	13	19	28	25	52	
4	27	24	49	12	21	19	32	20	18	15	43	
5	25	23	10	13	21	20	38	21	19	18	59	
6	27	21	25	14	40	40	42	22	18	16	54	
7	41	40	29	15	28	26	22					
8	20	19	11	16	38	26	22					



第133図 第70号ピット群・出土遺物実測図

### 第70号ピット群出土遺物観察表 (第133図)

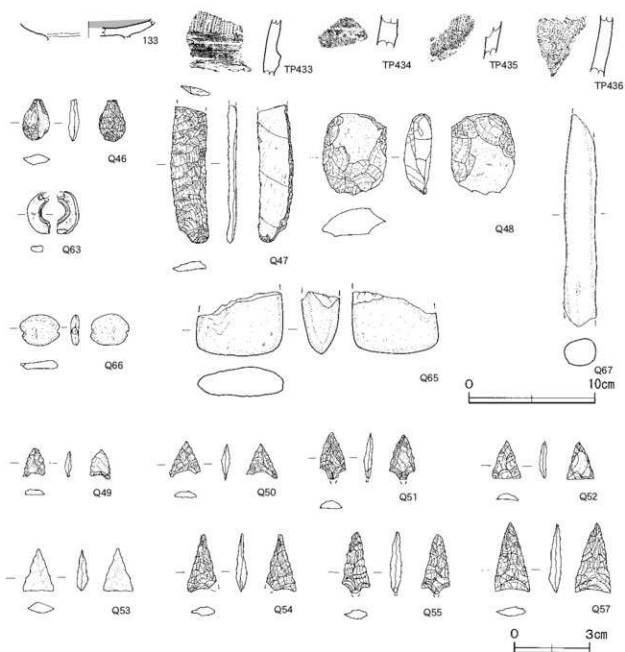
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴はか	出土位置	備考
132	土師器	器台	8.0	(4.6)	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐色	普通	坏部外面へラナデ 内面へラ磨き	ピット17	80% PL24

表14 時期不明ピット群一覧表

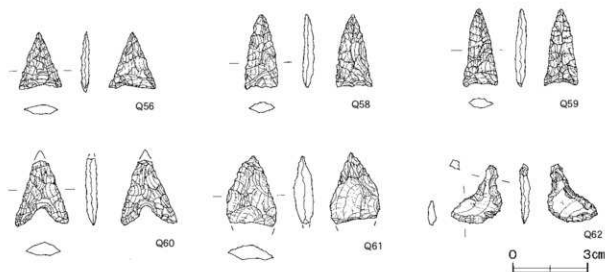
番号	位置	柱穴 (長さの単位は cm)					出土遺物	備考
		柱穴数	平面形	長径	短径	深さ		
68	F 7 d0-F 8 i3	16	円形・楕円形	25~50	25~40	12~64	縄文土器・土師器	
69	G 7 c1-G 7 d1	7	円形・楕円形	28~50	25~41	13~35	縄文土器	
70	G 7 a9-G 8 44	22	円形・楕円形	19~41	15~40	10~59	土師器	

(4) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した陶器・埴輪・石器などの遺構に伴わない遺物について、実測図 (第134・135図) と観察表を掲載する。



第134図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第135図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表(第134・135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
133	灰輪陶器	高台付柄	-	(1.4)	-	細砂	灰黄	普通	外・内面口クロナデ 内面施軸	SI139	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
TP433	埴輪	円筒	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	凸帯台形状 1 cm あたり 5本の縦ハケ	表土	
TP434	埴輪	円筒	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	凸帯割落 1 cm あたり 9本の縦ハケ	表土	
TP435	埴輪	円筒	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	1 cm あたり 8本の縦ハケ	表土	
TP436	須恵器	壺	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面同心円叩き 内面無文の当て具痕	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q46	スクレイパー	3.2	2.1	0.8	5.5	安山岩	押圧剥離による調整	表土	PL26
Q47	石匙	(10.8)	2.8	0.9	(23.4)	珪質頁岩	表面は押圧剥離による調整 表面は傾斜部のみ調整	表土	PL26
Q48	打撃石斧	6.4	5.1	2.0	83.6	泥岩	両面に礫面を残して加工	表土	PL25
Q49	石鏃	1.1	0.9	0.2	0.20	チャート	押圧剥離による調整	表土	PL25
Q50	石鏃	1.4	1.2	0.3	0.27	チャート	押圧剥離による調整	SI44	PL25
Q51	石鏃	1.8	1.0	0.3	0.50	安山岩	押圧剥離による調整	SI135	PL25
Q52	石鏃	1.4	1.1	0.2	0.32	チャート	押圧剥離による調整	SI49	PL25
Q53	石鏃	1.6	1.2	0.4	0.51	トトロ石	調整痕不明	SI133	PL25
Q54	石鏃	2.2	(1.1)	0.3	(0.69)	安山岩	押圧剥離による調整	SI133	PL25
Q55	石鏃	(2.25)	1.1	0.42	(0.55)	瑪瑙	押圧剥離による調整	SI40	PL25
Q56	石鏃	2.18	1.69	0.29	0.76	チャート	押圧剥離による調整	SI135	PL25
Q57	石鏃	2.64	1.34	0.36	1.02	安山岩	押圧剥離による調整	SI47	PL25
Q58	石鏃	2.78	1.35	0.42	1.06	安山岩	押圧剥離による調整	SI133	PL25
Q59	石鏃	2.87	1.31	0.42	1.18	珪質頁岩	押圧剥離による調整	SD354	PL25
Q60	石鏃	(2.55)	2.14	0.48	(1.72)	チャート	押圧剥離による調整	表土	PL25
Q61	尖頭器	(2.70)	1.96	0.71	(3.06)	安山岩	押圧剥離による調整	SD356A	
Q62	石匙	2.28	2.04	0.33	0.98	黒曜石	外縁部押圧剥離による調整	SI48	PL26
Q63	塊状耳飾り	(3.3)	(1.75)	0.5	(4.0)	滑石	両面に磨痕 両面から穿孔	SI48	PL26
Q65	磨撃石斧	(5.0)	6.8	(3.0)	(133.2)	砂岩	調整痕不明 刃部摩滅	SD356A	PL25
Q66	石鏃	3.0	2.3	0.6	5.3	砂岩	両端に抉り	表土	PL26
Q67	石棒	(16.9)	2.4	2.0	(151.1)	泥岩	両端部欠損 前面磨き	表土	PL26

## 第4節 ま と め

今回の調査で、当上野古屋敷遺跡は平成12・13年度の調査で明らかにされているように旧石器時代から近世までの複合遺跡であり、遺跡がさらに北西部へ広がっていることを確認した。各時代ごとのあり方については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第285集<sup>9</sup>（以下、『第285集』と略す）において詳細に述べられているので、ここでは今回の調査によって得られた事実関係を主要な時代についてのみ記述する。

### 1 縄文時代

当時代の遺構は、標高28mの台地平坦部を中心に竪穴住居跡12軒、陥し穴3基、土坑33基が確認されているほか、西側斜面部から遺物包含層1か所が確認されている。これらの遺構からは、早期終末から前期初頭の土器を主体として、早期中葉から中期中葉までの土器が出土している。各遺構の時期は、竪穴住居跡と土坑が早期終末から前期前葉とみられるが、陥し穴については早期から中期の土器片が出土しており明確にすることはできない。遺物包含層は早期中葉から中期中葉までの土器が確認できることから、周辺に早期から中期にかけての集落の存在が想定できる。前期前半の住居跡は、第2次調査において今回の調査区域の東側にあたるG9区から確認されている。今回の調査によって、早期終末から前期前半の集落がさらに台地の西側にまで広がっていたことが明らかになった。今回の調査で確認した住居跡は、南北44m、東西36mの範囲に0.5～5mの間隔をもって分布している。中央部にやや大形の住居が存在し、その周辺に小形の住居跡が点在している。各住居跡の詳細な時期を特定できないが、住居跡の分布状況から2時期にわたるものとみられる。今回の調査区と第2次調査の調査区の間は未調査部であり、集落の全体像は明らかでないが、二つの単位集団からなる集落で、東側と西側の垂支谷が土器片などの捨て場であったことが想定できる。陥し穴は、この地が集落と前後する時期に狩猟の場であったことを物語っている。

### 2 弥生時代

当時代の遺構は、標高28mの台地平坦部から竪穴住居跡3軒が確認されている。時期は、出土土器から後期前葉とみられる。住居跡は、5～8mの間隔で南北に並んでいる。第2次調査において確認されている同時期の住居跡は、今回の調査区の南東側にあたるH10区付近から3軒、同じくH8区付近から4軒、西側にあたるG6区から1軒である。今回の調査区の内方を含めて、数軒の住居からなる単位集団が点在している状況で、住居が特に集中して集落の核になる集団はみられない。住居跡の規模は、今回調査した第145号住居跡が床面積43m<sup>2</sup>と最大で、次いで第135号住居跡の38m<sup>2</sup>で、第2次調査で確認した住居跡よりも規模は大きいことから、今回の調査で確認された住居が集落の中心であった可能性がある。住居間における重複もみられず、出土土器もおおむね同一時期であることから、1世代程度の短期の集落であったとみられる。

### 3 古墳時代

当時代の遺構は、標高28mの台地平坦部から竪穴住居跡9軒、土坑4基、溝跡1条が確認されている。住居跡の時期は、前期前半が第154号住居跡の1軒、前期中葉が第137・149号住居跡の2軒、前期後葉が第133・140・147・148号住居跡の4軒、前期後葉から中期前葉が第139号住居跡の1軒、中期後葉が第144号住居跡の1軒である。前期の住居跡は、2～8mの間隔で存在しており、主軸方向も第133号住居跡がN-34°-Eを指しているほかは、いずれもN-24°-W内外と規格性を有している。

第2次調査において確認されている同時期の住居跡は54軒で、今回の調査区の東側にあたるF9・F10区を中心として、南側のG7区や南東側のG10区などにもわずかではあるが分布している。今回の調査区とF9・F10区の間には未調査区域があり、集落としての全容は不明であるが、各々別の単位集団であったとみられ

る。当集落は、『第285集』において述べられているように、数軒からなる単位集団が複数存在した集落構造であったことは明らかである。

今回の調査において注目できることは、中期後葉の第144号住居跡が1軒ではあるが確認されたことである。この時期の住居跡が未調査区域に存在している可能性はあるが、第2次調査では確認されておらず、しかも、この住居跡はいわゆる初期竈を有しているのである。この時期の住居跡は谷を挟んで存在する上野陣場遺跡において確認されているが、初期竈を有する住居跡は存在していない。つくば市域におけるこの時代の初期竈は、高名前野東遺跡で1軒確認されているだけで、この地域における初期竈として稀少な例である。

#### 4 平安時代

当時代の遺構は、標高27.5mの台地緩斜面部から竪穴住居跡2軒が確認されている。時期は、両者ともに9世紀後葉で、約2mの間隔をもって東西に並んでいる。第2次調査において確認されている同時期の住居跡は7軒で、今回の調査区の東側にあたるG9区、H8区に分布している。第2次調査において確認されている7軒は、散在はしているものの南北70m、東西45mの範囲に在り、今回確認された2軒とは約80m離れている。当期の住居は、今回の調査で台地の西方にまで広がっていたことが明らかになった。集落構造としては、2、3軒の住居からなる単位集団が、ある程度の間隔をもって存在する散在型の集落であり、今回の調査を含めて核となるような単位集団の存在は認められない。

#### 5 中・近世

当時代の遺構は、標高28mの台地平坦部から斜面部にかけて墓坑2基、土坑6基、溝跡7条が確認されている。第1・2次調査において当時代の遺構は多数確認されており、15世紀後半から16世紀代にかけて集落が営まれていたことが明らかになっている。しかし、今回の調査では、江戸時代の墓坑2基のほかは、墓坑の可能性のある土坑数基が認められるだけで、時期・性格ともに明らかな遺構はない。特に、中世の15世紀から16世紀の遺構は明確でなく、中世において今回の調査区は集落の外周部にあっていたとみられる。

以上、述べてきたように、今回の調査区は縄文時代（前期）と弥生時代（後期）及び古墳時代（前・中期）においては系統的に集落が営まれ、それぞれ集落の中心部の一角をなしていたが、平安時代と中世以降においては集落の外周部にあっていたことが判明した。すなわち、縄文時代から古墳時代の集落は、第2次調査区よりさらに北西に延びていることが明らかになったが、集落の時期や基本的な在り方は『第285集』において述べられていることを訂正するような事実は認められなかった。

当遺跡の調査は、さらに継続して行われる予定であり、新たな事実が明らかになる可能性もあるが、各時代ともに現在までの明らかになった様相が大きく変化することはないと思われる。

#### 註

- 1) 三谷正・大塚雅昭・桑村裕「上野古屋敷遺跡1 中根・金台台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第285集 2007年3月



写 真 图 版



遺跡遠景（南方上空から）



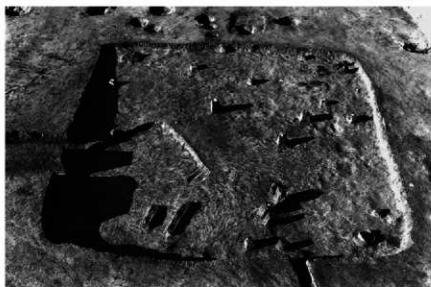
調査区（3区）全景



第146号住居跡  
完掘状況



第135号住居跡  
完掘状況



第135号住居跡  
遺物出土状況



第140・145号住居跡  
完掘状況



第133号住居跡  
完掘状況



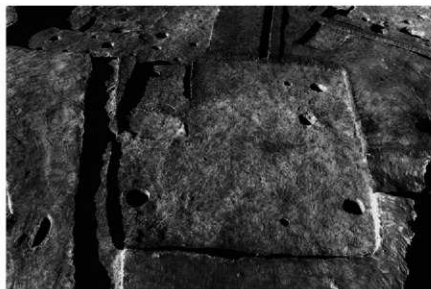
第135号住居跡 P 7 埋甕出土状況



第145号住居跡遺物出土状況



第133号住居跡  
遺物出土状況



第137号住居跡  
完掘状況



第139号住居跡  
完掘状況



第139号住居跡  
遺物出土状況



第140号住居跡  
完掘状況



第140号住居跡  
遺物出土状況



第144号住居跡  
完掘状況



第147号住居跡  
完掘状況



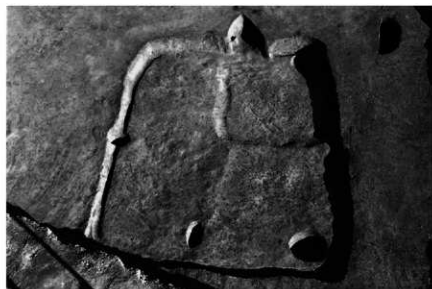
第144号住居跡電遺物出土状況



第144号住居跡貯藏穴遺物出土状況



第148号住居跡  
完掘状況



第142号住居跡  
完掘状況

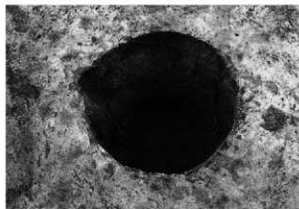


第150号住居跡  
完掘状況





第1号陥し穴完掘状況



第1652号土坑完掘状況



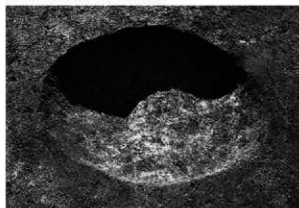
第1663号土坑完掘状況



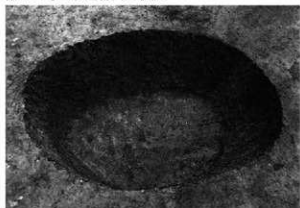
第1677号土坑遺物出土状況



第1681号土坑遺物出土状況



第1690号土坑完掘状況



第1696号土坑完掘状況



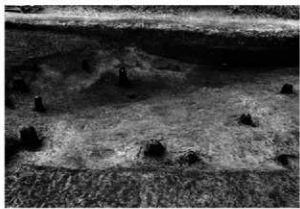
第1701号土坑遺物出土状況



第1720号土坑完掘狀況



第1721号土坑完掘狀況



第2号遺物包含層遺物出土狀況



第1649号土坑遺物出土狀況



第1697号土坑遺物出土狀況

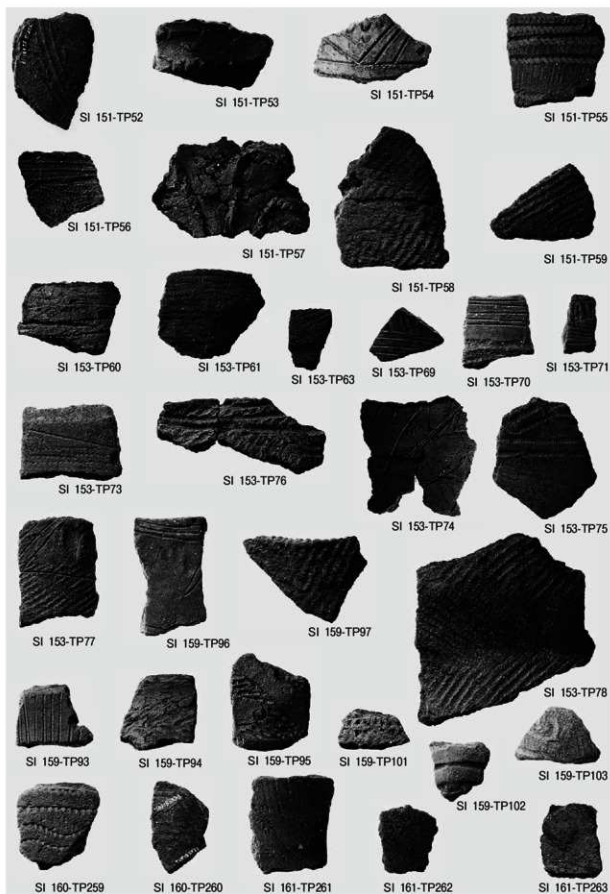


第356A号溝跡遺物出土狀況



第352・353号溝跡完掘狀況

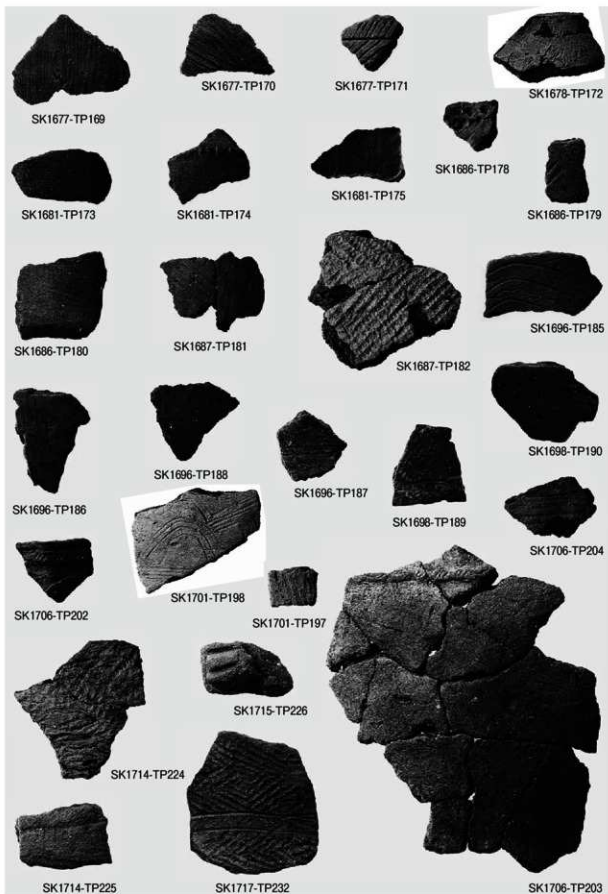


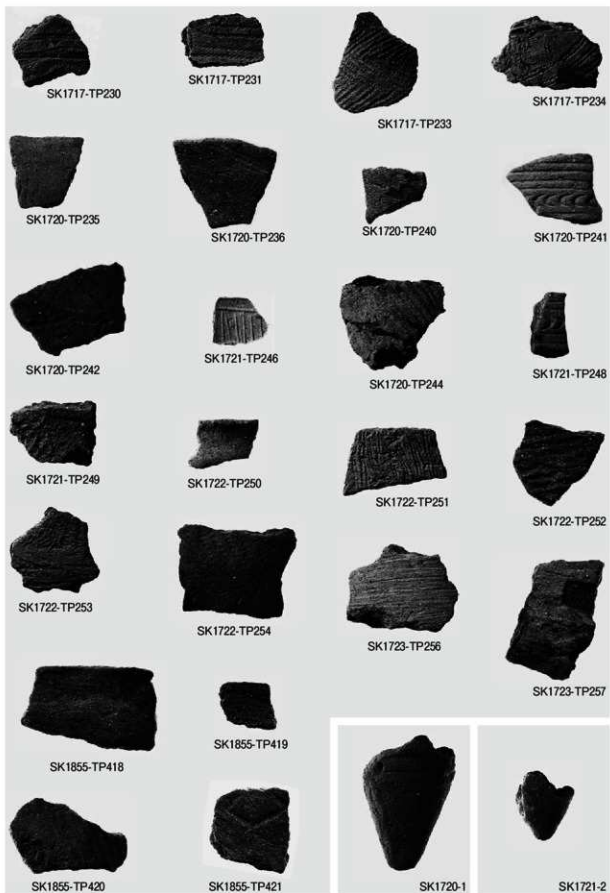


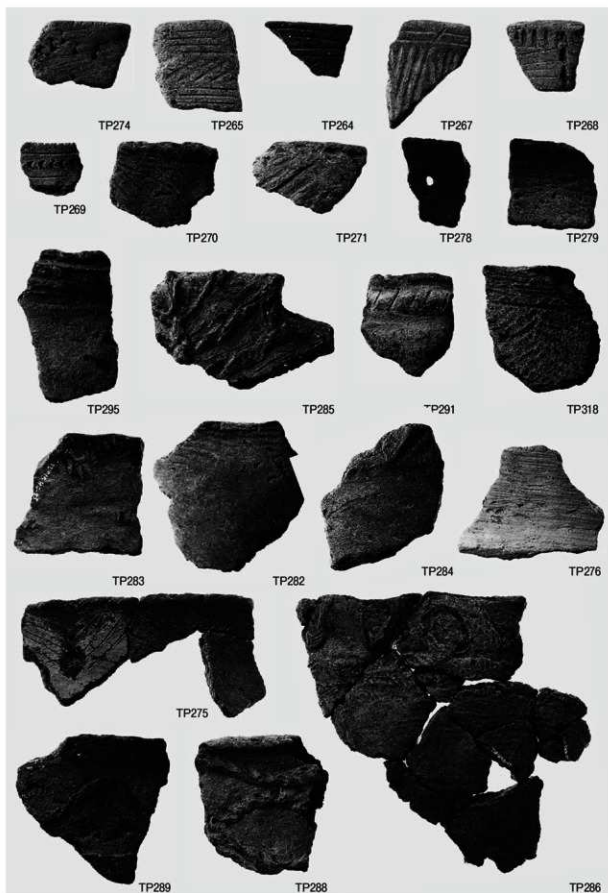
第151・153・159～161号住居跡出土遺物



第1～3号陥し穴、第1647・1663・1666・1672・1673号土坑出土遺物

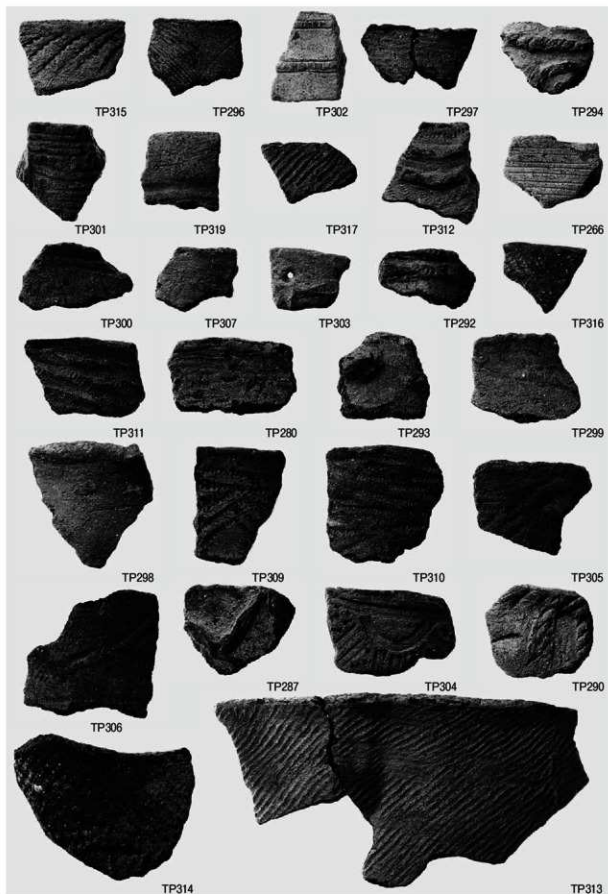




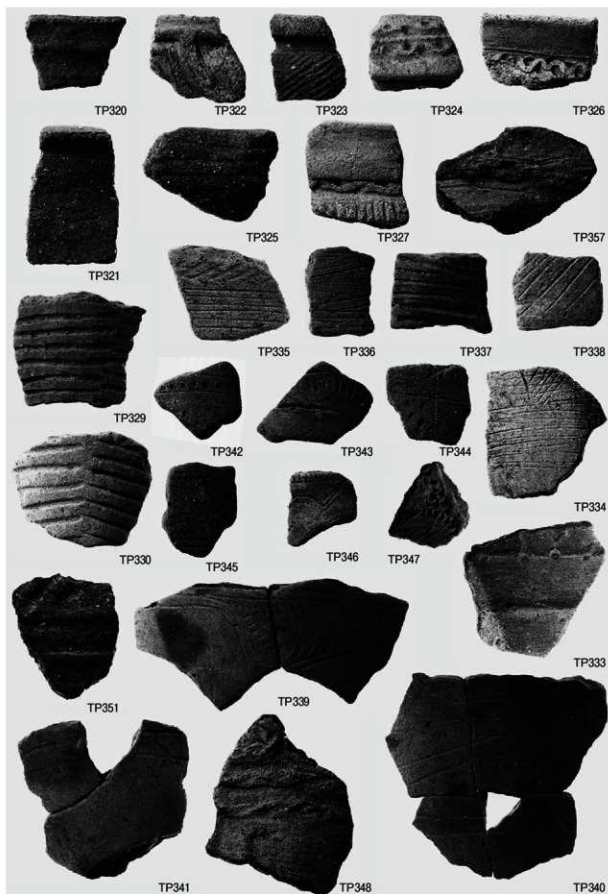


第 2 号遺物包含層出土遺物 (1)

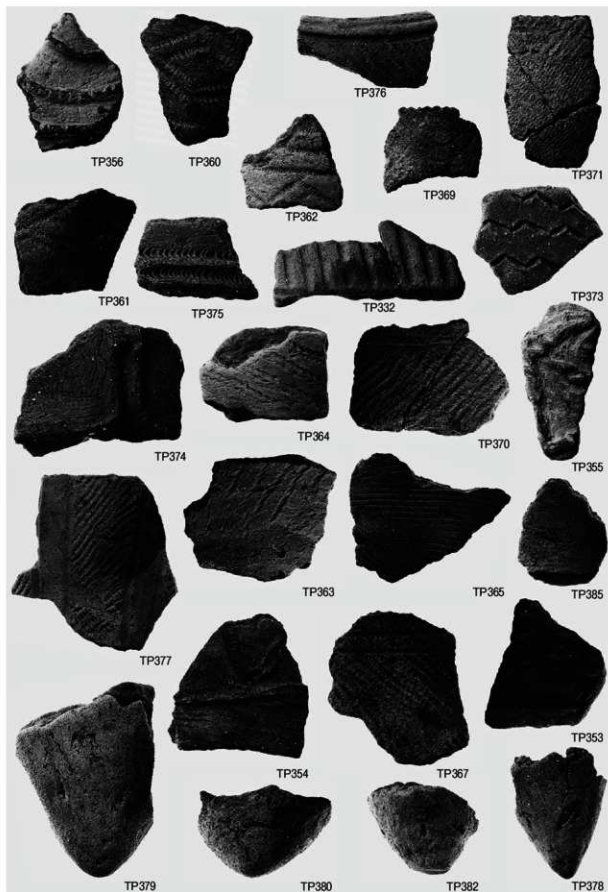




第2号遺物包含層出土遺物(2)



第 2 号遺物包含層出土遺物 (3)



第2号遺物包含層出土遺物（4）



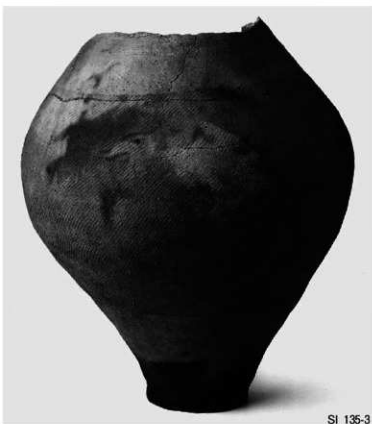
SI 135-5



SI 135-4



SI 145-8



SI 135-3



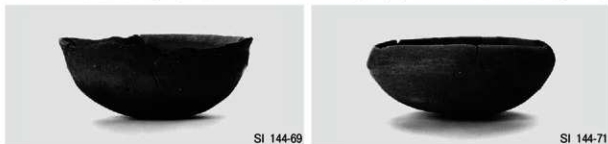
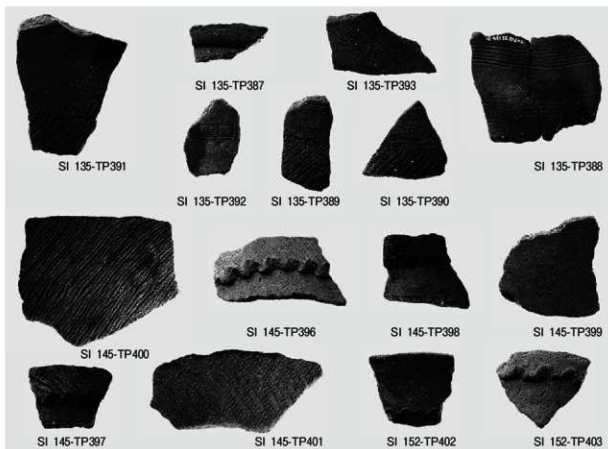
SI 152-12



SI 135-TP394

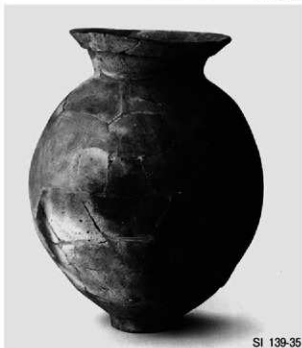


SI 135-TP395



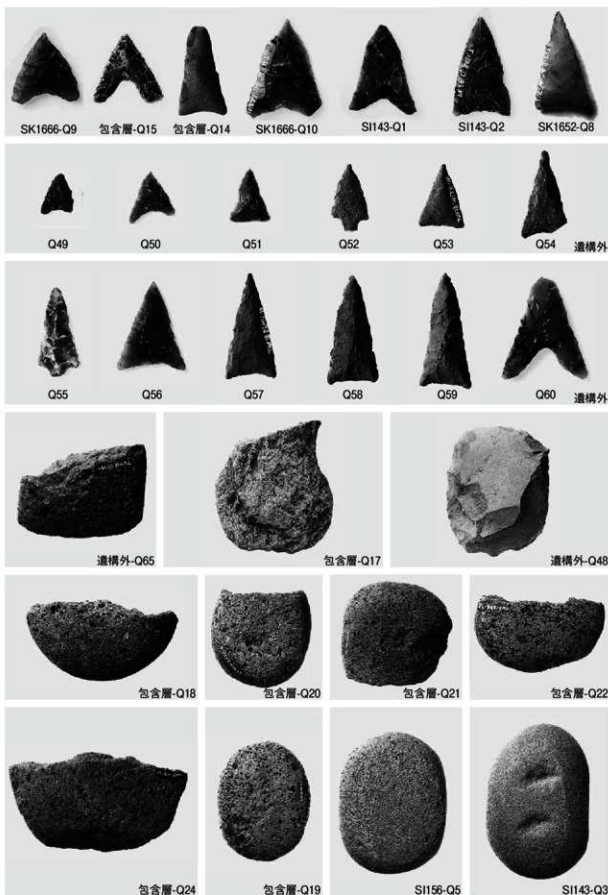




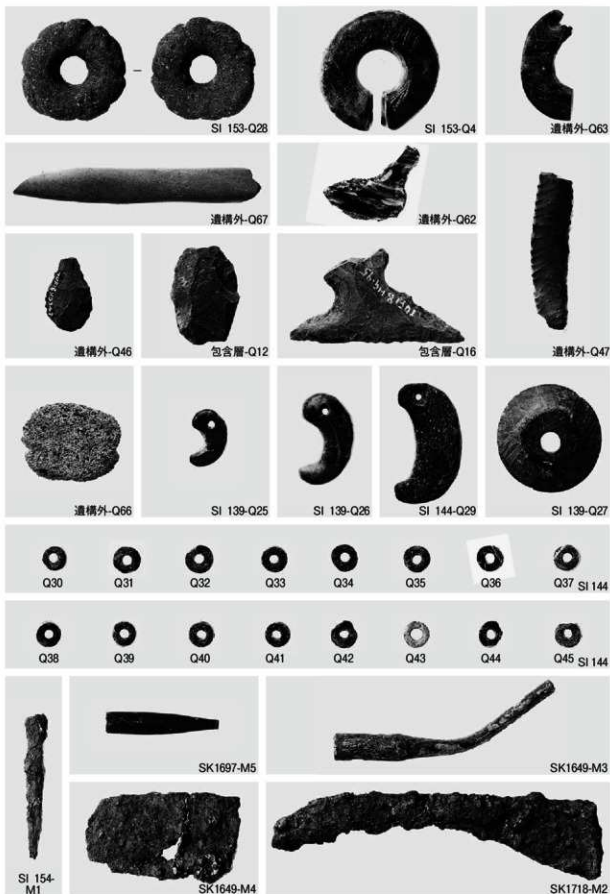








第143・156号住居跡・第1652・1666号土坑・第2号遺物包含層・遺構外出土遺物



第153・139・144・154号住居跡・第2号遺物包含層・第1718・1649・1697号土坑・遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第307集

**上野古屋敷遺跡 2**

中根・金田台特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ

平成20(2008)年3月19日 印刷  
平成20(2008)年3月24日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 イセブ  
〒305-0005 茨城県つくば市天久保2丁目11-20  
T E L 029-851-2515